

京都精華大学

展示コミュニケーションセンター

2018年-2021年度活動報告

京都精華大学

展示コミュニケーションセンター

2021年度活動報告

京都精華大学 展示コミュニケーションセンター

2018年-2021年度活動報告について

本活動報告書は、2018年度から2020年度まで毎年年度末にPDFデータで発行してきた報告書を、2021年度の報告書発行の機会に合わせて4年分をまとめ、印刷したものである。各報告書の内容は奥付に発行日の記載があるとおり、各年度末時点の情報となっている。

本書では、展示コミュニケーションセンター及びギャラリーフロールが実施してきた、申請展や企画展の報告のほか、2021年度については創造戦略機構のミッションに基づき実施した様々なアクションプランについて、各センター員による調査及びイベント実施報告や新たに開館した「京都精華大学ギャラリーTerra-S」の紹介を掲載している。

目次

2021年度

展示コミュニケーションセンター構成員

展示コミュニケーションセンター長/豊永政史(デザイン学部教員)
 上野真知子(芸術学部教員)
 宮永亮(芸術学部教員)
 緒方しらべ(国際文化学部教員)
 伊藤まゆみ(展示コミュニケーションセンター特任教員)
 井上朔美(学長室グループ員)
 小坂俊夫(施設グループ員)
 島崎一平(学長室グループ員)※陪席

【概要】

2021年度活動サマリー 04

【ミッション1 調査報告】

新規展示企画の調査 06

教育普及事業の検討・実施 08

新規展示スペースの調査 12

【新ギャラリー紹介】

京都精華大学ギャラリーTerra-S 14

【展覧会】

Cycle -Kyoto Seika University Textile Course 4th Grade Students Show- 16

Weaver's field -辻田研展示会 18

CROSS OVER 20

9日間雨が降り続けた 22

死ぬまで絵を描き続けるには 24

『悠々閑々』ARAI SO Yoshiko 26

Nymph/ニンフ 28

Take it Out (ファストフードの見方) 30

京都精華大学助手展2021 32

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭

サテライトイベント KG+「流れる景色、さまよう目」 34

沁みる百代の煩い 38

時間との結びへ 40

ときにズレのハザマで 42

日本画三人展 死に花をさかせる 44

創造的ドローイング展 46

既知との遭遇 48

京都精華大学大学院1年生研究制作展 50

京都精華大学大学院芸術研究科修士制作展2022 52

【基本情報】

来場者数・利用案内 54

施設図面 55

2021年度 活動サマリー

展示コミュニケーションセンターは、創造戦略機構が決定した2021年度の4つのミッションを実現すべく一年間の活動を行った。(4つのミッションは以下のとおり)

ミッション1

学生を主体とした展示活動支援のあり方についての検討・提案

ミッション2

企業等との連携企画事業の促進についての検討・提案

ミッション3

新ギャラリーリニューアルの準備・支援

ミッション4

サテライトスペースDemachiでの学生の展示・発表の支援

ミッション1「学生を主体とした展示活動支援のあり方についての検討・提案」のアクションプランとしては、①新規展示企画の調査、②教育普及事業の検討、実施③新規展示スペースの調査を行った。(本書の6ページから13ページにて報告)

「新規展示企画の調査」は、センター員の緒方と豊永が担当した。申請展や企画展以外の本学独自の展示企画の検討のため、他大学や学外の特異な事例を調査することを目的とし、アーティストの

名和晃平氏と文化人類学者の兼松芽永氏をゲスト講師に迎えて2つの勉強会をオンラインで実施した。

「教育普及事業の検討、実施」は、センター員の緒方と宮永が担当し、新しい試みを行う展覧会事例などを紹介するトークショーやインストール(展覧会設営)に関するワークショップを企画、実施した。前者はインディペンデント・キュレーター、長谷川新氏を招いた個別相談とレクチャー「アートをやる」、後者は、株式会社Studio Sawna代表取締役の宮本千春氏と本学非常勤講師・タケダ工作所代表の武田俊彦氏を招いたトーク、そして武田氏によるワークショップ「アートをおく」として実現した。

「新規展示スペースの調査」は、センター員の上野と小坂が担当した。学生や教職員から、申請展制度の活用以外に、作品を気軽に展示できるスペースが欲しいという要望が多いことから、ギャラリーTerra-SやサテライトスペースDemachi、ドラフトギャラリー等、既存のスペース以外の展示スペースの調査をし、各スペースの運用方法の案を提案した。

ミッション2「企業等との連携企画事業の促進についての検討・提案」のアクションプランとしては、①企画展覧会の企画・

運営と②外部機関との連携企画の実施を行った。

「企画展覧会の企画・運営」はセンター員の伊藤が担当し、サテライトスペースDemachiにて、KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭サテライトイベントKG+に参加する機会を得て、映像、写真表現を扱う本学出身のアーティスト、澤田華とヤマガミユキヒロを招いた企画展「流れる景色、さまよう目」を開催した。また、2022年度に開催するギャラリーリニューアル企画展の調査と準備を年間をとおして行った。

「外部機関との連携企画の実施」は、センター員の井上、上野、陪席の島崎が担当し、松栄堂の薫習館一階で、推薦と公募によって選出された本学在生による展示を7展行った。

ミッション3「新ギャラリーリニューアル準備」のアクションプランは、センター員の豊永、小坂、伊藤が担当し、①運用方針、利用規定策定、②施設設備検討、準備、③名称、ロゴ、サイン検討、準備を進めた。新ギャラリーの年間スケジュール、運用方法、利用規定の改定について検討するほか、新ギャラリーの施設、設備、備品類の検討、また、ギャラリーの名称、ロゴ、

サインなどの検討と準備を行った。

ミッション4「サテライトスペースDemachiでの学生の展示・発表の支援」のアクションプランはセンター員の伊藤が担当し、①申請展覧会の運営、②ホームページへの情報更新、③年次報告書の作成を行った。

「申請展覧会の運営」としては、サテライトスペースDemachiでの学生、教職員による申請展の募集及び審査、採択された16展の申請展の実施及び記録を行った。なお、審査はセンター員全員が担当した。「ホームページへの情報更新」は、2020年度にリニューアルしたホームページを活用し、展覧会情報やギャラリーの新着情報を適宜更新し、情報発信を続けた。「年次報告書の作成」は、2018年度から2021年度までの企画展、申請展をはじめ、センター員による調査及びイベント実施報告等を記録した年次報告書4年分をまとめ印刷し、関係機関へ配布する予定である。

次年度は、引き続き、新ギャラリー「京都精華大学ギャラリーTerra-S」における企画展や申請展の実施及び運営、教育普及事業の実施、展示スペースの調査等をおして、本学及び展示コミュニケーションセンターの活動を学内外により発信していく。

アクションプラン：
新規展示企画の調査

勉強会：
名和晃平氏によるご自身の活動とARTの現況について | 名和晃平
越後妻有/アートプロジェクトから考える新たな展示の可能性 | 兼松芽永

5月より定期的に緒方と豊永でミーティングを行い、京都精華大学独自の展示のあり方を探ってきた。「セイカらしさ」とは何かについては、芸術学部に限らず、デザイン・建築はもちろん、マンガやポピュラーカルチャー、音楽やメディア表現、人文学やグローバルスタディーズなどの学部や学科・専攻の特徴を生かし、かつ、それらを融合させるような分野横断型な「展示」を検討しながら、追究していくこととした。例えば、近隣の京都芸術大学が力を入れている社会連携型の現代美術の販売の促進とは異なり、都市・田舎を問わず地域社会のフィールドワークに基づき、人びとが暮らし、生きていくことと芸術を同じ地平で捉えること、そのような「展示」を探ることが本学がめざすべき「セイカらしい」展示のあり方といえるかもしれないという仮説を立てた。

これをふまえ、9月下旬に2名のゲスト講師を招聘し、勉強会を行った。一日目は、国際的なアートワールドで活躍する名和晃平氏(Sandwich、京都芸術大学)に、アーティストとして、プロデューサー/アートディレクターとしての成功の背景にある地道な作業

の積み重ねや人脈の構築、そうした過程における困難について語って頂いた。個人制作・活動としてよりも、むしろプロジェクトとして様々な分野のクリエイターとの連携によって活動されている名和氏のお話から明らかになったのは、学生など若手アーティストから自治体(京都府)、アジアや欧米の国際的なギャラリーや個人コレクター、さらには個人コレクターのネットワークなど、多様な人びととの繋がりによって作品が生まれ、プロジェクトが進んでいくことである。作品制作はひとり「孤独」に向き合うものではなく、周囲の人たちを巻き込み、また互いに助け合いながら「アートをやる」可能性の広がりを感じさせられるお話であった。

二日目は、文化人類学者の兼松芽永氏(女子美術大学)に、2008年より新潟県十日町市・津南町を文化人類学的に調査されてきたご経験から、「大地の芸術祭の里」と地域の実践事例をもとに、アートプロジェクトの変遷と近年の動向についてお話し頂いた。そこでは、サイトスペシフィックな作品のマンネリ化や、作品の「質」の担保という観点からアートプロジェ

名和晃平
「活動とARTの現況について」より

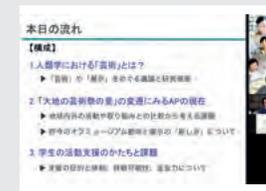


名和晃平氏によるご自身の活動とARTの現況について

2021年9月23日[木]

時間 15:00-17:00 オンライン

兼松芽永
「新たな展示の可能性」より



クトがホワイトキューブ化する傾向、SNSでのイメージの拡散による作品体験の実態変化が指摘された。他方で、美術館やギャラリー以外の空間(街中の空き家など)での展示や、地域の歴史と現在を繋ぐパフォーマンス的な形式など、必ずしも来訪者が直接的に協働せずとも、そこで暮らす人びとやコミュニティとの何らかの関わりから生まれる展示の可能性も提示された。同時に、上述のような、例えば国際文化学部の歴史や文学、社会専攻の学生やアフリカ・アジア文化専攻の学生たちが学ぶ民俗/民族誌資料との関連や、それらとデザイン系やポピュラーカルチャー系の学生とのコラボレーションの可能性も指摘された。

さらにもう一点、ゲスト講師を招聘しての勉強会とは別に、緒方がこれまでナイジェリアの地方都市で行ってきたアートのあり方についての文化人類学的フィールドワークに基づく報告【「アートに価値を見出すということ：アフリカの生活世界におけるアートから考える」(『アフリカからアートを売り込む：企業×研究』2021年、水声社、pp. 159-187)を参照】をふまえ、豊永より、暮らし

越後妻有/アートプロジェクトから考える新たな展示の可能性

2021年9月24日[金]

時間 15:00-17:00 オンライン

の中のアートやなりわいとしてのアート、必ずしもホワイトキューブでは展示されないがアート/アーティストとして存在し、生きているという点において、ナイジェリアの地方都市のアートのあり方と接点をもつ本学の卒業生たちの例が挙げられた。今後は、彼女/彼ら卒業生たちの活動にも注目することで、「セイカらしい」、新しい展示のあり方を探っていく方針である。

そのほかにも、豊永と緒方の打ち合わせやセンター会議内で、山間部や農村部、都市部や住宅地といった学外に限らず、あえて本学キャンパス内を利用した展示(例：夏季休暇中に、卒展とは別に1年~3年生展のようなものを、岩倉のコミュニティや、観山電車利用者を巻き込むかたちで)を行う案も出ている。このように、今年度は、冒頭で示した仮説に基づき、ゲスト講師や勉強会参加者、センター構成員らの経験や意見により複数のアイデアが出た。来年度は、これらのいくつかの的を絞り、実現化に向けた具体的な展示・プロジェクトの計画を練る予定である。

担当者：緒方・豊永

アクションプラン：
教育普及事業の検討・実施

相談&レクチャー：
アートをやる | 長谷川新

2021年10月21日 [木]

時間 個別相談 11:00-16:00
レクチャー 16:30-17:30
Q&A 17:30-18:00

会場 悠々館2F飲食スペース(個別相談)、
春秋館S101(レクチャー、Q&A)

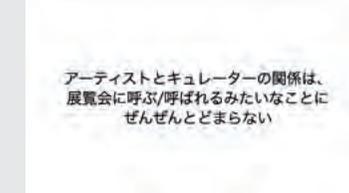
主催 京都精華大学展示コミュニケーションセンター



個別相談会の様子



レクチャーのスライドより



本年度は、10月21日に緒方がトークイベントおよび「個別相談会」を、2月28日・3月1日に宮永がインストールワークショップを企画した。

トークイベントについては、当初、インディペンデントキュレーターの長谷川氏を招聘し、1コマ程度のトークを予定していたが、長谷川氏の提案を受け、半日ほど「個別相談会」を行い、その後、レクチャーを行うというほぼ1日のイベントとなった。この背景には、長谷川氏が現在、「相談窓口SNZ(シノバズ)」を準備されている過程で、若いアーティストたちの個別相談の場が必要だと考えていらっしゃることで、また、それによって、本学の学生たちのニーズを教員が知ることがある程度可能になるのではないか、という指摘があった。

個別相談会は、本学が「表現で世界を変える人を育てる」と公言していることから、「表現」に焦点をあて、「表現活動に関することを何でも」、長谷川氏に学生が個別に相談する機会とした。対象者は「芸術」の学生に限定せず、芸術学部、デザイン学部、マンガ学部、メディア表現学部、国際文化学部および院生・卒業生へと広げた。一人(または一組)相談時間は最大30分間として募集したところ、11名の希望者が、芸術学部、デザイン学部、マンガ学部(院生・卒業生含む)から集まった。相談者たちは、今考えていること、新しい表現方法、展覧会の展開、作品の発表の場、作品の方向性、作品の売り出し方、進路などについて、長谷川氏に相談していた。

例えば、二人展やグループ展

など共同制作をする難しさについての相談があった。これについて長谷川氏は、まず互いの目的や目標、関心の認識を確認する機会をつくったうえで、実現性の低いイメージだけの話にとどまらずに具体的な実験方法など技術的な話もしていくよう助言していた。自分の作品のモチーフや絵の特徴は定まっているが、それをどのように魅せるのか、どのような技術を使えば良いのかわからないという相談もあった。長谷川氏は学生が持参した二つの作品をじっくりと見ると、そのモチーフに関連する様々な話題を挙げながら、まずはモチーフへの(作家自身の)愛を深め、それが他者に伝わるようにしてみようと声をかけていた。大学院へ進学すべきか迷っている学生へは、画家を目指しつつマンガ・アニメ研究も行い

たいというその学生に合う大学院や研究者を紹介し、一度その研究者に相談してみても具体的なコンタクト方法を示してアドバイスしていた。

レクチャーでは、芸術・デザイン・マンガ・メディア表現、国際文化のすべての学部を横断しうる理念と事例と共に、キュレーションという仕事は単にアーティストを展覧会に呼ぶだけではないという事実から、多様な表現活動、作品の背景を知る面白さと大切さまでお話しいただいた。沖縄県立美術館に所蔵されている山元恵一の1951年の絵画作品から京都アニメーション放火事件以降の2021年の最新作品、書道家・上田桑鳩の作品、さらには香港の民主化デモのドキュメンタリー映画作品や、その香港の民主化を願う匿名のキャ

クターの描き手たちに至るまでの細やかな事例と共に進められたレクチャーは、参加者をハッとさせ、心に刺さるものを投げかけてくれるものであった。企画者としても、「表現すること」「アートをやる」ことは何であるのかを改めて、あるいはゼロから考えさせてくれる大変貴重なレクチャーであったと確信している。

このレクチャーには30名を超える参加者が集まり、レクチャー後は(旧)人文学部の学生2名、国際文化学部の学生1名、マンガ学部の学生1名から質問も挙がり、長谷川氏に丁寧に答えていただいた。

担当者：緒方・宮永

長谷川氏らの「相談所」については、右記QRを参照



アクションプラン：
教育普及授業の検討・実施

トーク&ワークショップ：
アートをおく | 宮本千春・武田俊彦

2022年2月28日[月]/3月1日[火]

時 間 トーク 2月28日[月] 13:00-14:00
インストールワークショップ
2月28日[月] 14:00-18:00/3月1日[火] 13:00-18:00
ビューイング期間
3月2日[水]-3月8日[火] 13:00-18:00
会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S
主 催 京都精華大学展示コミュニケーションセンター



10月に開催した「アートをや
る」に引き続き、教育普及事業
としてその第2弾となる「ア
ートをおく」は、トークとワー
クショップから成る二日間のイ
ベントであった。まず、初日の
トークには、宮本千春氏(株
式会社Studio Sawna代表
取締役)と武田俊彦氏(タケ
ダ工作所代表・本学非常勤講
師)にご登壇頂き、インスト
ール(install)、あるいはセット
アップ(set up)という仕事に
ついてお話し頂いた。ふだん、
展覧会やギャラリーの鑑賞者
には知られることのない、展
示作品や会場の「背景」にあ
るインストーラー(作品設営を
専門に担う人)にとって重要
なことで、まず、鑑賞者など
会場にいる人に(作品の落下
などにより)怪我をさせはな
らないという安全性や、作家
の作品を傷つけることなく、

作家の
イメージ通りに作品をインス
トールする点が挙げられた。

宮本氏は、美術館やギャラ
リーの展示スペースと、作家
の作品とその展示イメージ
から、いかにして展示を現
現可能なものとするのかを、
レイアウトなど一から考え、
現場での設営にも立ち会い、
展示会場を完成させる仕事
を担われている。今ではご自
身は作品を制作されないが、
一から展示空間を作り上げ
ていくという作業は、作品制
作と通じるところがあるとい
う。また、女性である宮本
氏が、男性ばかりの現場で
女性がリーダーシップをと
っていくことの当初の難しさ
や、近年、若手のインスト
ーラーがいけない苦境につ
いてもお話し頂いた。武田
氏は、ご自身も作品を制作
されているお立場から、作
家が「こうしたい、こう見

たい」という思いを可能な
限り実現できるよう努めてい
らっしゃる。現場にあるもの
や使えるものご自身の技術
を駆使し、作品を壊さず、
作業員も鑑賞者も傷つけず、
安全第一で展示を実現させ
るための大切さを教えてく
だされた。

参加者の学生からは、例え
ば、椅子を展示場の壁に垂
直に展示するにはどのように
すれば良いのかという具体
的な質問が出たが、宮本氏
も武田氏も即座にいくつか
の方法を提示され、具体的
に説明して下さった。

ワークショップでは、武田
氏による指導のもと、異な
る5つのインストール(作品
設営)の課題にそれぞれ5
つのグループ(各4名程度)
が取り組んだ。課題(指示
書)には①【空間を構成す
る壁面3面それぞれに「水

トーク、ワークショップの様子



平を提示」すること。そして、
空間に浮かぶ「1本の水平」を
示すこと②【壁面中央に青い
ビニールシートをしっかりと
広げること。余った4枚の
ブルーシートを「バリエーシ
ョンのある畳み方」でそれ
ぞれに折り畳み、展示台に
据えること】③【与えられ
た平面を「広くリズムカル」
に壁面へと展開すること。指
定された空間の中で様々な
可能性を試みる】④【準備
された照明を、天井から地
面へと「垂れ下がる水」の
ように展開すること。一つ一
つの電球やケーブルの個性
をよく見つめること】⑤【空
間内に準備された木材を立
て掛けることで、以前は森
の一部であったこれら木材
を使って、「森を再生」する
こと】と書かれてあるだけ
で、いずれも単純なようで
難解であった。しかし参加
者たちは、課題に忠実に従
うだけではなく、安

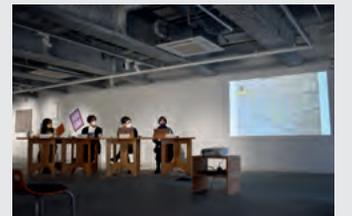
全性や最低限の決まりを守
りつつも、そこから自由に、
自分たちで工夫して作品を
インストールするのかを模
索し、それぞれのグループ
が自主的に取り組んだ。

参加者たちは、こうした経
験を通して、「背景」の仕事
でありながら、やはりイン
ストーラーも「つくり手」
であることを再確認した。
さらに、展示はたったひと
りでできることではなく、
様々な専門家の知識と経
験やアイデアによって支え
られていることや、安全性
も含め、展示することに
最後まで責任をもつことが
重要であることも学ぶこと
ができた。

担当者：宮永・緒方

関連企画

芸術系大学ギャラリー担当者
座談会
日時 2022年3月8日(火) 16:30-18:00
会場 京都精華大学ギャラリーTerra-S
ゲスト
高橋耕平(アーティスト/京都
芸術大学専任講師/京都芸術
大学Galerie Aube運営委員)
田中真吾(美術作家/成安造
形大学【キャンパスが美術
館】運営委員・キュレーター)
藤田瑞穂(京都市立芸術大
学ギャラリー@KCUAチーフ
キュレーター/プログラム
ディレクター)
進行
伊藤まゆみ(本学特任講師/
京都精華大学ギャラリーTerra-S
キュレーター)



アクションプラン：

新規展示スペースの調査

訴求力のある新規展示スペースの検討

担当者：上野・小坂

1. オープンキャンパスなど見学にも、まだまだアピール出来ない建屋－愛智館



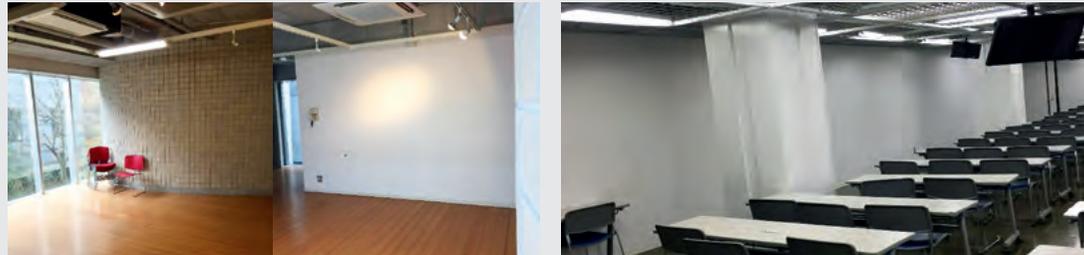
キッチンスペース
3面方向が全面見渡せる大窓

1階講義室
壁面がホワイトボード

3階講義室「A-301」
明るくフリースペースとしても機能

外観
アプローチエリアもある

2. 複数の学部・コースが、本学らしく混在するユニークな建屋－対峰館



「T-205」プレゼンルーム
不思議な曲線の壁。
正面に白壁、スポットダクトあり

「T-109」
講義・入試・オーキャンと、まさに多目的稼働する「T-109」
照明ダクトやオプション設備設置で、より効率的にリノベーションを。

3. 大学を訪問すると、最初に目にする建物－清風館



1階ロビースペース
坂道を登ってくるスクールバスを最初に迎えるのは、この清風館1階の「ロビースペース」。丸柱・ソファ・3方大窓～叡山電鉄も見えるビューポイントとなっている。新たな設えを施せば、ひと工夫したデジタル展示等にも適しているのでは。

キャンパス内の明窓館や現行の展示スペースで、
足りない条件や機能とは？

- 日常のキャンパス生活で、自然に目に入ってくる導線上のタイムリーさ・アピール力
- オープンキャンパスなどで、高校生など募集活動ターゲットへの訴求力はあるか。
- 外部からの訪問者へ、大学としてのブランディングイメージを感じさせられるものはあるか。

4. 導線上アピールできる展示スペース



本館前
円柱原稿の検討

本館前
バス待合後ろ

本館
青階段吹き抜け

食堂1階
エントランス スペース

5. 既存も含めた屋外展示スペースのリユース検討



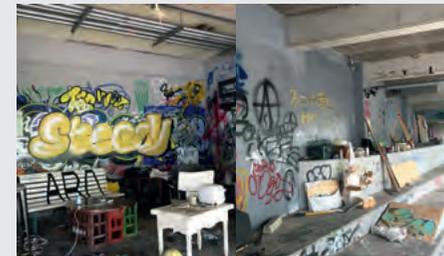
明窓館からキャンパスを望む
明窓館が完成し、池方向を望んだ時に、何か印象に残る展示要素は必要ないだろうか？

食堂外壁

池上の切り株スペース

エアストリーム

6. ウォールペインティングスペースとして再生



流溪館下
いくつかの難しいハードルはあるが、例えば、正式な学内審査の下で、ウォールアート等の制作物発表の場として再生出来れば逆に、オープンキャンパス等でもアピールできるだろう。

他スペース候補



本館～対峰館の横壁

京都精華大学ギャラリーTerra-S

Kyoto Seika University Gallery Terra-S

カンチレバー構造で宙に張り出した3階のギャラリーの一面は総ガラス張りでキャンパスの中央広場を一望できる。複層に連なるデッキスペースや大きな開口窓など、「明窓館」全体が開放的で明るいイメージを持つ。その上階に設置されたギャラリーは、地上から遊離した自由なアート空間を印象付けている。「Terra-S」は、ラテン語・イタリア語で「土、大地、地球」を表す「Terra」と「Seika」の頭文字を繋げたもの。また「テラス」は「照らす」と掛けている。未来を展望し、照らす、京都精華大学の新しい創造の地平をイメージしている。

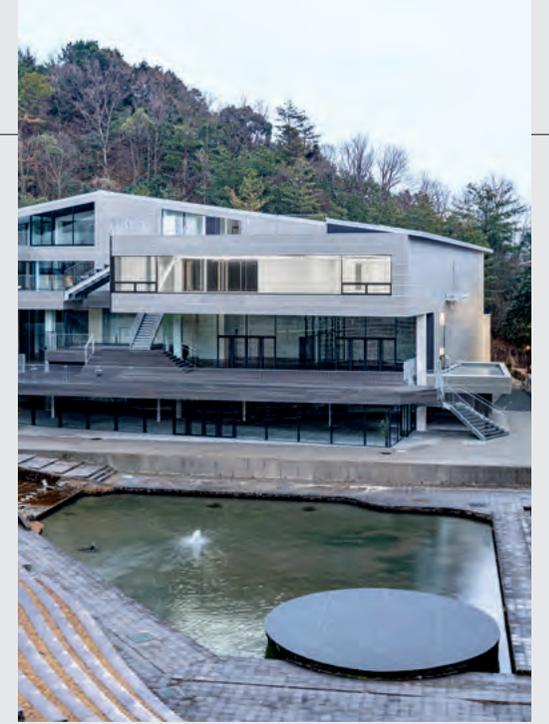
terra —— 土。大地。陸地。地球。
テラ[ガイヤ 大地の女神]
のローマ名
terras —— テラス→照らす
terra-S —— Terra-Seika

竣工：2022年2月5日
敷地面積：520m²



GALLERY TERRA-S

新ギャラリーの名称検討にあたっては、学長、副学長、展示コミュニケーションセンターで、新しい明窓館の建築コンセプトやビジョンなどを共有したうえで、半年以上の時間をかけ議論された。その中で、数十にわたる案から4案に絞り、美術館館長、ギャラリスト、アーティスト、アート編集者といった外部有識者らの評価を得た上で決定された。



京都精華大学芸術学部テキスタイルコース4回生織ゼミ有志展

Cycle -Kyoto Seika University Textile Course 4th Grade Students Show-

2021年3月31日〔水〕-4月10日〔土〕

開場時間 12:00-18:00

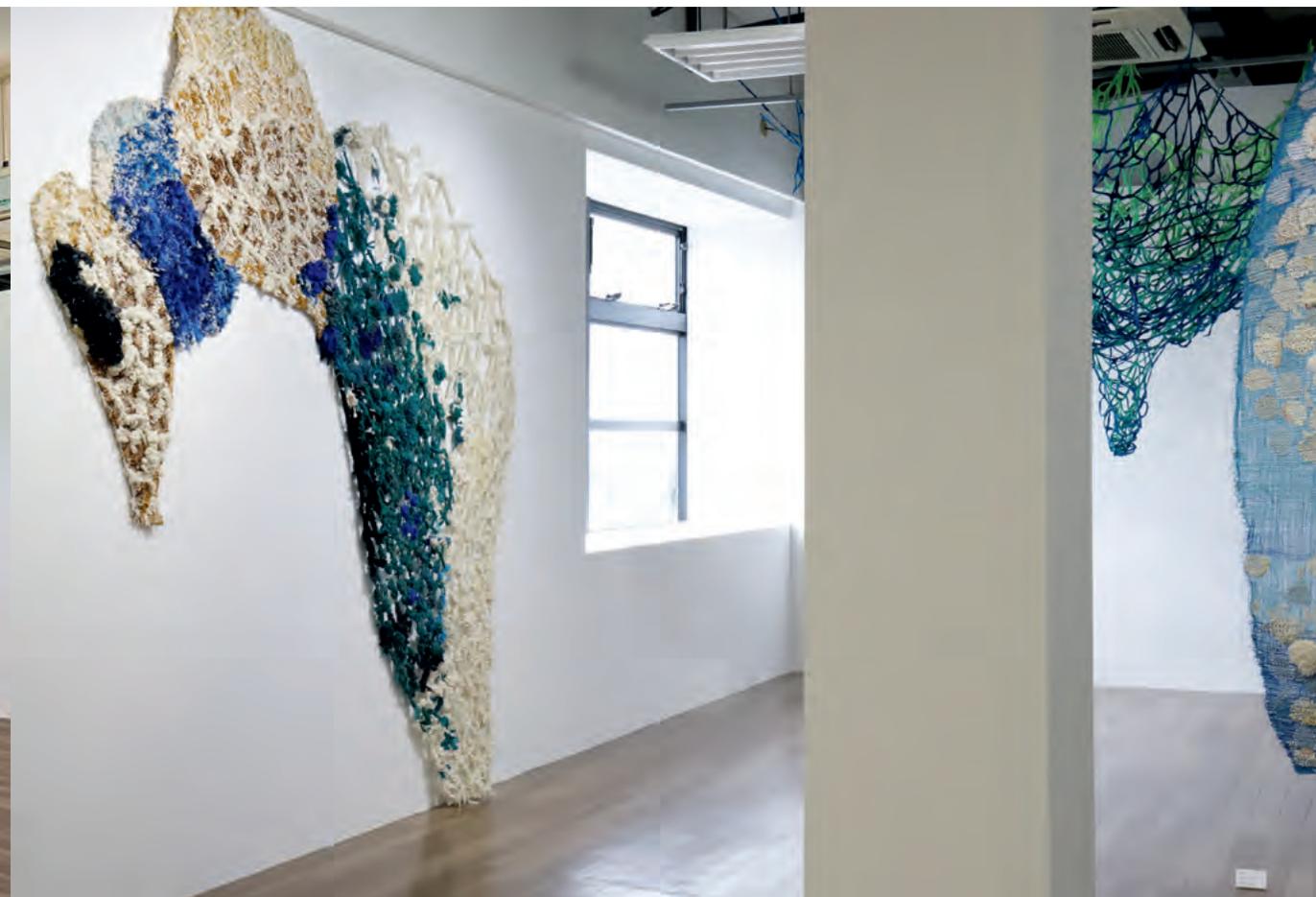
会場 京都精華大学サテライトスペースDemachi

主催 京都精華大学芸術学部テキスタイルコース4回生

出展作家 叶昕琇/今井木野美/神谷菜帆/杉浦野々花/濱島彩絵/村岡拓巳



芸術学部テキスタイルコース4回生有志によるグループ展。人の想いが交錯する社会を、織り、染め、フェルトといった技法やさまざまな糸を駆使し、6名それぞれの目線から多面的に表出する展示をめざし企画した。テキスタイルを専門としない一般来場者からも「単なるタペストリーに尽きず、立体や不定形なものがあり、自由な印象をうけた」との感想が寄せられた。



Weaver's field — 辻田研展示会

2021年4月21日[水]–5月1日[土]

開場時間 11:00–18:00

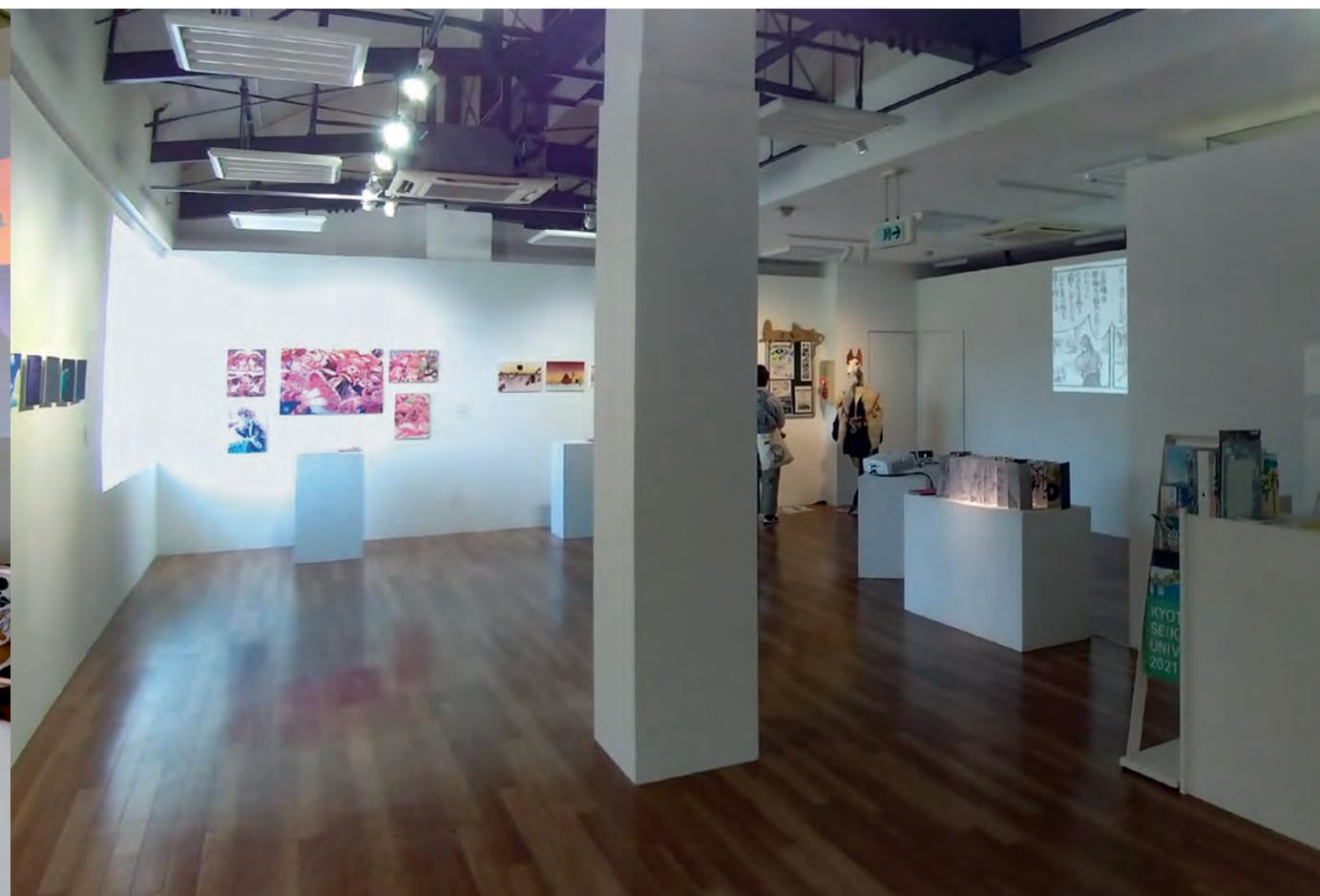
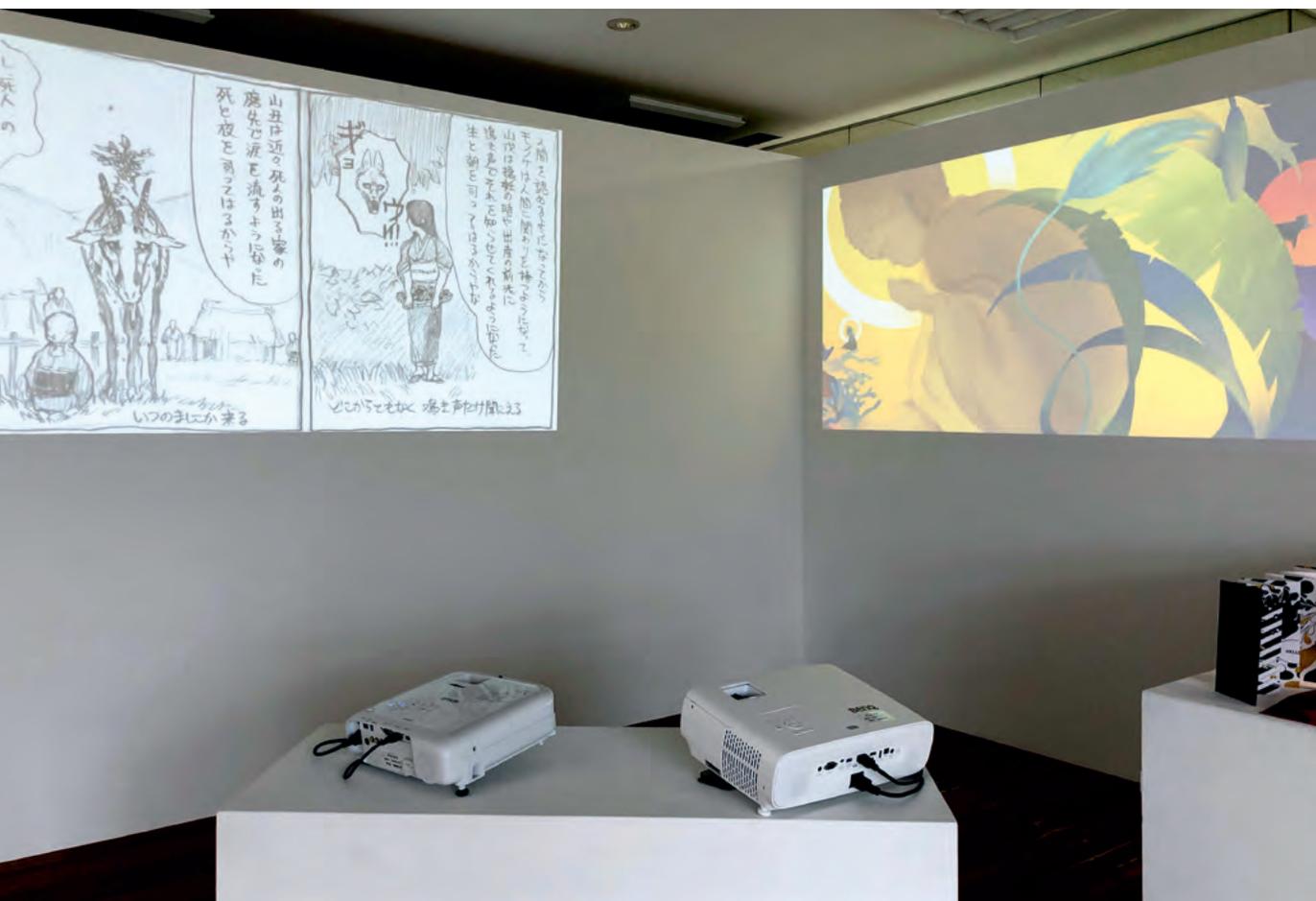
会場 京都精華大学サテライトスペースDemachi

主催 辻田幸廣ゼミ

出展作家 マンガ研究科：ゴク エイラク / リョウ カンナン /
リュウ ユウシ / チョウシカ / リイソン / ハジウン / オウカセイ
マンガ学部キャラクターデザインコース：三浦 麻乃 / 梅 傲



マンガ学部キャラクターデザインコースの2020年度卒業生有志と大学院マンガ研究科生による展示。「京都精華大学展2021-卒業・修了発表展-」にて学長賞や理事長賞を授与された学生も含まれており、前年度一年間の活動の集大成となった。また、展示経験の少ない新3年生のゼミ生にとっては、手を動かし設営・運営の実践となるよい機会となった。



申請展

CROSS OVER

京都精華大学
グラフィックデザインコース
模様プロジェクト有志展

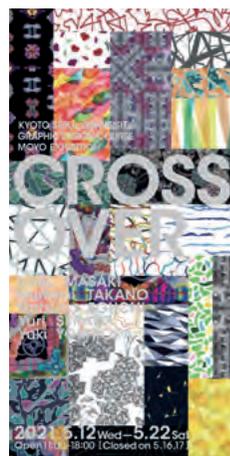
2021年5月12日〔水〕-5月22日〔土〕

開場時間 11:00-18:00

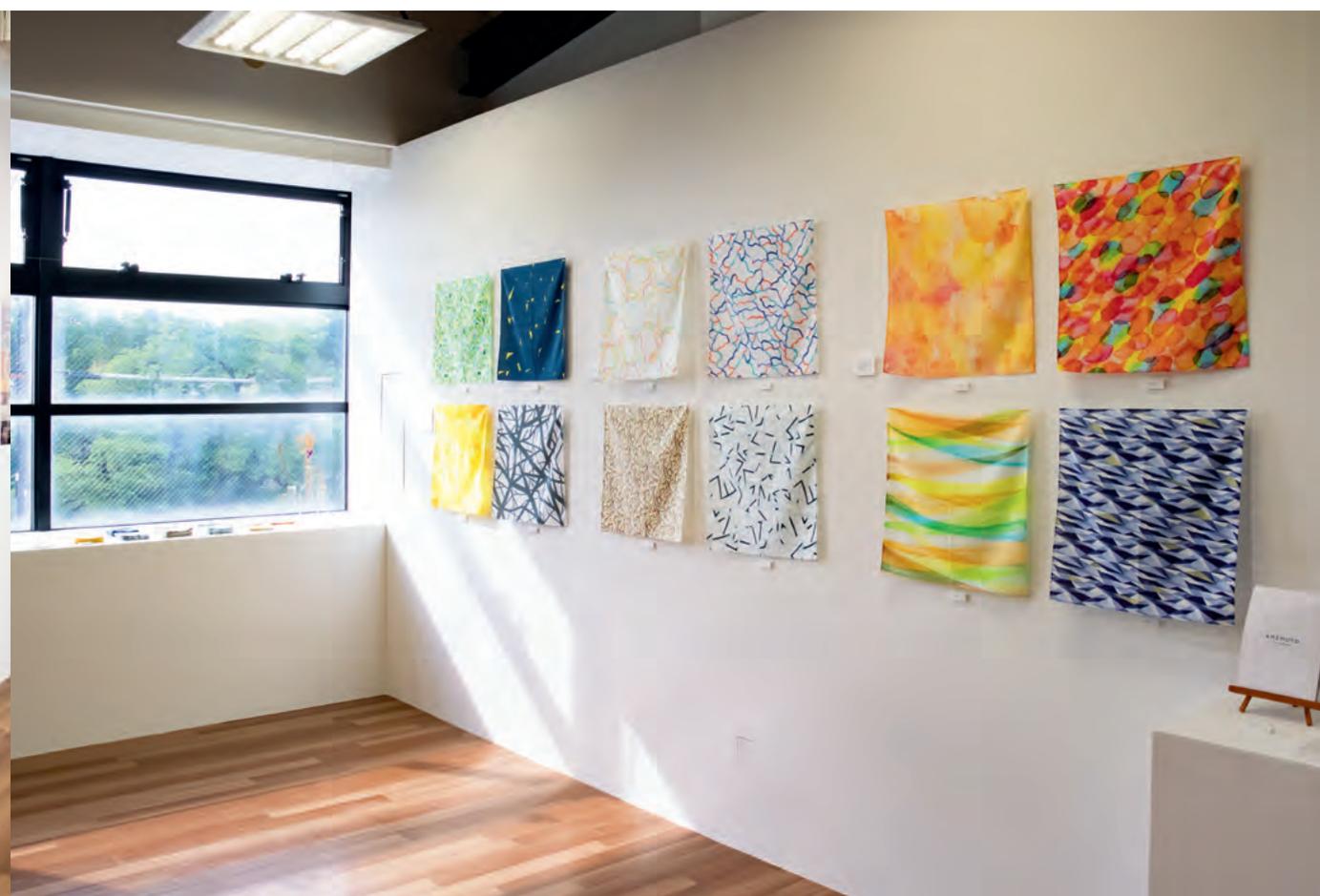
会場 京都精華大学サテライトスペースDemachi

主催 京都精華大学グラフィックデザインコース4年生有志

出展作家 正木英美利/高野菜々美/世良田悠里/江口夏葉/吉岡優希



模様を様々な形に展開し、それを使った人のライフスタイルがより良くなることを目指す、3年生前期の授業「模様プロジェクト」。その発展版である「個人表現研究」の課題制作作品を中心に展示。5人の個性が境界を越えて混ざり合う展示空間となった。



9日間 雨が降り続けた

2021年6月2日[水] - 6月12日[土]

開場時間 11:00 - 18:00

会場 京都精華大学サテライトスペースDemachi

主催 リュウ・リケツ (劉 李杰)

出展作家 リュウ・リケツ (劉 李杰)



大学院芸術研究科特別研究生のリュウ・リケツによる個展。《Another Garden》(2020)、《時間の薔薇一北島》(2020)、《Eternity》(2018)の旧作3点と、映像作品およびインスタレーション作品の新作4点で会場を構成した。

元レンタルビデオショップである場所の記憶、本、知識、そこから自身の小学生の頃の記憶を含み、仮想の空間を作を試みた。その空間にあらゆる日常の物事に潜む記号、思い出、感情を素材として表し、この空間にいる人々に各自の思い出を頼りに思考を巡らせながら、自分の中に新たな共鳴を蘇らせて欲しいと考えた。



死ぬまで絵を 描き続けるには

2021年6月23日[水] - 7月3日[土]

開場時間 11:00 - 18:00

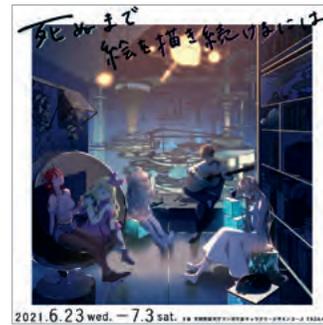
会場 京都精華大学サテライトスペースDemachi

主催 京都精華大学マンガ学部キャラクターデザインコースTADAゼミ

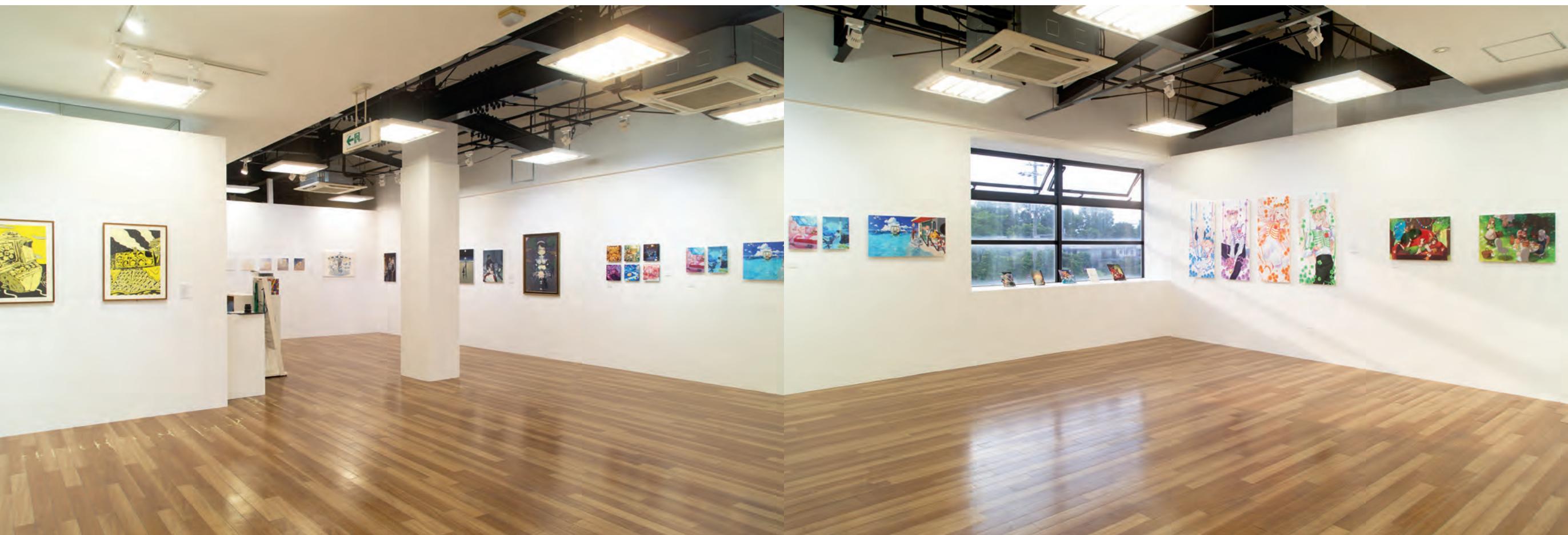
出展作家 カロイカロ/蓮本/中田恭平/新井 みあ/カノハアネ (以上4回生)/

阿部菜々子/黒部POT/千代澤結衣/JURI/

モリ/吉田次朗 / 白川 (以上3回生)/タダユキヒロ



マンガ学部キャラクターデザインコース、タダユキヒロゼミの4回生を中心とした研究発表展。「死ぬまで絵を描き続けるには」というタイトルのおり、各作品には各作家の考える「作品を長く作り続けるにはどうすればよいか?」について考えを述べた文章が添えられた。作品を作ることに疲れた学生や、気持ちが離れかけている社会人が「私もまた絵を描きたいな」とそっと背中を押してもらえそうな、そんな作品づくりのきっかけや閃きを感じる展示を目指した。



『悠々閑々』 ARAIISO Yoshiko

2021年7月14日〔水〕-7月24日〔土〕

開場時間 11:00-18:00

会場 京都精華大学サテライトスペースDemachi

主催 荒磯代志子

出展作家 荒磯代志子



大学院芸術研究科洋画専攻の研究生、荒磯代志子の個展。2005年から2021年の間に制作した人物、風景、静物の油絵等を、数点ずつ展示した。人々の気持ちも社会のありようも右往左往する中で、自分自身の変化はどうであるか。「悠々閑々」として日々過ごすことを願いつつ、己の心の変化を洞察した。



Nymph/ ニンフ

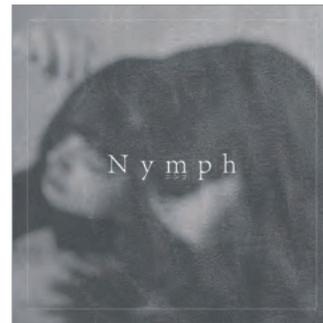
2021年7月29日[木]–8月8日[日・祝]

開場時間 12:00–19:00

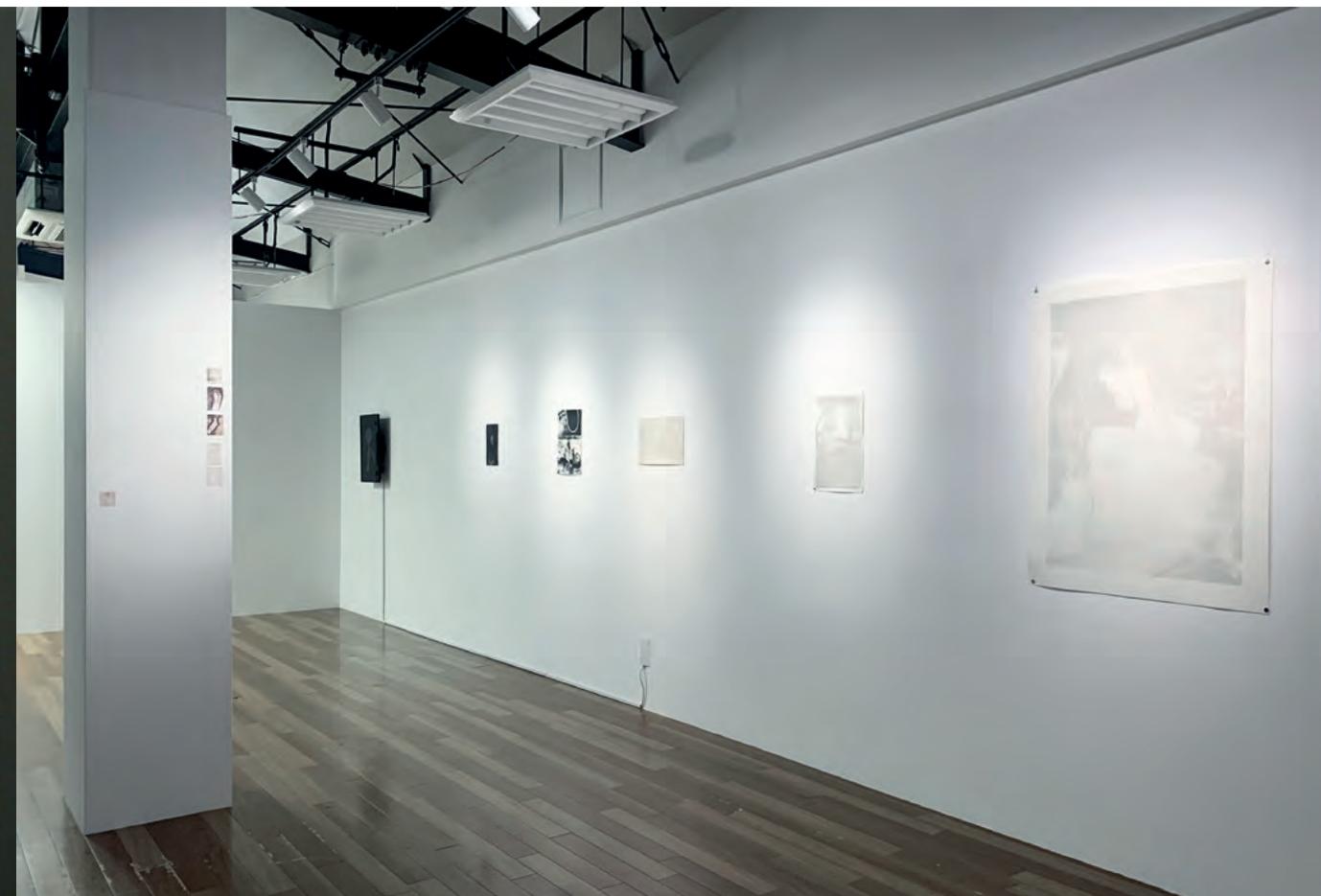
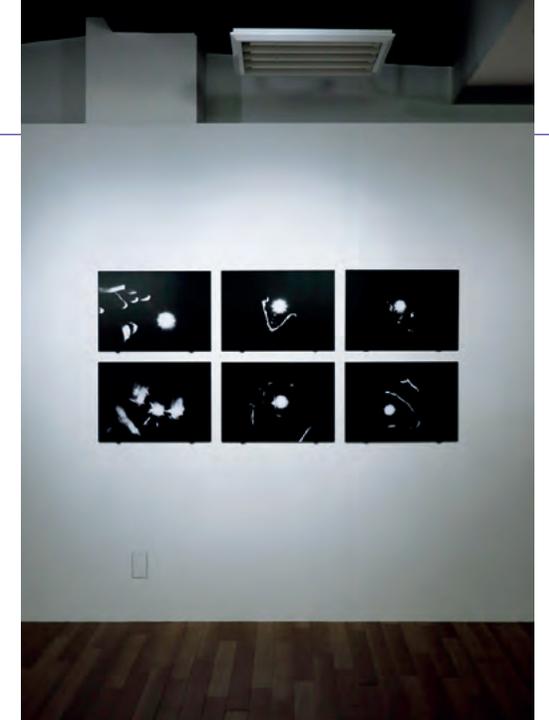
会場 京都精華大学サテライトスペースDemachi

主催 包雯蕊/付麗姫/奥山紗代子

出展作家 包雯蕊/付麗姫/奥山紗代子



大学院芸術研究科及びデザイン研究科に在籍する3名によるグループ展。哲学者ジョルジョ・アガンベンの記事をてがかりに、映像あるいは写真という記録媒体は、外部世界を撮影したものであっても、ある程度は、自分自身の内面が投影されているという仮説のもとに企画した。三人三様のモノクロームの写真、映像、シルクスクリーン作品で空間を構成した。



申請展

Take it Out (ファストフードの見方)

2021年8月18日〔水〕-8月27日〔金〕

開場時間 12:00-19:00

会場 京都精華大学サテライトスペースDemachi

主催 Take it Out展 実行委員会

企画 ヤマトナツキ

出展作家 池田明日香/岡村ひいろ/岡本公平+ヤマトナツキ/
兒玉真太郎/西川涼香+山口芽生

広報イラスト
勇、公平、響



コロナ禍でファストフードをテイクアウトする機会が身近になったことなどから、「ファストフード」をテーマに、7名のインスタレーション、イラスト、マンガ、短歌、写真作品などによって、「見方」の多様さを感じてもらいたいことをねらいとした。展示を通して、テイクアウトして家で食べることも多くなったファストフードを、従来のイメージからTake it Out(連れ出す)を試みた。

関連イベント

Instagram Liveによるオンライン合評



申請展

京都精華大学助手展2021

2021年9月1日[水]ー9月11日[土]

開場時間 12:00-19:00

会場 京都精華大学サテライトスペースDemachi

主催 京都精華大学助手展2021 実行委員会

出展作家 トミナガaska (ファッションコース助手)

さとうゆか (元キャラクターデザインコース助手)

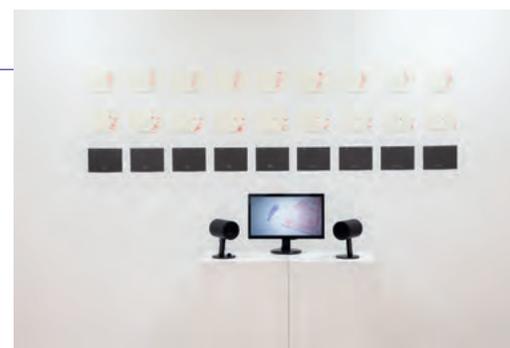
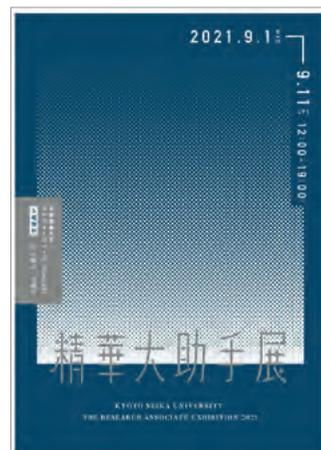
白井聡子 (テキスタイル専攻助手)

櫻井麻貴 (洋画専攻実習アシスタント)

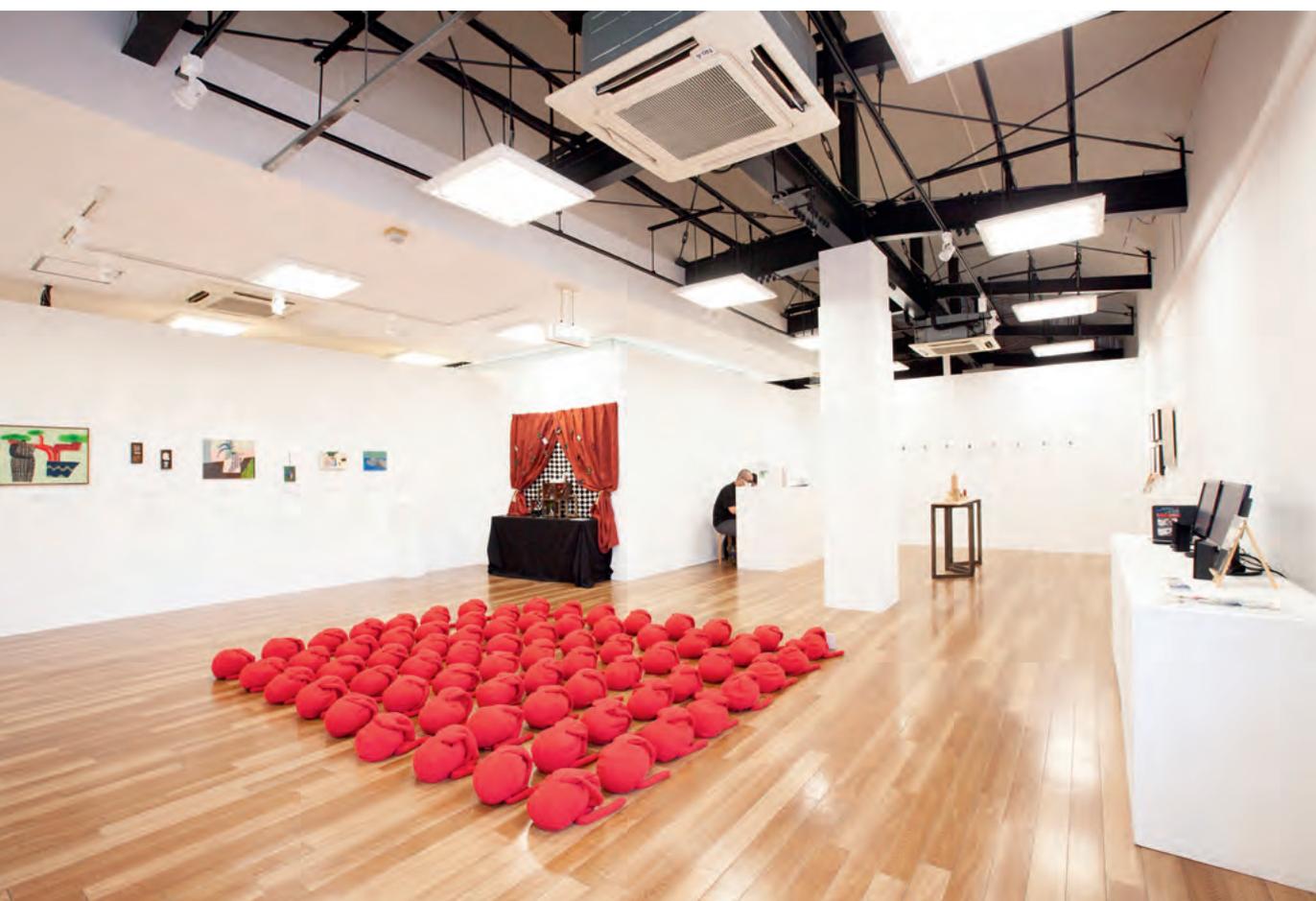
山崎美有 (キャラクターデザインコース助手)

ひのしたはな (キャラクターデザインコース助手)

藤本カンナ (新世代マンガコース助手)/三木一成 (建築コース助手)



本学助手有志による制作・研究成果発表グループ展。助手は、それぞれが所属する専攻・コースの授業運営に日々携わる大学職員であると同時に、制作・研究に取り組む一人の作家・クリエイターでもあり各々が多方面で活躍している。その創作活動や研究成果を学内外に広く紹介する場として、美術、デザイン、さらにはジャンルにとらわれない幅広い領域にわたる多様な作品を展示した。



KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 サテライトイベント KG+ 「流れる景色、さまよう目」

2021年9月18日[土] - 10月17日[日]

開場時間 12:00 - 19:00

会場 京都精華大学サテライトスペースDemachi

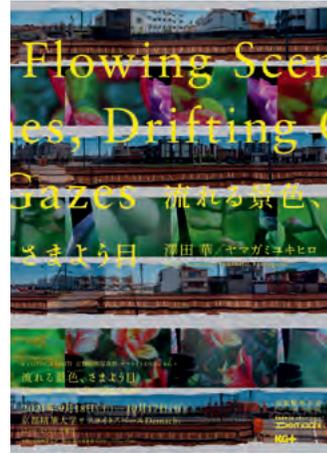
出展作家 澤田華/ヤマガミユキヒロ

主催 京都精華大学

協力 叡山電鉄株式会社、Gallery PARC

企画 伊藤まゆみ

(京都精華大学展示コミュニケーションセンター特任講師)



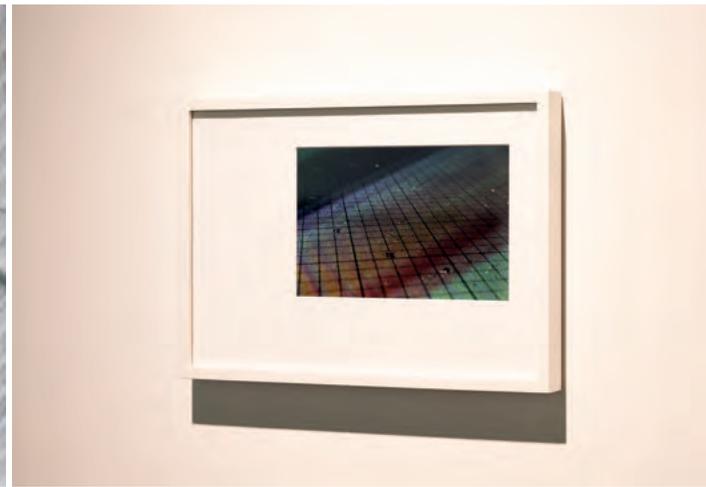
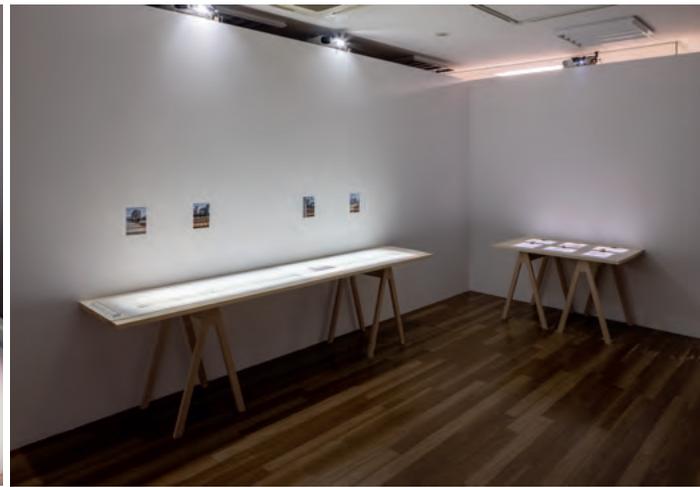
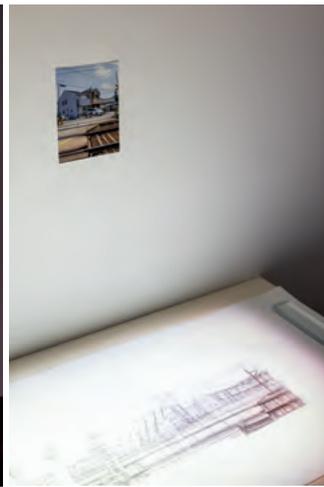
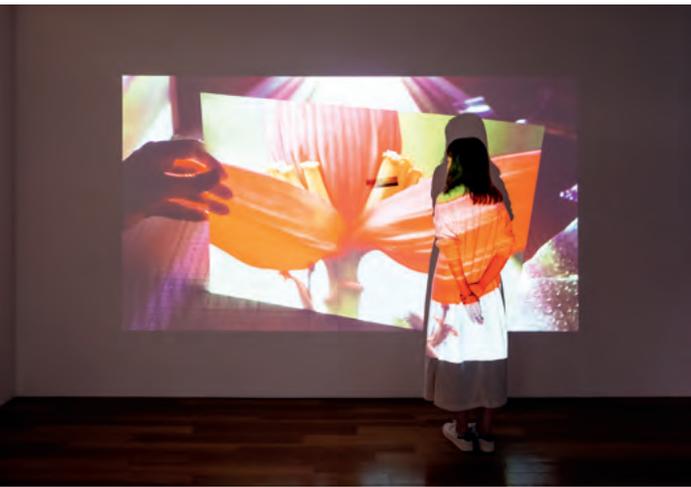
グラフィックデザイン
芝野健太



2021年度の企画展は、KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭サテライトイベント KG+として、映像/写真表現を扱う本学出身アーティスト、澤田華とヤマガミユキヒロを紹介した。

澤田華は、撮影者が意図しなかったものまで写してしまう「機械の目」としての写真の特性に着目し、写真や映像を中心に、立体、インターネットなど様々なメディアを用いた作品を展開している。ヤマガミユキヒロは、鉛筆や墨などで描いた風景画にプロジェクターによって同一視点の映像を投影する「キャンパス・プロジェクション」という独自の手法で、様々な風景の光や時間の移ろいを描き出している。

本展では、澤田は、プロジェクターから漂う光が映し出す像とスクリーンの関係について考察した作品やカメラのモニターに表示された風景を拡大し細部へ移動する様子を記録した作品シリーズの新作を発表。ヤマガミは、本スペースに隣接する叡山電車出町柳駅を含め、沿線の取材を行い制作した新作のほか、駅や京都市内の風景をモチーフにした作品を展示した。「流れる景色、さまよう目」とは両者の作品に共通して現れる視点を示唆している。今、この目の前を通過していく景色は何なのか。私たちは何を見ているのか。展示をとおして、気づきと問いの旅の始まりを来場者に感じていただいた。



沁みる百代の煩い

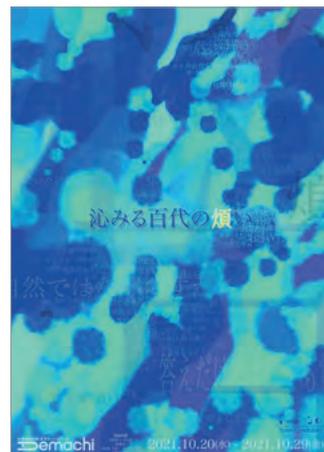
2021年10月20日[水]ー10月29日[金]

開場時間 12:00-19:00

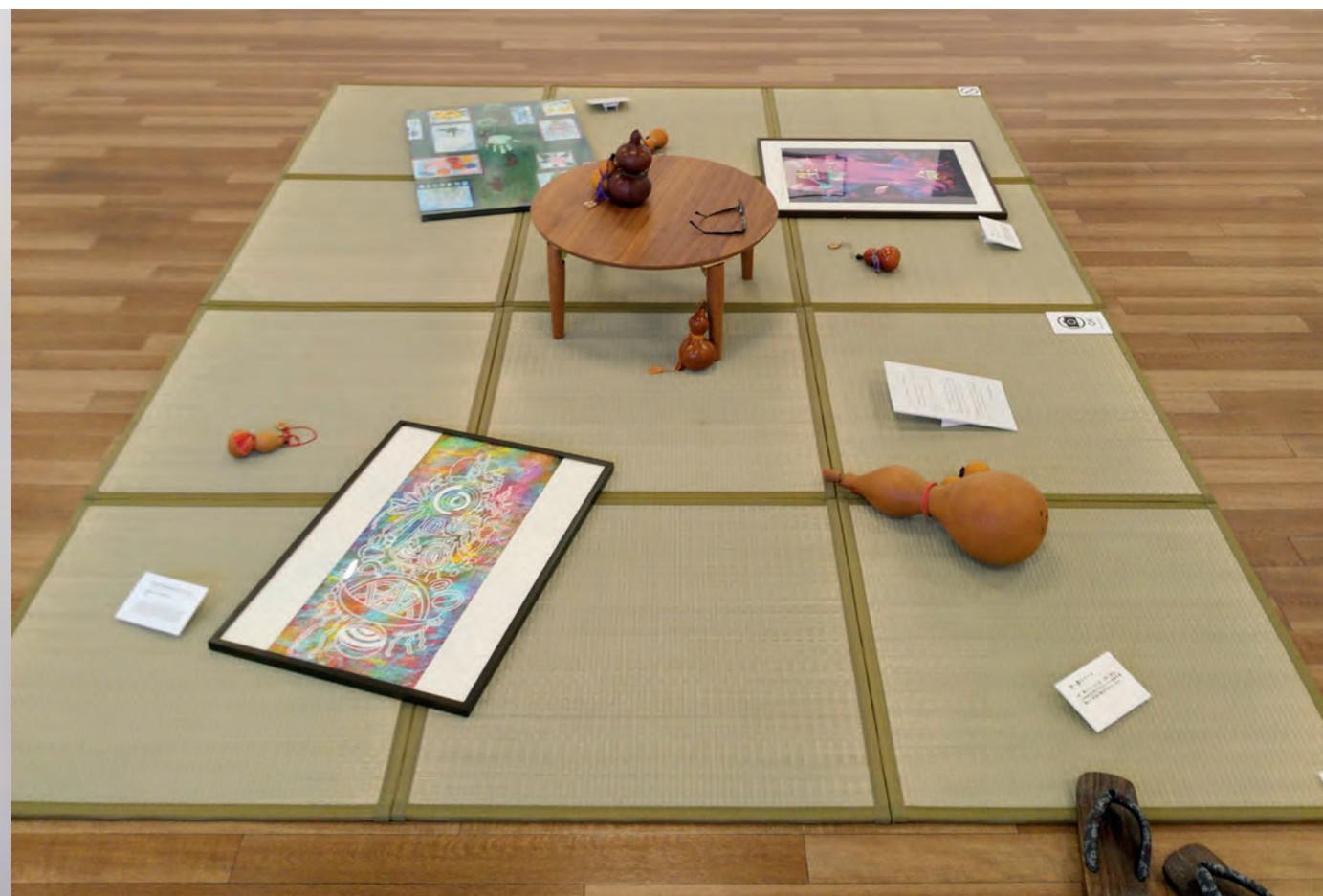
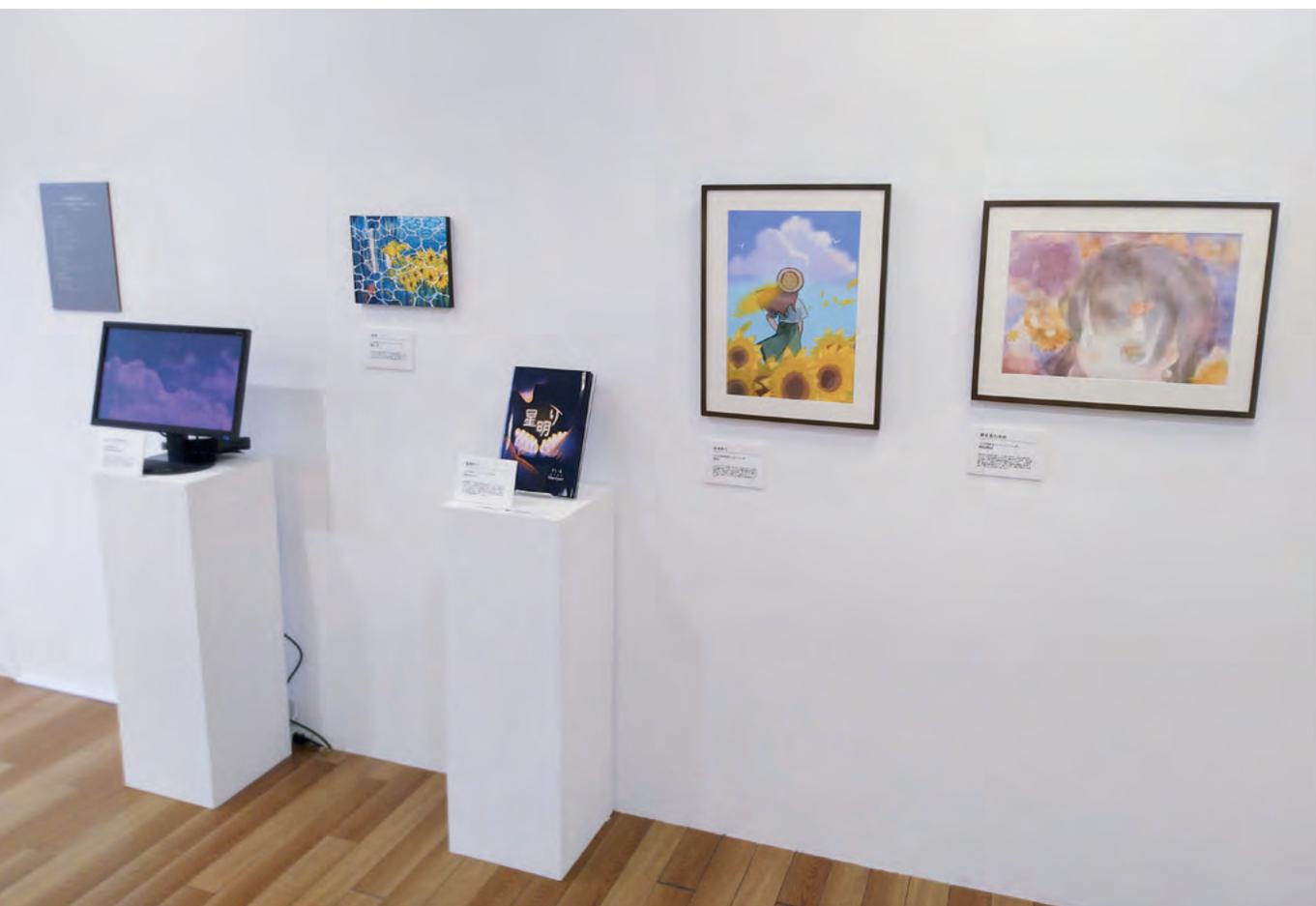
会場 京都精華大学サテライトスペースDemachi

主催 TEAM CHABUDAI

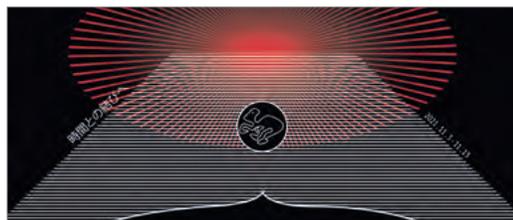
「CHABUDAI」は、苦労や煩いについて語るゲストのストーリーをもとに、アート作品を制作するプロジェクト。メンバーは一年間にわたり、9名のゲストの語りに耳を傾け、様々なジャンルのアートで応答した。本展では、このプロジェクトに参加した計25名による38作品が展示された。ゲスト自身の語りを掲載したパネル、詩や説話、絵本、映像作品などの多様な作品が並んだ。



出展作家 [在学生] 芸術学部: nijiha. (立体造形専攻 2年)/Venato (テキスタイル専攻 2年)/Reika Matsumoto (映像専攻 2年)/マホ (映像専攻 4年)/デザイン学部: こうすけ (イラストコース 1年)/Eating (イラストコース 2年)/ツナ缶 (イラストコース 2年)/jun (イラストコース 4年)/ウエダ (グラフィックデザインコース 2年)/miroku (グラフィックデザインコース 3年)/マンガ学部: 垂好雪 (カートゥーンコース 3年)/MeiMei (カートゥーンコース 3年)/hino (カートゥーンコース 4年)/Merryan (カートゥーンコース 4年)/クッキー (ストーリーマンガコース 2年)/ガロ (新世代マンガコース 2年)/スヨン (キャラクターデザインコース 2年)/雨三 令 (キャラクターデザインコース 3年)/店长 (キャラクターデザインコース 3年)/KIM HYUNJEONG (アニメーションコース 3年)/Satie (ポピュラーカルチャー学部音楽専攻 4年)/Ramb (人文学部文学専攻 4年) [卒業生] 芸術学部: 59 (立体造形専攻 卒業)/abque (洋画専攻 卒業)/4°C (マンガ学部カートゥーンコース 卒業)/TEAM CHABUDAI代表 宮江真矢



時間との結びへ



2021年11月3日[水・祝] - 11月13日[土]

開場時間 12:00-19:00

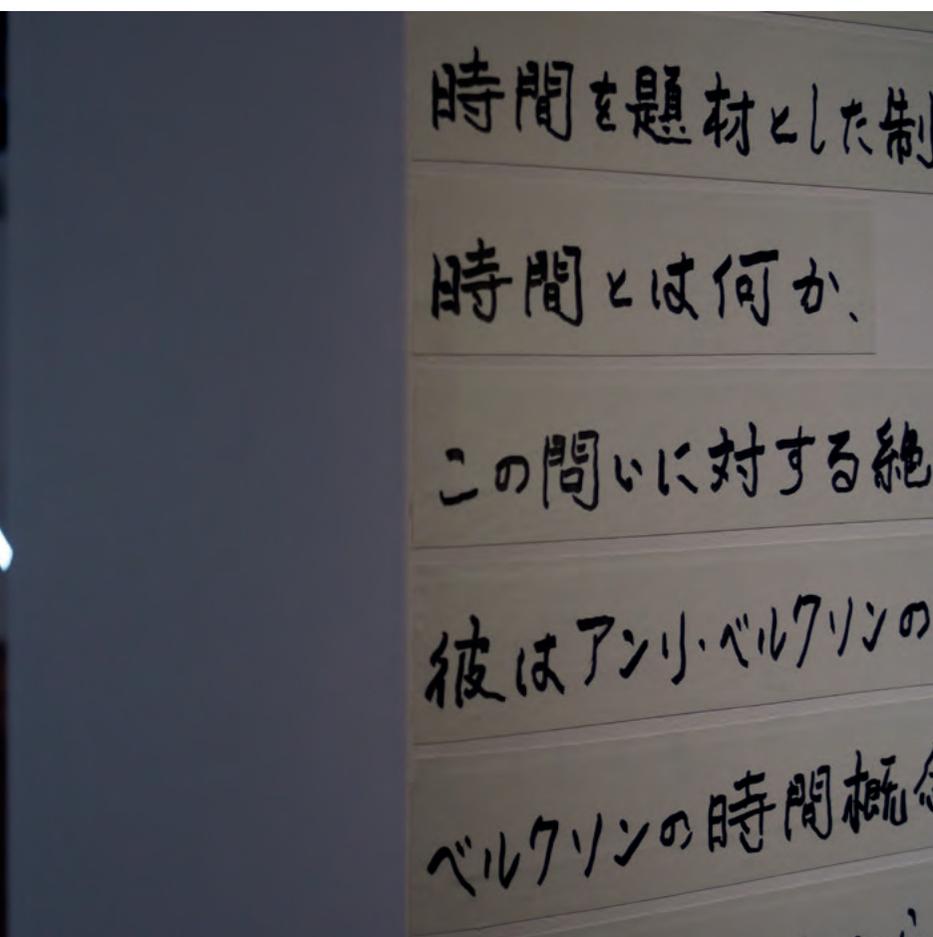
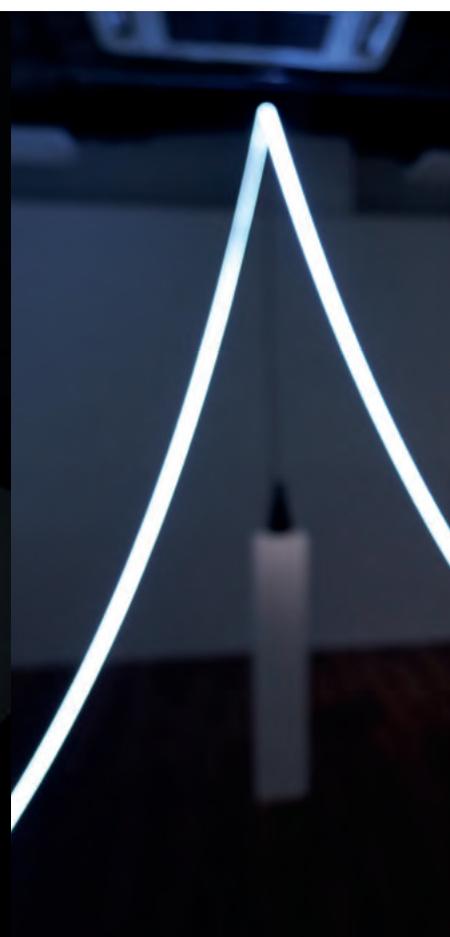
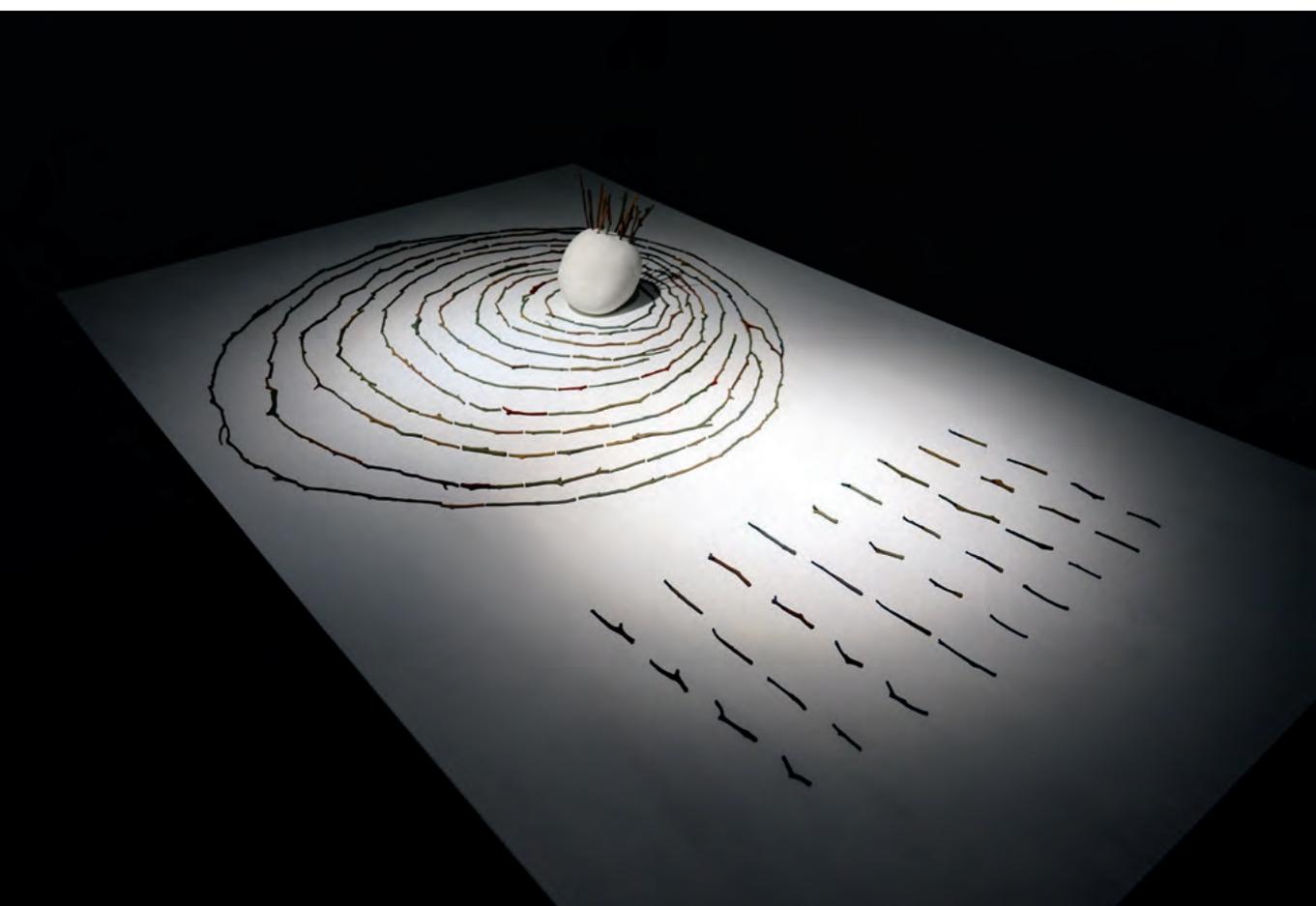
会場 京都精華大学サテライトスペースDemachi

主催 李越

出展作家 李越



大学院デザイン研究科プロダクトデザイン領域に在籍する李越の個展。哲学者アンリ・ベルクソンの「時間論」の考えをデザインとアート的手法で表現することで、理論の本質が理解できなくても、その魅力と浪漫を感じることで理解を深められる方法を探求した。展示空間を「意識の時間」と「空間化された時間」の二つに分けて、自作のプロダクトや映像によるインスタレーションやグラフィック作品を展示した。



申請展

ときに ズレのハザマで

2021年11月24日[水] - 12月4日[土]

開場時間 12:00-19:00

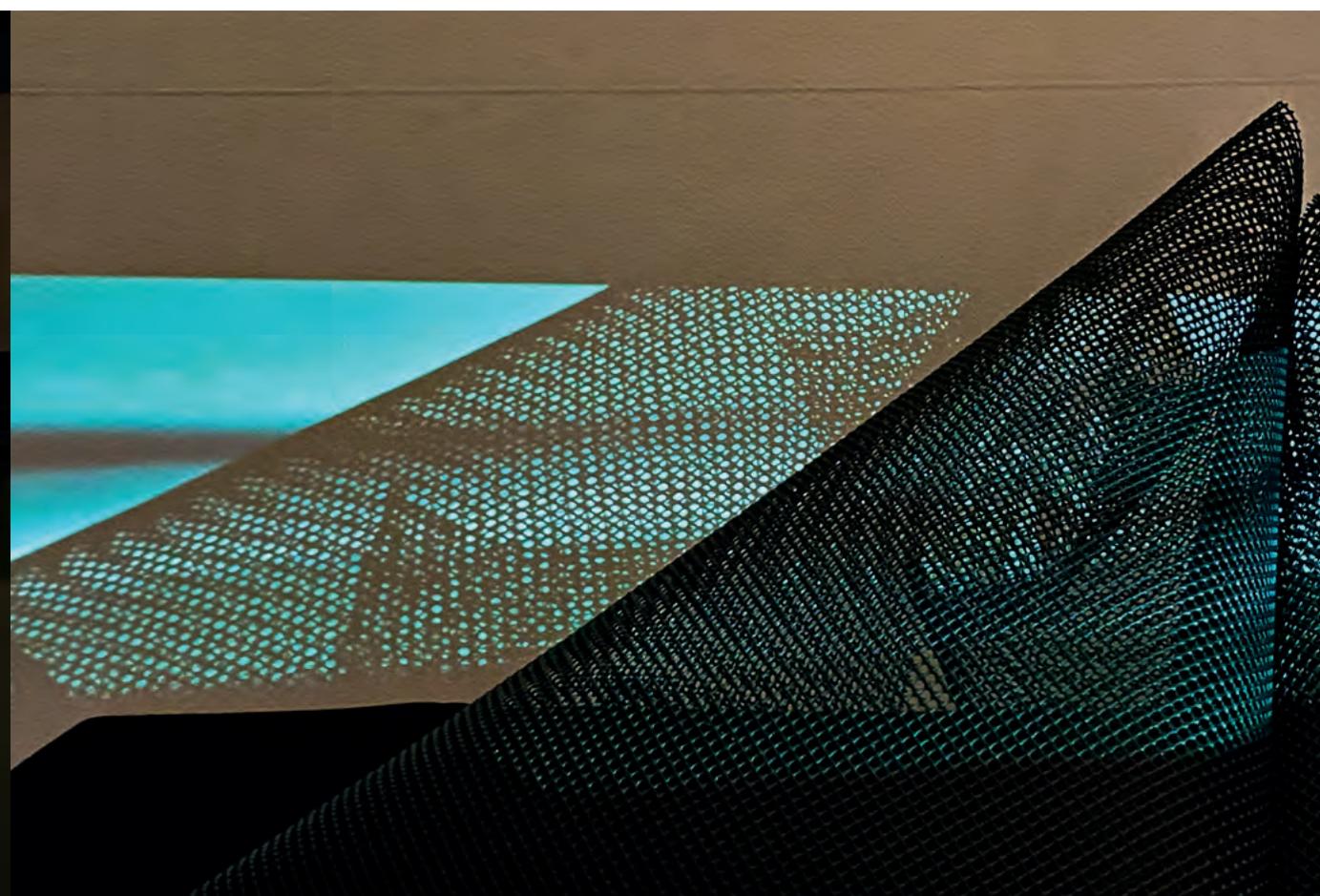
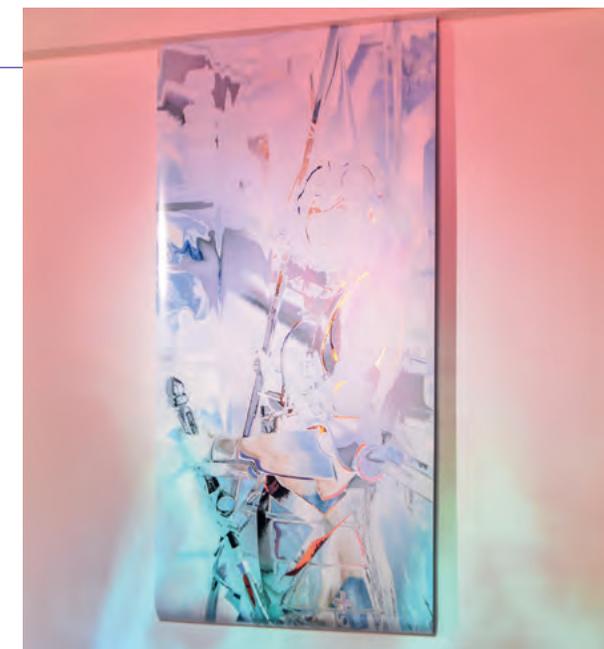
会場 京都精華大学サテライトスペースDemachi

主催 魏威

出展作家 魏威/阮相傑



大学院芸術研究科版画領域と映像領域に在籍する魏威と阮相傑による二人展。記憶の中の形や色は変化し、気づかぬうちに自身の思考に影響を与えていることに着目し、映像や写真を用いた複数のインスタレーション作品によって空間を構成した。



日本画三人展 死に花をさかせる

2021年12月15日[水] - 12月25日[土]

開場時間 12:00-19:00

会場 京都精華大学サテライトスペースDemachi

主催 加藤日南美

出展作家 加藤日南美/須賀菜々美/乾 陽光



芸術学部日本画コース三回生による三人展。展覧会名は、植物の朽ちてゆく姿を描きたい、死んでしまった花に宿っていた精霊を悼む気持ちを込めて花束を描きたいという思いから付けられた。植物の朽ちていく過程を、精霊の文字にも含まれている『あお』色を基調とした配色で表した。寂しさや悲しさを感じる雰囲気であるものの、作家三人三様の表現方法や配色の違い、テーマに対する個人の見方や向き合い方が混ざり合った展示となった。



創造的ドローイング展

— 作家になるために HOW TO BE AN ARTIST —

2022年1月7日[金]—1月13日[木]

開場時間 12:00—19:00(最終日は15:00まで)

会場 京都精華大学サテライトスペースDemachi

主催 北山善夫

出展作家 岩本芳春/杉浦野々花/木下万吏奈/田中明日香/センカイトイ/伊藤愛由莉/木原庸造/西村圭織/灰野来花/藤田ひかる/松田 紫馬/山田聖/山本竜大/コキツチン/小中さんご/斎藤朝日/染谷 早紀/辻 玲於奈/松本玲果/山川晴子/脇田舜生/チョウジンユ/安更彩夏/山下茜里/北山善夫



芸術学部の授業「創造的ドローイング」の成果発表展。サテライトスペースDemachiで各学生個人の作品を展示したのに加え、学内施設「春秋館ギャラリー」で授業内で描いたドローイングを展示した。
※春秋館ギャラリーの会期は1/20(木)まで開催。



既知との遭遇

北浦和也×やんツー

2022年1月15日[土] - 1月21日[金]

開場時間 12:00 - 19:00 (最終日は16:00まで)

会場 京都精華大学サテライトスペースDemachi

主催 京都精華大学現代アートプロジェクト実行委員会

企画 染谷早紀/立花あかり/陳琪/辻大輝/丁翊航/
磨田花朗/檜館幸花/平松和佳奈/付唯一/
馬寶斯/丸川紅蓮亜/森本菜南/劉峻如/脇田舜生

監修 吉岡恵美子(京都精華大学芸術学部教員)

出展作家 北浦和也/やんツー



芸術学部の授業「現代アートプロジェクト演習4」の受講生たちが企画運営。主に木を用い、人や動物などのモチーフをスケールと文脈を無視して組み合わせ、見たことのない世界を創り出す北浦和也と、見慣れた既製品にデジタル技術を組み込み、人間の行為を情報技術が代替する自律型の装置を作品として提示するやんツーを紹介した。一見して対照的な2名の作家は、互いの稀有な世界観が交差するコラボレーション作品にも挑戦した。

関連イベント

アーティスト・トーク 北浦和也×やんツー

Instagram&YouTubeにてオンライン配信



京都精華大学大学院 1年生研究制作展

2022年1月25日〔火〕-1月29日〔土〕

開場時間 12:00-19:00

会場 京都精華大学サテライトスペースDemachi

主催 京都精華大学

出展作家 大学院芸術研究科/デザイン研究科/マンガ研究科有志

芸術研究科=池山瑠樹/亀田ひなた/ギイ/ゲンソウケツ/玉岡莉子/チョウブレイ/

テイズイガン/西中麗美奈/リュウカイトウ デザイン研究科=コウリョウチ

マンガ研究科=チョウイネイ/テイブンケン/リゲイカツ/リンサンサン



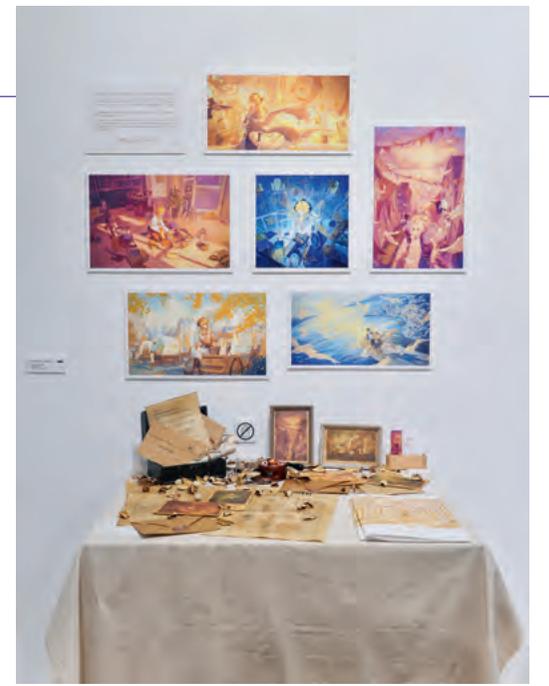
大学院芸術研究科、デザイン研究科、マンガ研究科の1年生の中から展覧会への参加を希望する14名が出品した。大学院の授業「プロジェクト企画演習」とおとして、各自の作品プランを深めたほか、広報物の作成や展示プランの検討など、展覧会を開催するために必要な様々な要素を学び、各研究科が協働して、それぞれの特色を活かしながら、一つの展示空間を創り上げた。コロナ禍において、社会が変化するなか、彼ら・彼女らのいまを反映した作品たちが並び、一年間の研究・制作の成果を発表する場となった。

関連イベント ※学内者対象

出品者による公開プレゼンテーション

日時 1月28日〔金〕10:30-12:00

ゲスト 渡辺亜由美(滋賀県立美術館 学芸員)



京都精華大学大学院 芸術研究科 修了制作展2022

2022年2月16日〔水〕-2月20日〔日〕

開場時間 10:00-17:00

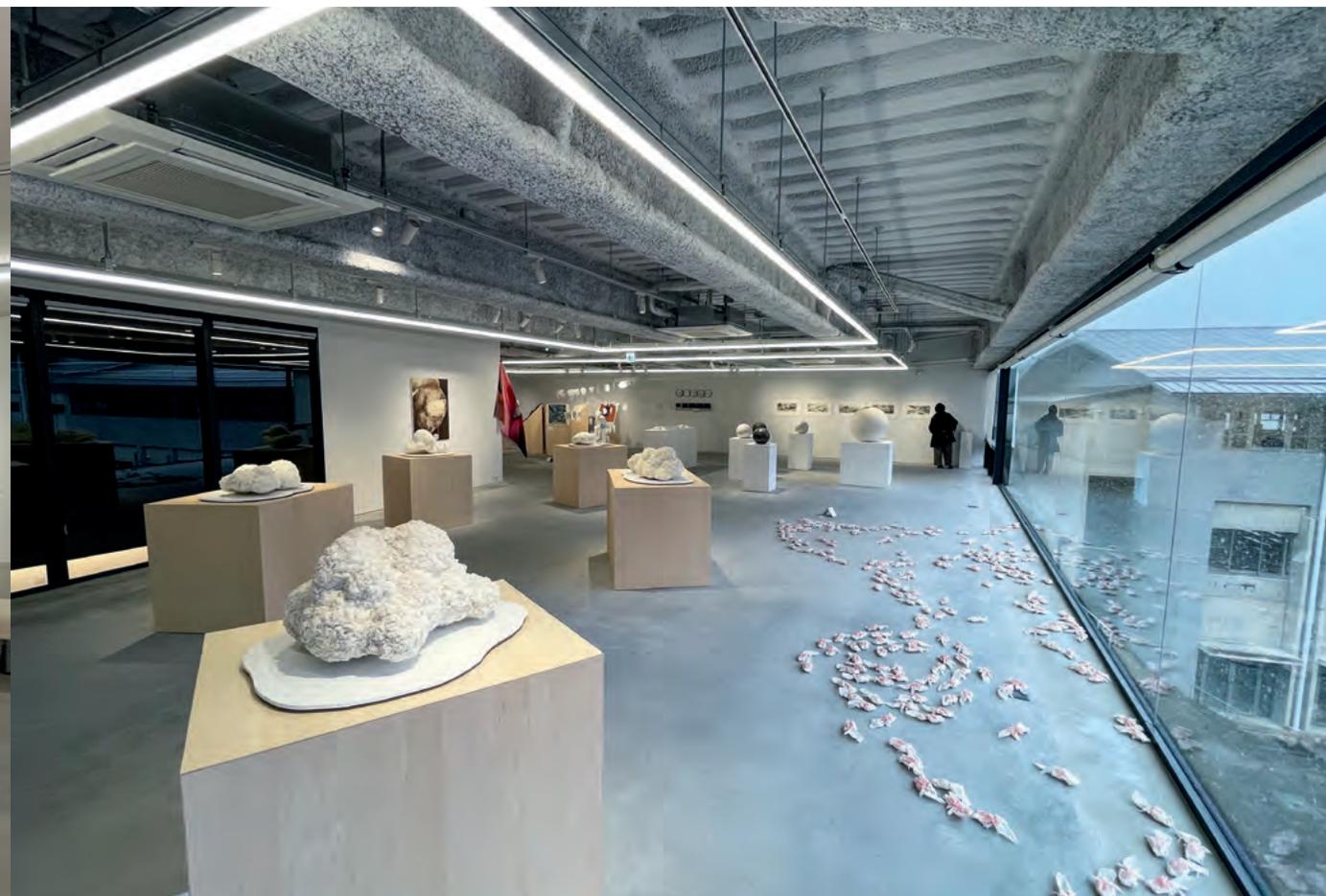
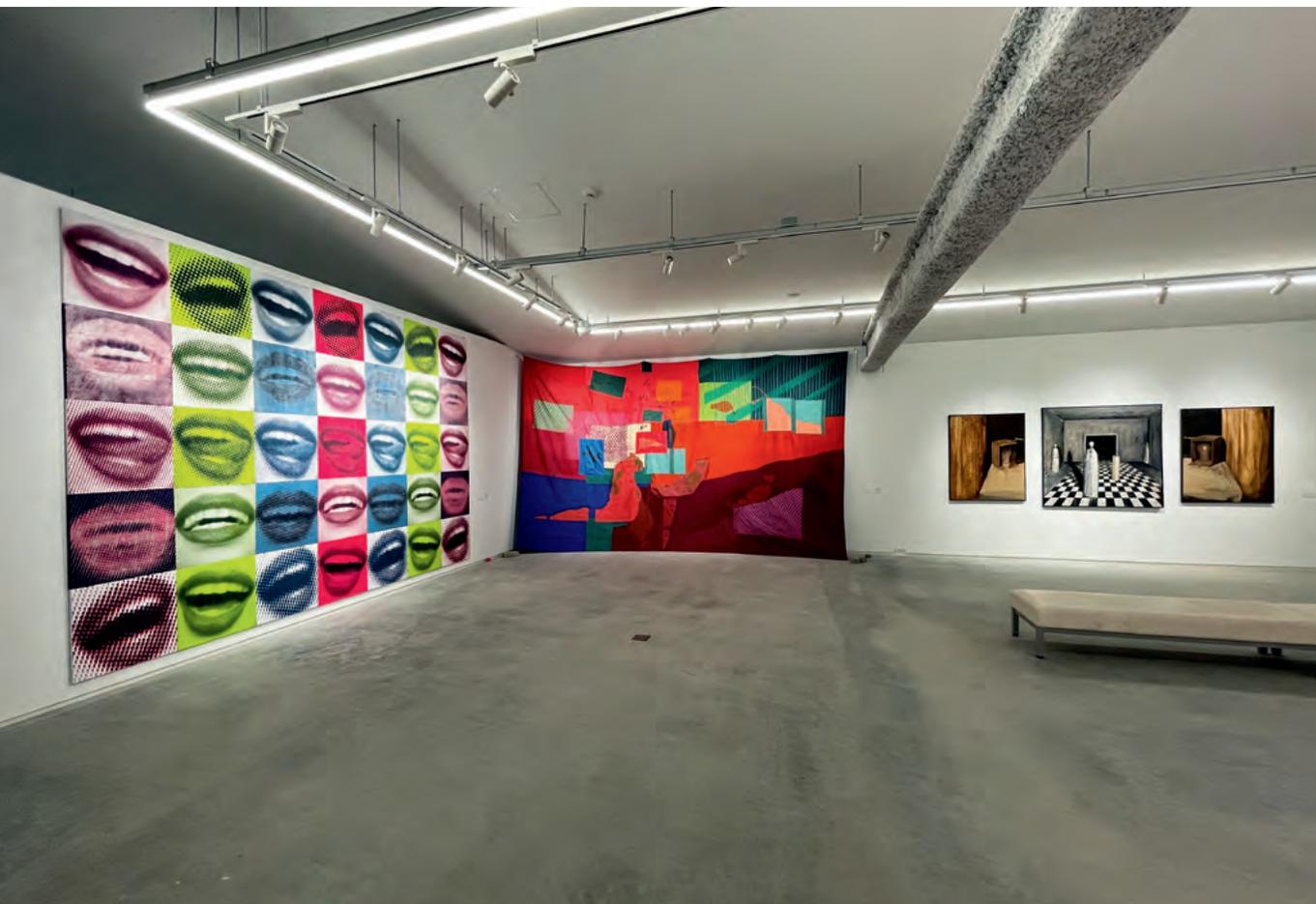
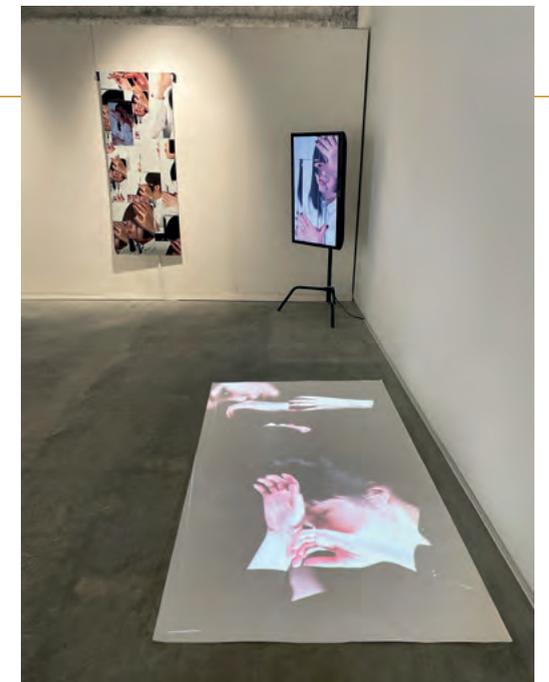
会場 京都精華大学ギャラリーTerra-S

主催 京都精華大学大学院芸術研究科



出展作家 日本画領域=高橋翔平/田中奈月/森元千香子/森本波乃/ハクシヨウ/ライウタ 洋画領域=シュライナー コール 立体造形領域=コウ コウグウ 陶芸領域=ソウ カイジヨ/リ セイウ/リュウ セイエン 染織領域=浅井千春/井阪 郁/シークリスト ケイト 版画領域=今泉 春/奥山紗代子/木子幸恵/ホウ ブンズイ 映像領域=ウブンシュン/チョウイチハン/テイブンセン/ニンコウ/ララン/リシホウ/リュウカク

「京都精華大学展2022～卒業・修了発表展～」における大学院芸術研究科の展示。大学院での二年間の制作・研究の成果の発表の場として、日本画、洋画、立体造形、陶芸、染織、版画、映像、各領域の修了生がその成果を発表した。



2021年度来場者数

2021年度 ギャラリー来場者数

展覧会名	来場者数
申請展 「Cycle -Kyoto Seika University Textile Course 4th Grade Students Show-」	130
申請展「Weaver's field -辻田研展示会」	93
申請展「CROSS OVER」	124
申請展「9日間雨が降り続けた」	149
申請展「死ぬまで絵を描き続けるには」	228
申請展「『悠々閑々』ARAIISO Yoshiko」	101
申請展「Nymph/ニンフ」	126
申請展「Take it Out (ファストフードの見方)」	108
申請展「京都精華大学助手展2021」	115
企画展「流れる景色、さまよう目」	652
申請展「沁みる百代の煩い」	180
申請展「時間との結びへ」	79
申請展「ときに、ズレのハザマで」	91
申請展「日本画 三人展 死に花をさかせる」	100
申請展「創造的ドローイング」	78
申請展「既知との遭遇」	139
申請展「京都精華大学大学院1年生研究制作展」	131
京都精華大学大学院芸術研究科修了制作展2022	3117
「アートをおく」成果展示	70
高校生のための第3回創作作品コンペティション「SEIKA AWARD 2022」入選作品展	151
年間合計	5962

2021年度 その他イベント参加者数

イベント	参加者数
相談&レクチャー「アートをやる」	45
トーク&ワークショップ「アートをおく」	34
年間合計	79

利用案内

京都精華大学 ギャラリーTerra-S

京都精華大学明窓館3階の一部
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

開場日 展覧会開催期間
休場日 日曜日・祝日・大学が定めた日
開場時間 11:00-18:00(展覧会により異なる)
入場料 無料

京都精華大学 サテライトスペースDemachi

京都市左京区田中上柳町25-3
京阪出町柳ビル2階(叡山電車出町柳駅西側)

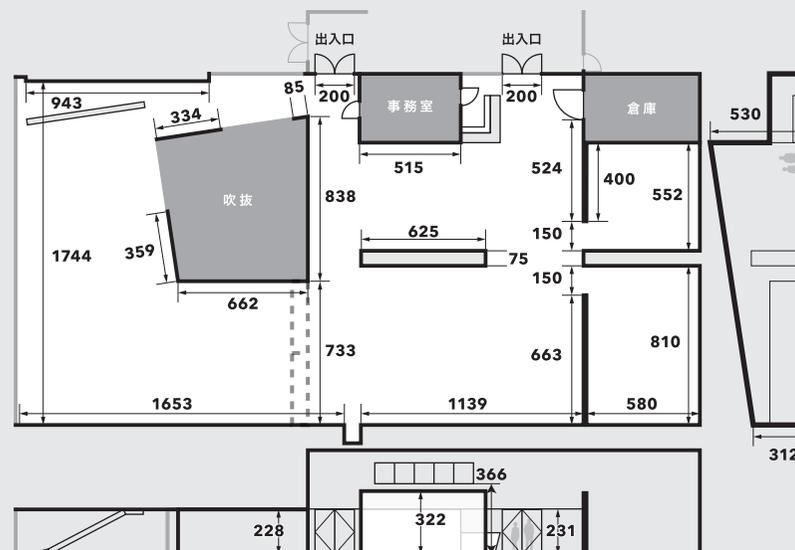
開場日 展覧会開催期間
休場日 月曜日・日曜日・大学が定めた日
開場時間 11:00-18:00(展覧会により異なる)
入場料 無料

お問い合わせ

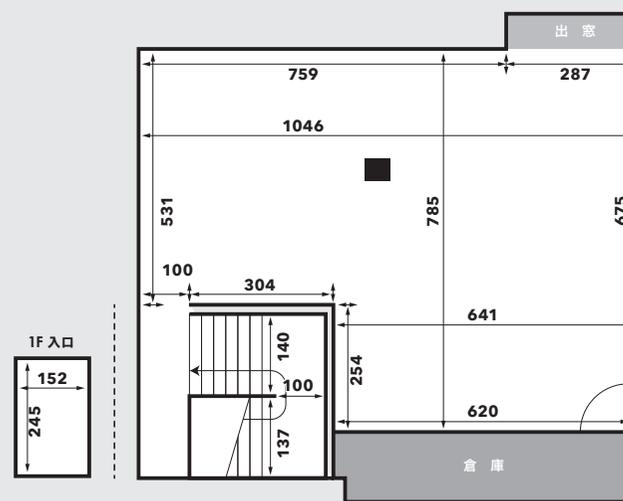
ギャラリーTerra-S
京都精華大学 明窓館3階
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
TEL 075-702-5263
FAX 075-722-5440
E-MAIL gallery@kyoto-seika.ac.jp

施設図面

京都精華大学ギャラリーTerra-S



京都精華大学サテライトスペースDemachi



京都精華大学ギャラリーTerra-S



京都精華大学サテライトスペースDemachi

京都精華大学

展示コミュニケーションセンター

2020年度活動報告

京都精華大学 展示コミュニケーションセンター 2021年度活動報告

編集 伊藤まゆみ(京都精華大学展示コミュニケーションセンター)

デザイン 加瀬部敏志

撮影 表恒匡(p14-15)/麥生田兵吾(p34-37)/花戸麻衣(p48-49)

発行 京都精華大学
〒606-8588京都市左京区岩倉木野町137
www.kyoto-seika.ac.jp

発行日 2022年3月29日

目次

【概要】

2020年度活動サマリー 60

【展覧会】

ラグランジュ点 -Lagrange point(s) 62

参与観察 64

日日の観察者 66

グランドクロス 70

LOOPEND 72

ひかり 74

Style 76

創造的ドローイング -作家になるために How to be an artist 78

タイカン後期学修成果発表2021 80

京都精華大学大学院1年生研究制作展 82

京都精華大学展2021 PICKS! 84

【基本情報】

来場者数・利用案内 86

施設図面 87

2020年度 活動サマリー

展示コミュニケーションセンターは、2020年度は、創造戦略機構のアクションプランに基づき、企画展や申請展の実施のほか、本館ギャラリーの施設運営、新ギャラリーのオープン準備、教育普及事業（ワークショップ及びトークイベント）、アートフェア出展等の事業を計画していたが、新型コロナウイルス流行の影響を受け、実施困難となったものや軌道修正しながら実施したもの等、この状況下に柔軟に対応しながらの事業開催となった。

企画展は、昨年に引き続き、ホテルアンテルーム京都のギャラリーにて、活躍する本学出身アーティストによるグループ展「日日の観察者」を開催し、日々のささやかな出来事や人々の暮らしを観察し、独自の思考と手法で新たな風景を生み出す4名の作家、小出麻代、花岡伸宏、藤野裕美子、松元悠を紹介した。コロナ禍において、オープニングイベントやワークショップ等、人が集まる催しは開催できなかったが、展覧会インスタグラムの運営や展覧会動画の配信など、会場に訪問できない観客にも展覧会を楽しんでいただけるよう工夫した。3ヶ月という長い会期をホテル側より提供いただけたことから、「Go To Travel」実施期間とも重なり、5000人を越える来場者に展示をご覧いただけた。

申請展は、2021年末竣工予定の明窓館の建替工事に伴い、ギャラリーフロールが休館となったため、本館1Fに期間限定で新設した「本館ギャラリー」で実施した。緊急事態宣言による入構禁止を受け、4月のギャラリー開設予定が9月にずれ込むことになったが、9つの展示を開催することができた。

在学生及び教職員による展示としては、「ラグランジュ点 -Lagrange point(s)-」、「参与観察」、「グランドクロス」、「LOOPEND」、「ひかり」、「Style」など、コロナ禍に影響を受けたテーマの展示や、絵画、写真、メディア・アート、テキスタイル、華道など、様々なメディアによる展覧会が開催された。授業の成果発表展示としては、「タイカン後期学修成果発表2021」、「京都精華大学大学院1年生研究制作展」、「創造的ドロ잉 -作家になるために How to be an artist」が、学生の制作・研究活動の集大成として実施された。本館ギャラリーは、本館1F入口という立地や、ガラス壁に囲まれた空間であることから、外から展示が見えて入りやすく、多数の来場者があった。展示空間の広さもコンパクトで、展示慣れしていない在学生にとっても挑戦しやすいギャラリーで好評だったが、事務所工事のため、1月末で閉設となった。

新ギャラリーのリニューアル準備としては、ギャラリーのホームページのリニューアルを行い、スマートフォンやタブレット画面にも対応したレスポンシブデザインや英語ページの増設等、外国人・高齢者等を含め、多様な人々がアクセスしやすいサイトに改修を行い、3月末の公開を予定している。

また、新ギャラリーの運用について、利用規程の作成、申請展マニュアルの見直し、備品の新規購入及びギャラリーのロゴ・サイン計画の検討等を予定していたが、ギャラリー竣工時期の遅れのため、引き続き次年度に検討していくこととなった。また、よりよいギャラリー運営を模索するため、他の美術大学のギャラリーの視察やギャラリー間のネットワーク構築も目標としていたが、出張が難しい状況であったため、こちらも次年度に状況をみながら実施していく。

コロナの影響によって事業実施を断念したものとしては、東京や関西で開催されるアートフェアへの出展や、卒業・修了展会期中に国立京都国際会館で開催予定だったアートフェア「Art Collaboration Kyoto」と連携した卒業ツアーやギャラリストを招聘したトークイベントを予定していた。学外に活動を

広げ、本学及び展示コミュニケーションセンターの活動を発信しようとはかったが、いずれもアートフェア自体が開催中止、延期となったことから、実施を断念することとなった。

また、新たな事業として、本学と叡山電鉄株式会社との間に結ばれた包括連携協定に基づき開設した新スペース「京都精華大学サテライトスペースDemachi」にて、そのこけら落とし企画として京都精華大学展2021」と連携した公募展「京都精華大学展PICKS!」が開催された。「センターとしては、次年度、本スペースをギャラリーとして運用していくのに先立ち、「PICKS!」展の大学との連動および来場者層の拡大に向けた協力を行なった。今後、本学の教育・研究活動をさらに広く市民に向けて公開していくためのスタートを切ることができた。

次年度は、「京都精華大学サテライトスペースDemachi」における申請展の実施・運営や、新ギャラリーのオープン準備・運営、企画展やワークショップ及びイベントの実施、展示スペースの調査等とおして、引き続き、本学及び展示コミュニケーションセンターの活動をより社会に発信していく予定である。

申請展

ラグランジュ点

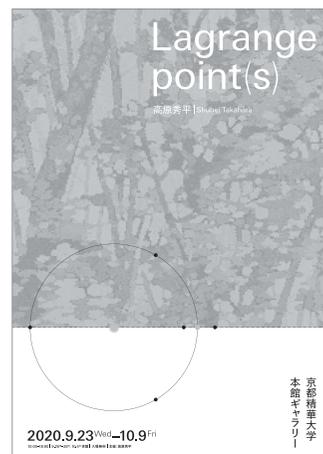
— Lagrange point(s) —

2020年9月23日〔水〕—10月9日〔金〕

開館時間 10:00—18:00

会場 京都精華大学 本館ギャラリー

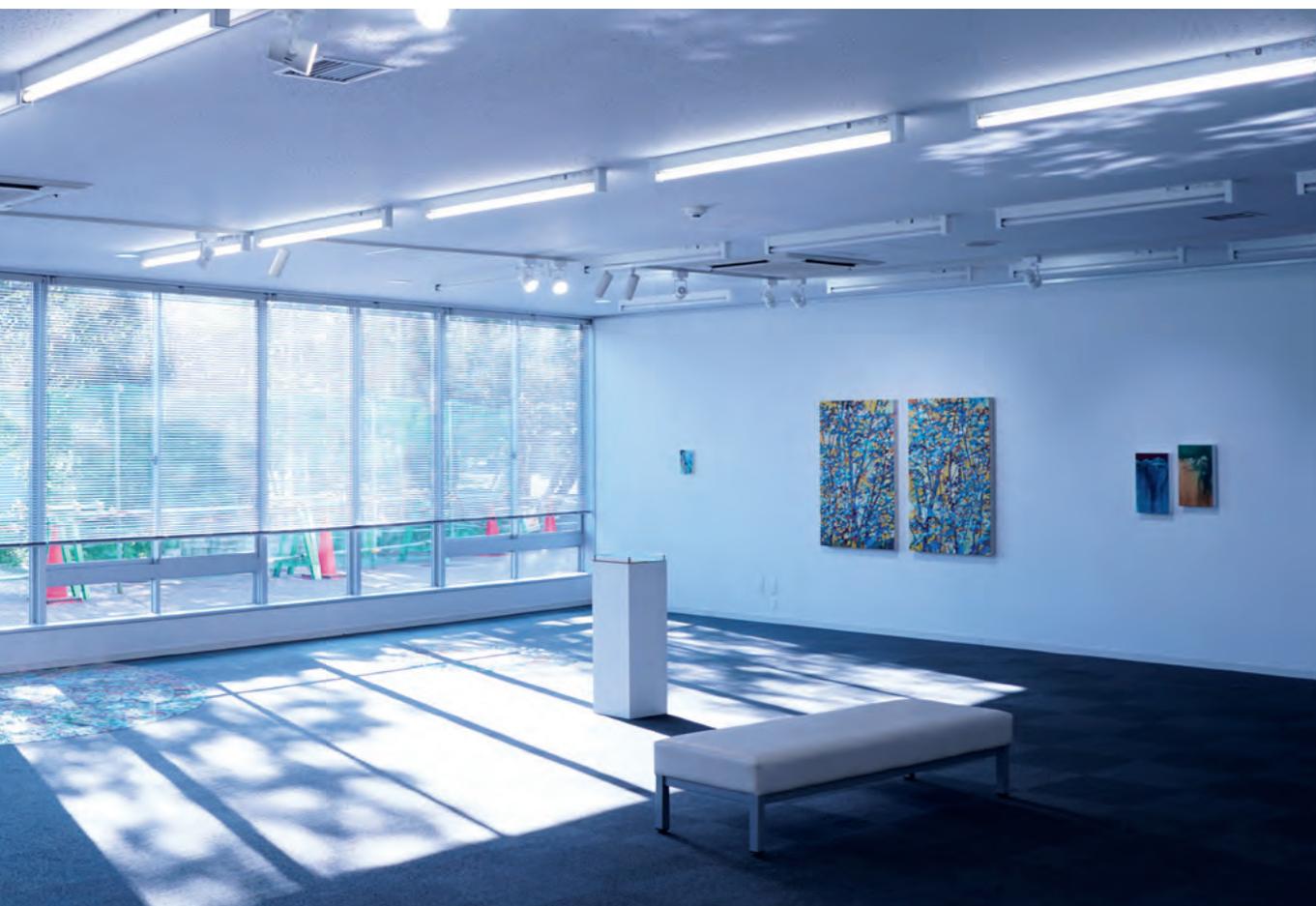
主催 高原秀平



高原秀平（2014年京都精華大学芸術学部造形学科洋画コース卒業）の個展。高原は近年、絵画制作を通して具象と抽象のはざまにある中途半端でありながら心地よい点を探してきた。「半抽象」という極めて曖昧な言葉が使われて久しいが、この不確かな概念に明確な解を求めたいと考えている。

今回の展示では天文学用語である《ラグランジュ点（ラグランジュポイント）》を基点とし、空間を構成した。

宇宙という不安定で揺らぎある環境であっても安定するラグランジュ点のように、具象と抽象の間にも、自身の求める点があるのかに存在するのではないかと。今回の展示が具象と抽象の間にある不明瞭な部分を照らすきっかけとなればと考えた。



参与観察

2020年10月14日[水]－10月26日[月]

開館時間 12:00－18:00

会場 京都精華大学 本館ギャラリー

主催 カクラブ

出展作家 内原和之/おおしまたくろう/
Authenticity/杉山雄哉



足元にうごめく、季節の円環に沿って生生流転する生き物。絶えることなく道路で合図を出し続ける車のウィンカー。感染防止の役割を超えて一種の”マナー”となった世相を反映する、路上の使い捨てマスク。街はシステムが表出する場所である。

「参与観察」は人が社会で生きていく際、必ず行う自然な行為である。

人は観察という行為によって、社会における自分の立場、視座を明らかにすることができる。今回の展示は、赤瀬川原平らの「トマソン」や、みうらじゅんの「飛び出し坊や」「since」など、路上観察学の系譜に連なる試みであると同時に、街や自らに潜むシステムを明らかにし、作者との社会的立場の距離感をもってこれを異化することを目的とした。



日々の観察者

2020年10月24日[土]ー

2021年1月10日[日]

開館時間 11:00-21:00

会場 HOTEL ANTEROOM KYOTO | Gallery 9.5
(〒601-8044 京都府京都市南区東九条明田町7番)

出展作家 小出麻代/花岡伸宏/藤野裕美子/松元 悠

主催 京都精華大学

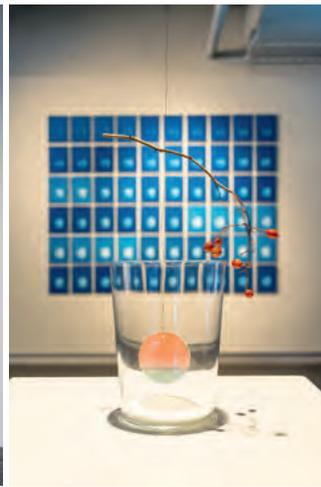
企画 伊藤まゆみ
(京都精華大学展示コミュニケーションセンター特任講師)



グラフィックデザイン
芝野健太



2020年後期企画展として開催。新型コロナウイルス感染症の世界的流行によって、これまでの日常が覆された今、あらためて自分自身と向き合い、日々の暮らしを見つめ直す時間が増えるなか、本学出身アーティストの中から、日々のささやかな出来事や人々の暮らしを観察し、独自の思考と手法で新たな風景を生み出す4名の作家、小出麻代、花岡伸宏、藤野裕美子、松元悠を紹介した。展覧会の内容をより観客に伝えるため、作家インタビューを掲載したハンドアウトの配布や展覧会Instagram (@nichinichi_no_kansatsusha)の運営を行なうと共に、会場に来られない人に向けて展覧会動画を作成した。展覧会をとおして、時代の大きな転換期にいる作家たちの日々の観察者としての表現をご体感いただいた。



グランドクロス

2020年10月29日[木] - 11月9日[月]

開館時間 12:00 - 18:00

会場 京都精華大学 本館ギャラリー

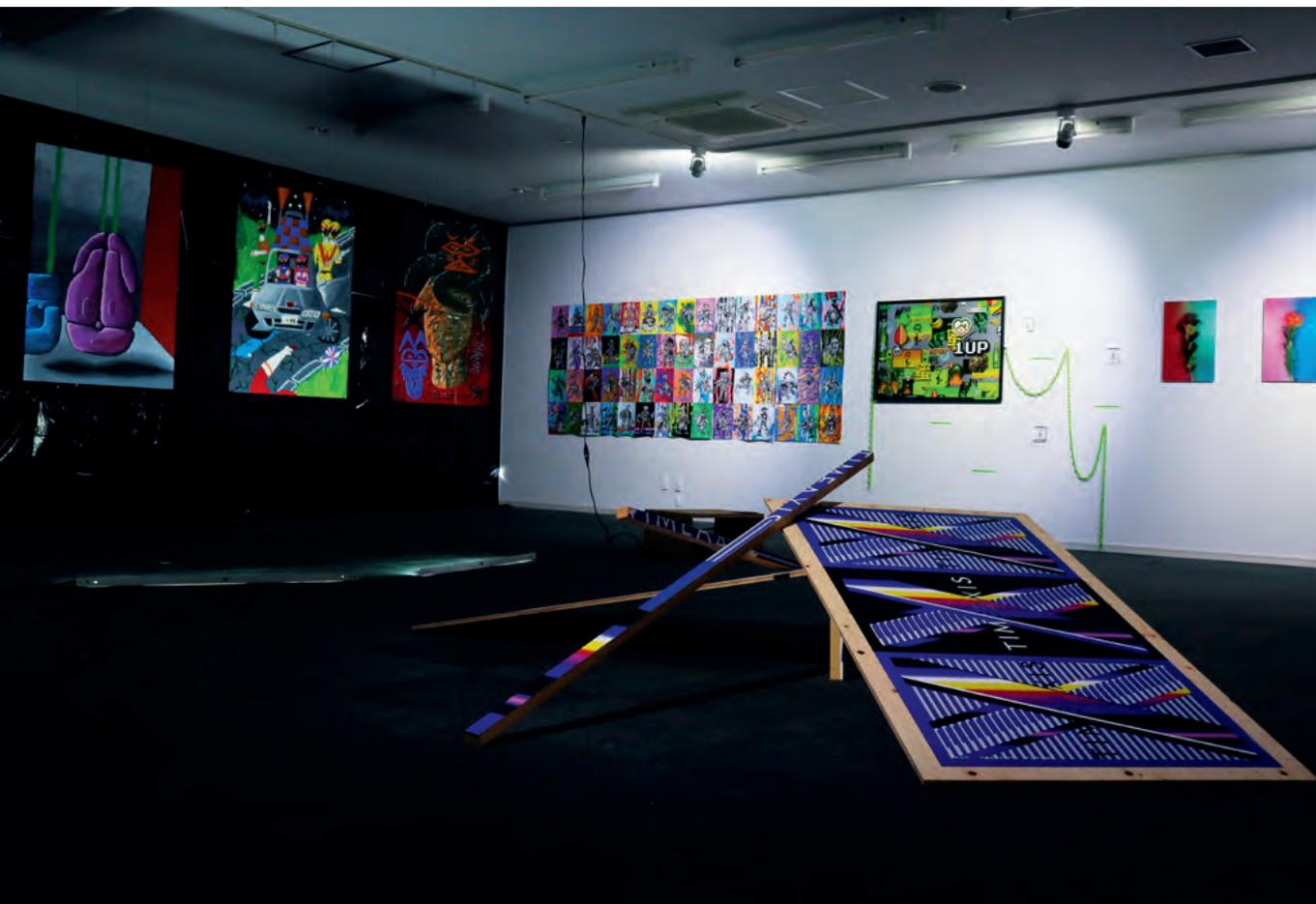
主催 大西晃生

出品作家 新井和洋 / 大西晃生 / 片寄優斗 / 櫻井隆成 /
せのー / 颯廣瀬 / 水田拓実 / 宮崎聖也



展覧会タイトルである「グランドクロス」は西洋占星術における言葉で、おひつじ座、おうし座、ふたご座...などいわゆる黄道十二宮において4つの惑星が十字形にならぶ配列を指す。占星術上では、不吉な星の配置を意味しており、例えば1999年に形成されたグランドクロスはノストラダムスの大予言と重なり、天変地異が起こるのではないかという事で話題になった。また、一部にはイエス・キリストの処刑と重ね、グランドクロスを巨大な十字架に見立てる事で、壊になった地球と共に人類が処刑されるという見方もされていた。しかし同時にこれは、キリストと十字架の関係において復活・再生を意味するものというふうにもとれる。

図らずも世界的に変化の年となった2020年。本展では参加作家たち一人ひとりが全く違う（もしくは共通する部分もある）特徴や性質を持つ惑星となり、ひとつの場所で重なる。そこで見えるのはどのような景色か、展覧会という形式を通して提示した。



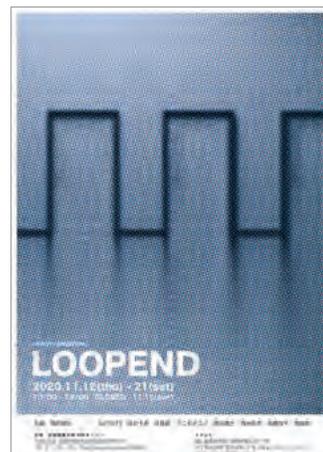
LOOPEND

2020年11月12日[木]ー11月21日[土]

開館時間 10:00ー18:00

会場 京都精華大学 本館ギャラリー

主催 酒井建治

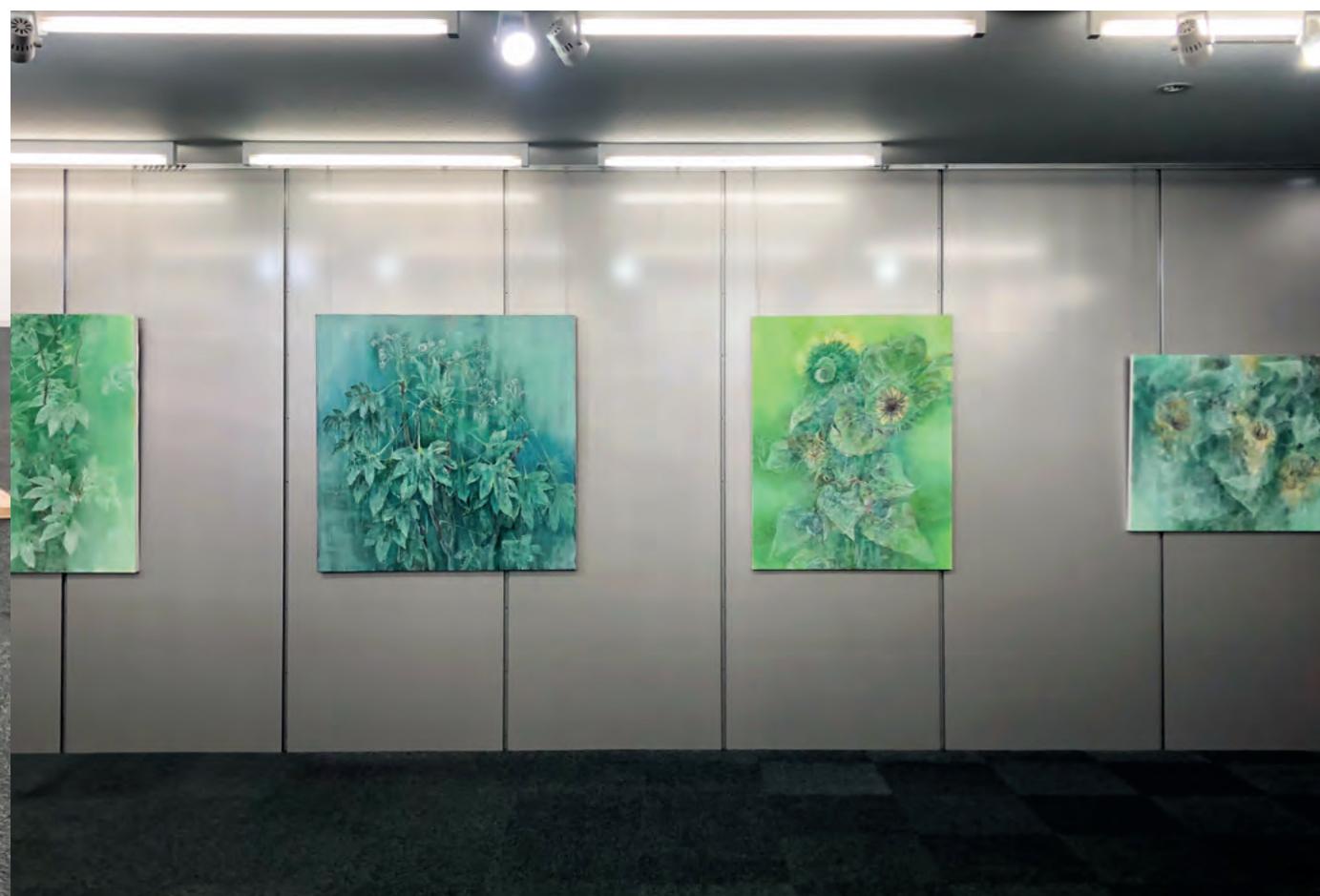
出品作家 浅井千春/井阪郁/クニモチユリ/清水佑季/
酒井建治/高橋翔平/陸瑋妮

密接に関わっていた作者と作品の関係は、完成によってその距離感が変化する。思考と共に手を動かし続けたものを完成とみなした瞬間、それらが自らの行動の履歴としてせき止められる。

余儀なく発表の機会が延期・消失されるような状況の中で制作の際に繰り返される手つきや工程は、イレギュラーな事態に遭遇し乱れてしまった各自の心情的な動きや作品に及ぼす変化をニュートラルな状態に整え、制作にまつわるモチベーションを維持する存在として機能している。絵画、版画、彫刻、テキスタイルなど多様なジャンルの作家から構成された本展では、描画や刷



り、染めといった様々な技法でイメージを定着させていく中で発生する差異が確認されるだろう。「反復」がどのような形で作品に現れ、影響を及ぼしているのか？その表われを実際の作品群や会場構成から発見いただけたらと考えた。



ひかり

2020年12月1日[火] - 12月2日[水]

開館時間 11:00 - 18:00

会場 京都精華大学 本館ギャラリー

主催 京都精華大学 嵯峨御流華道同好会



23回目を迎える京都精華大学華道同好会の展覧会。日本文化は、四季の中の自然の移ろいに五感を研ぎ澄ませ、様々な芸術に昇華させてきた。それは自然を受け入れ、自然と共存することで発展してきたと言える。しかし、近代化した都市で暮らす私達は、いつしか自然の中に生きているという実感をなくしていた。自然に目を向ける芸術「いけばな」は、そんな私達に人間も自然の循環の一部だと再び気づかせてくれる。この行先の見えない世界に差し込む一条の光のような展覧会を目指し、今回の展覧会を『ひかり』と名付けた。



Style

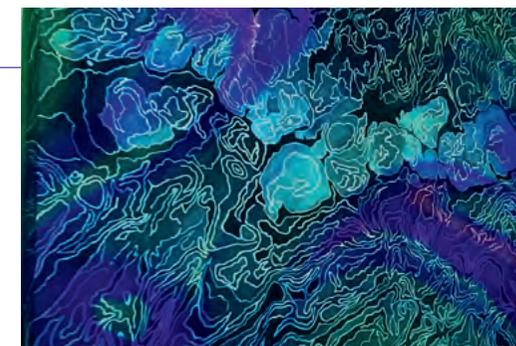
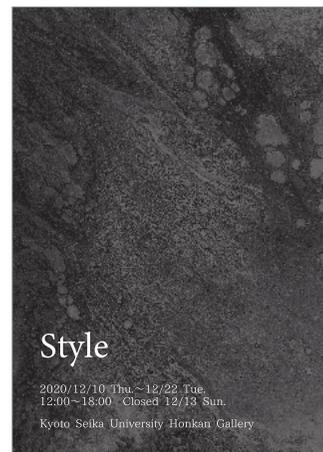
2020年12月10日[木] - 12月22日[火]

開館時間 12:00 - 18:00

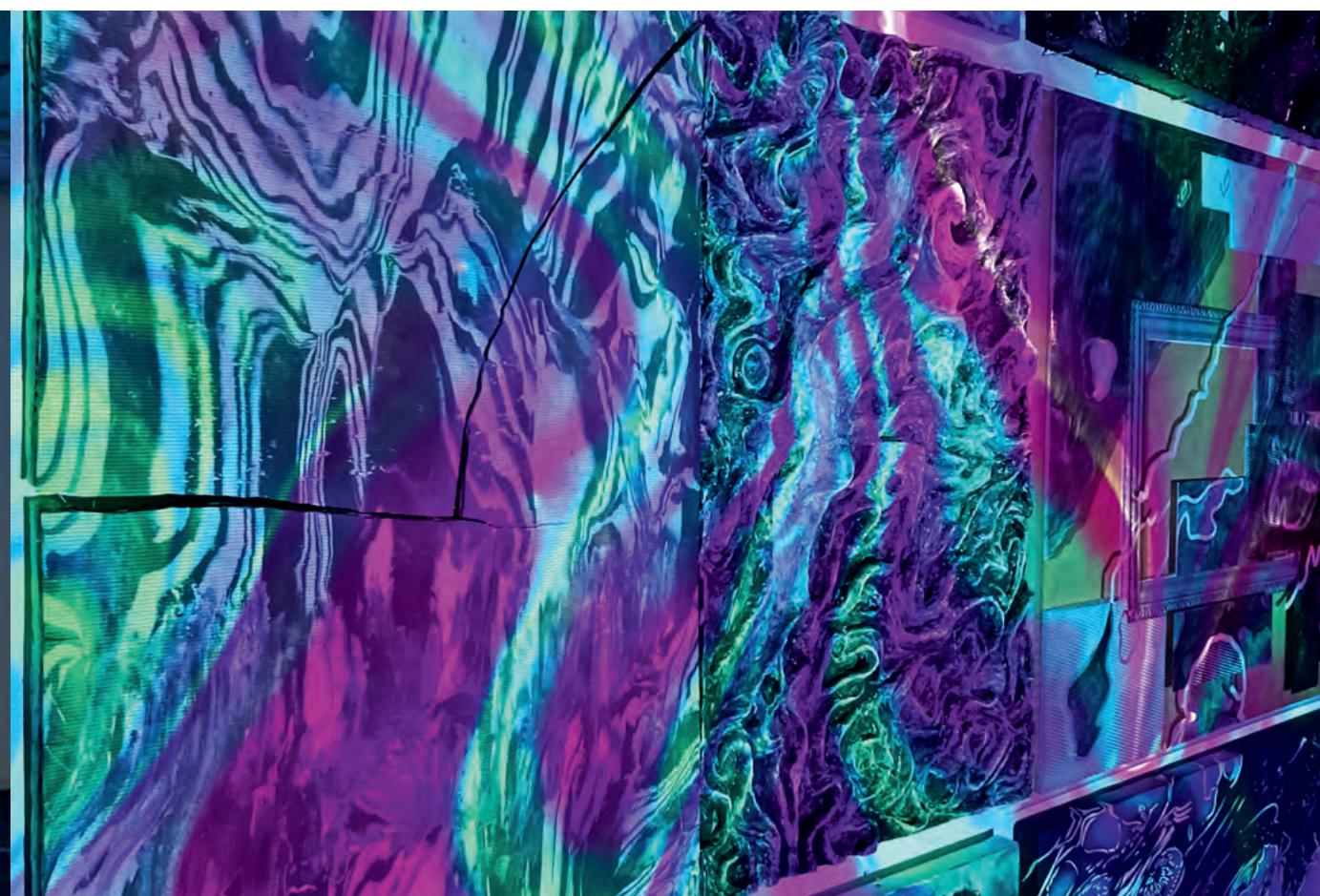
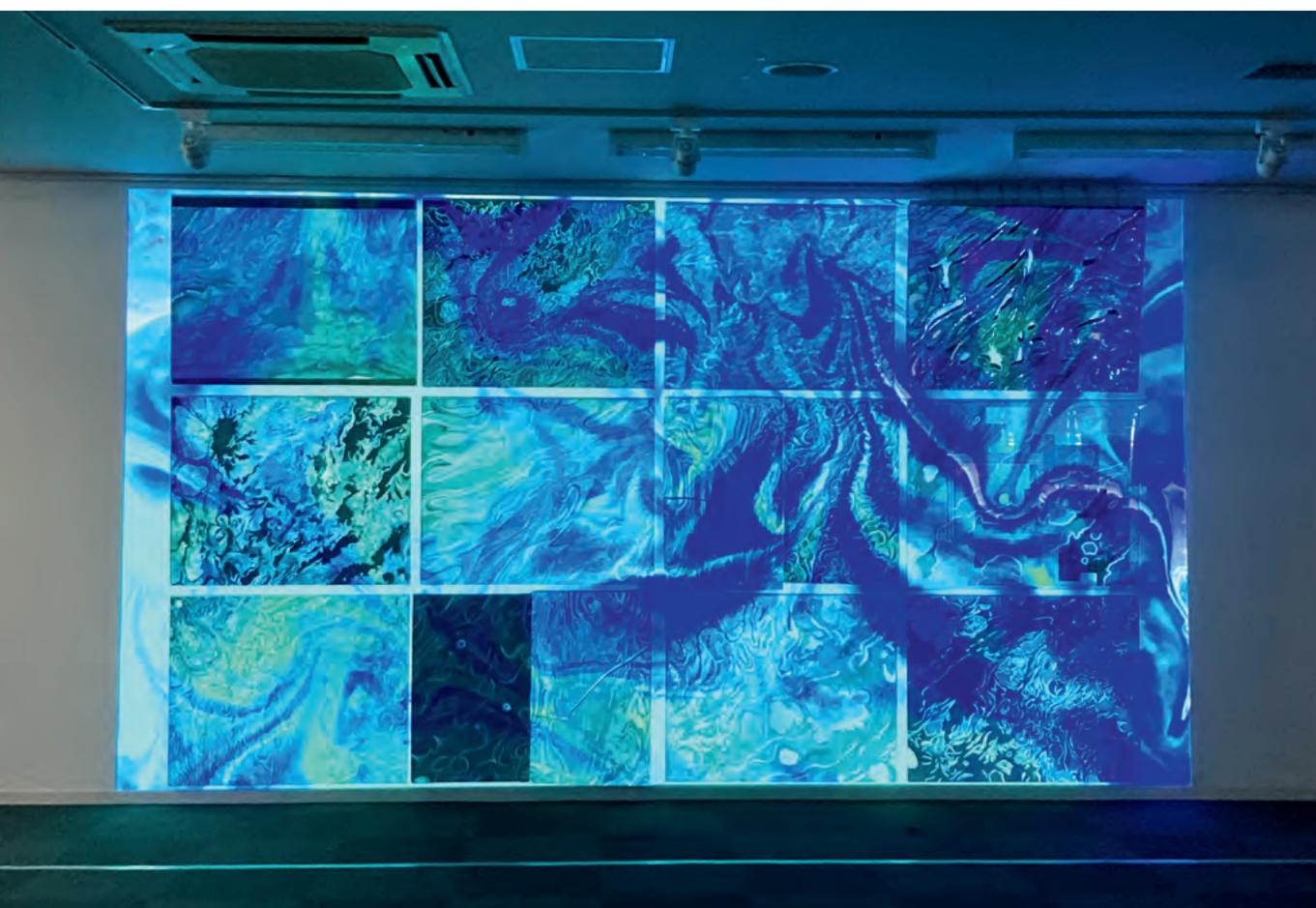
会場 京都精華大学 本館ギャラリー

主催 松本ことみ

出品作家 洋画専攻=橋本夏生(4回生)/増田京華(4回生)/松尾由紀奈(4回生) 日本画専攻=宮本美紗季(3回生)/吉田優人/Kapio(2回生) 版画専攻=水野智鶴(4回生) テキスタイル専攻=今井木野美(3回生)/杉浦野々花(3回生)/平大記(3回生)/松本ことみ/琴海(3回生) 陶芸専攻=橋爪陽(3回生) 立体造形専攻=堀川諒人(4回生)/坂本直輝(2回生) 映像専攻=富永恵太(4回生)/増田峻也(4回生)/芝田佑樹(3回生)/山崎祐哉(3回生)



芸術学部の全専攻、洋画、日本画、版画、テキスタイル、陶芸、立体造形、映像の7専攻の学生が異素材の合作を行なうといった、挑戦的な企画を行なった。原画は、「フロイドアート」という技法が持っている偶然性を活かした一枚の絵。それを分割し、再度組み合わせることによって、この展覧会のメンバーが出会った偶然、その出会いによって紋様が全く違う方法で紡がれていった。それぞれの作家の「Style」をその目を見て、素材や技法の違いをより感じて、より表現できると考えた。



申請展

創造的ドローイング

— 作家になる為に How to be an artist

2021年1月8日[金]—1月14日[木]

開館時間 10:00—18:00 (1月14日のみ15:00まで)

会場 京都精華大学 本館ギャラリー

主催 北山善夫

出品作家 平 大記/松本ことみ/吉田美空/池田凧沙/奥野真悠/小林疾風/
竹村 歩/橋爪 陽/矢野萌香/石井敦也/乾 陽光/大谷夕月/黒木莉緒/
午菴くるみ/ツピンディンティム 健人/馬場康治/山根世奈/渡邊光希/
キムハウン/テイヨクコウ/入谷 心/上坂優成/坂本直輝/山下茜里/北山善夫



京都精華大学芸術学部の授業「ドローイング」の成果発表展。各学生が選んだ自分の作品にくわえて、本授業のドローイングも出品した。

関連イベント

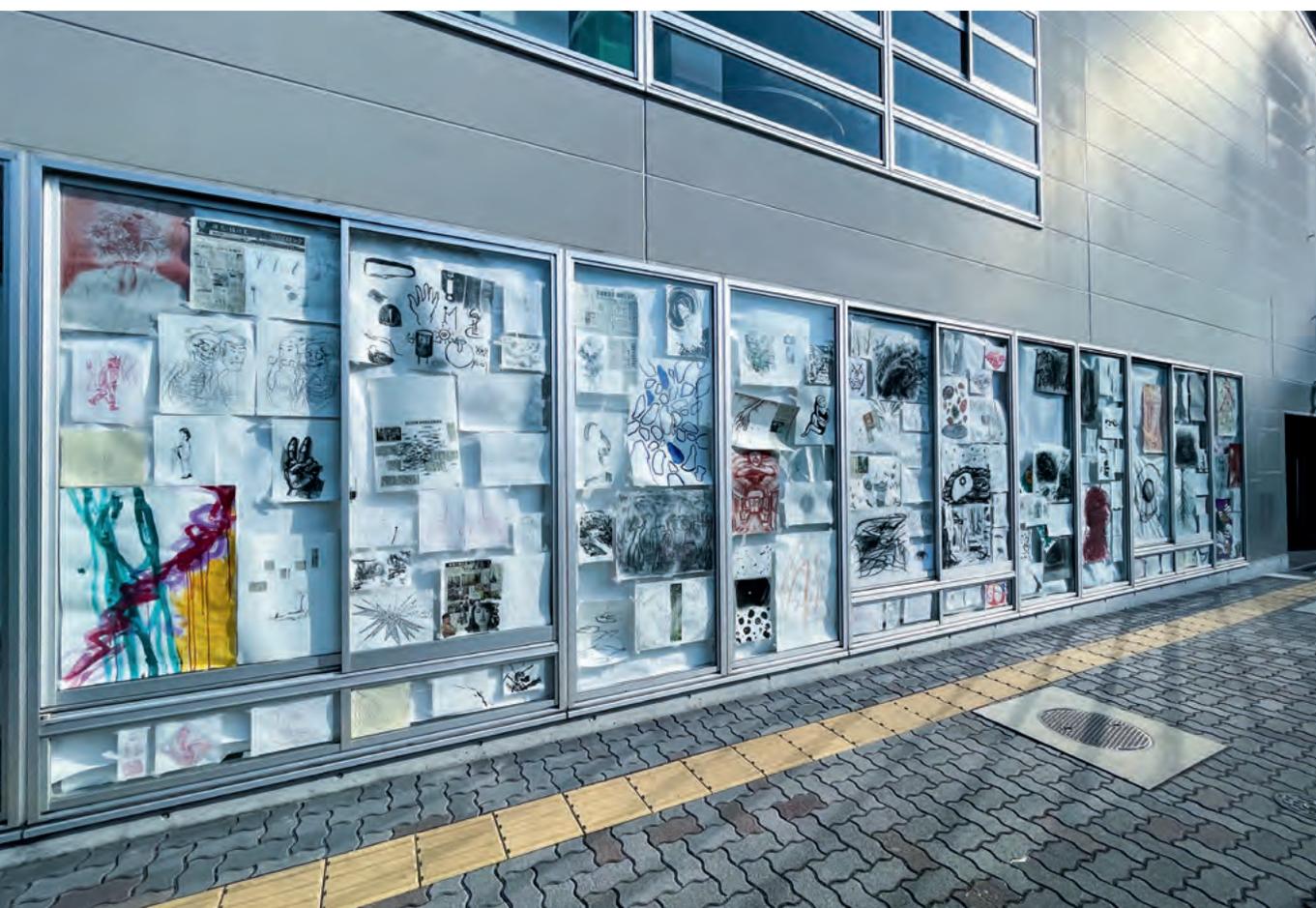
合評

日時 1月14日[木]13:00—15:00

ゲスト 宮永甲太郎

(京都精華大学芸術学部造形学科陶芸専攻教員)

モデレーター 北山善夫



タイカン 後期学修成果発表2021

2021年1月20日〔水〕-1月22日〔金〕

開館時間 11:00-17:00

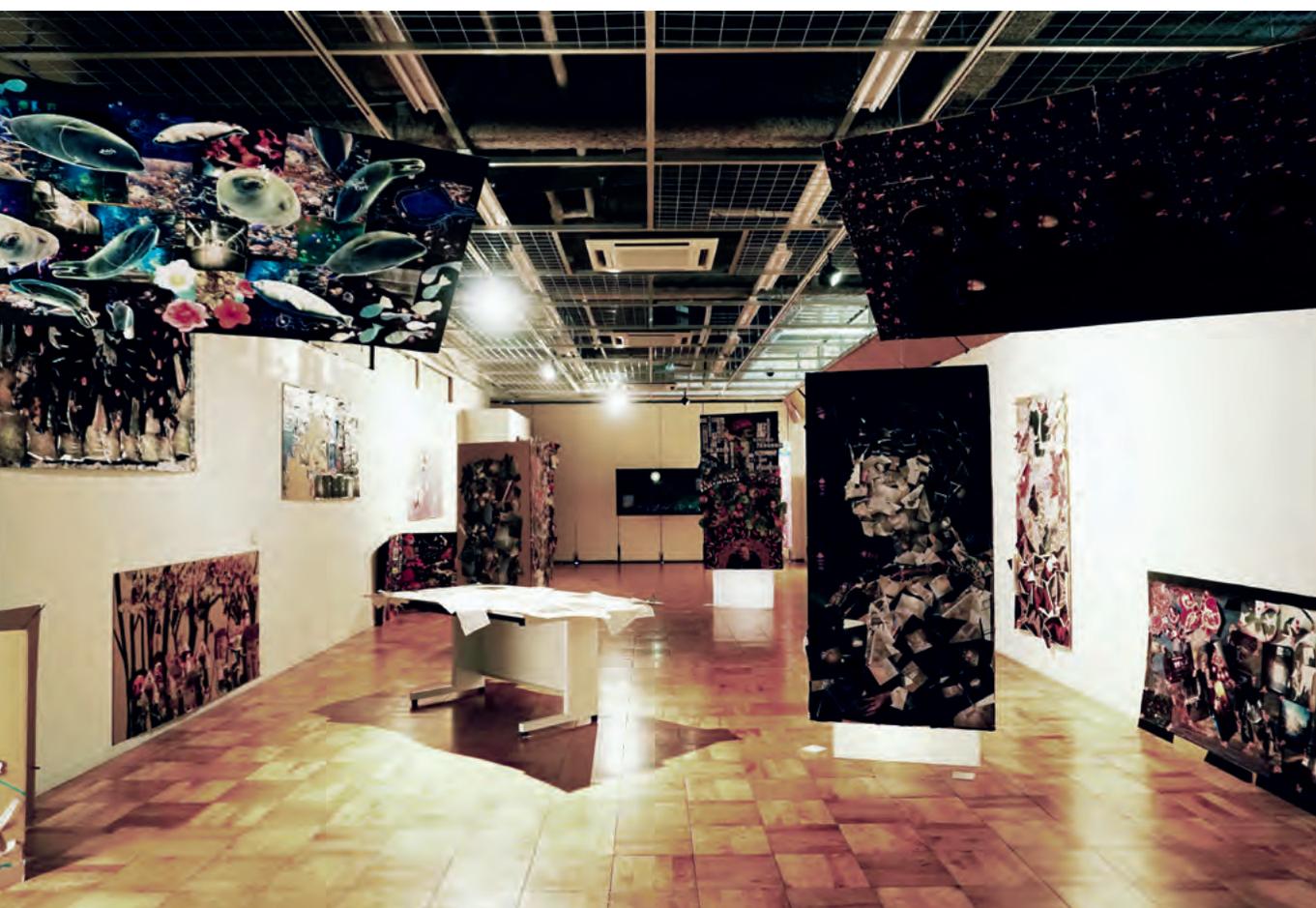
会場 京都精華大学 本館ギャラリー、自在館Z-101教室

主催 京都精華大学芸術学部造形学科1年次共通教育体幹教育



京都精華大学・芸術学部にて2017年度より新たに始まった1年次共通教育のひとつ「体幹教育」。本年度後期は「表現のバリエーション」(デザイン基礎/後期後半)の成果を展示した。「うつす」というキーワードを元にした様々な課題を通して、複製や組み合わせを使った表現の多様性を学んだ授業の最終課題として、本展示会の展示プランニングから設営作業までを学生自身が主導して行った。

※緊急事態宣言発出への対応の一環として、学内者のみへの公開とし、体幹教育公式Instagram (@seikagktaikan)にて学生自身による展示紹介を行った。



京都精華大学大学院1年生研究制作展

Kyoto Seika University 1st Year Graduate Student Show

2021年1月26日[火] - 1月30日[土]

開館時間 10:00 - 17:00

会場 京都精華大学 本館ギャラリー / 瑞雲庵 (京都市北区上賀茂南大路町62-1)

主催 京都精華大学大学院芸術研究科 / デザイン研究科

協力 公益財団法人西枝財団

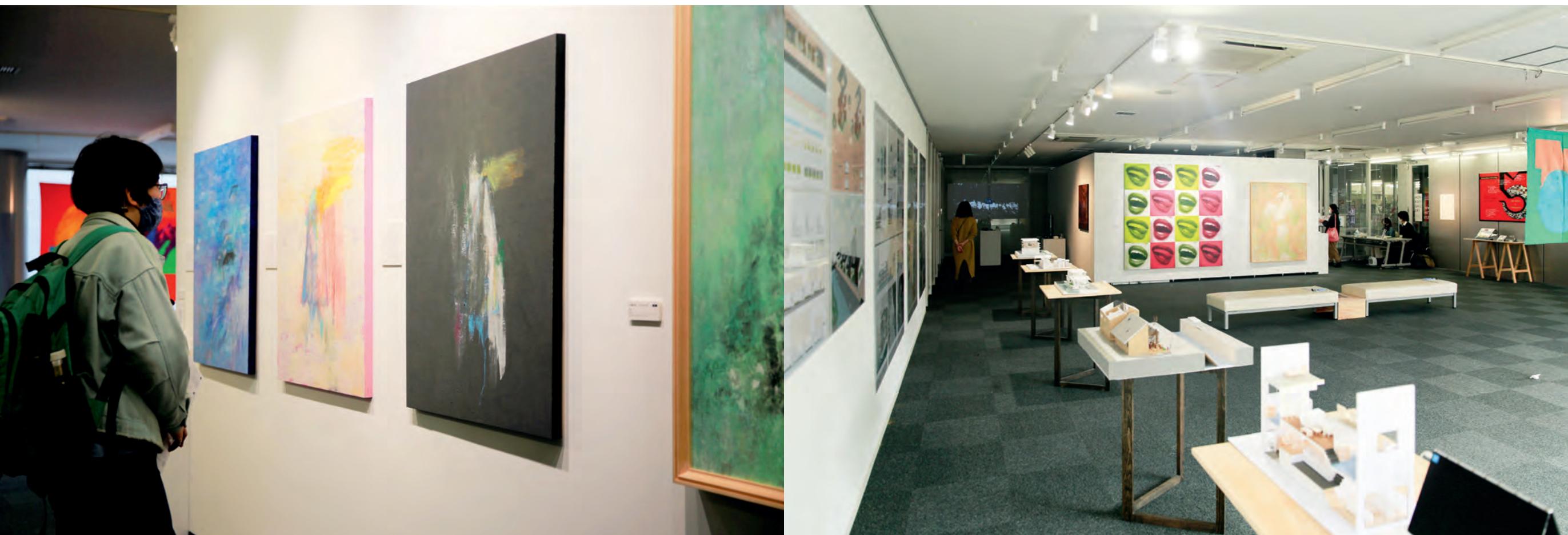
大学院芸術研究科、デザイン研究科の1年生が本館ギャラリーと瑞雲庵を会場に展示を行なった。本館ギャラリーでは、両研究科から、本会場での展示を希望した17名が参加。「企画プロジェクト演習」での授業をとおして、各自の作品プランを深めたほか、広報物の作成や展示プランの検討など、展覧会を開催するために必要な様々な要素を学び、一年間の研究・制作の成果を発表した。

※緊急事態宣言発出への対応の一環として、本館ギャラリーは学内者のみへの公開とした。



関連イベント

作家インタビュー動画を Instagram (@seika_m1show) およびYouTubeチャンネルにて配信



京都精華大学展2021 PICKS!

2021年2月8日[月] - 2月23日[火・祝]

開場時間 12:00 - 18:00 (2月11日[土] - 15[日]は10:00 - 18:00)

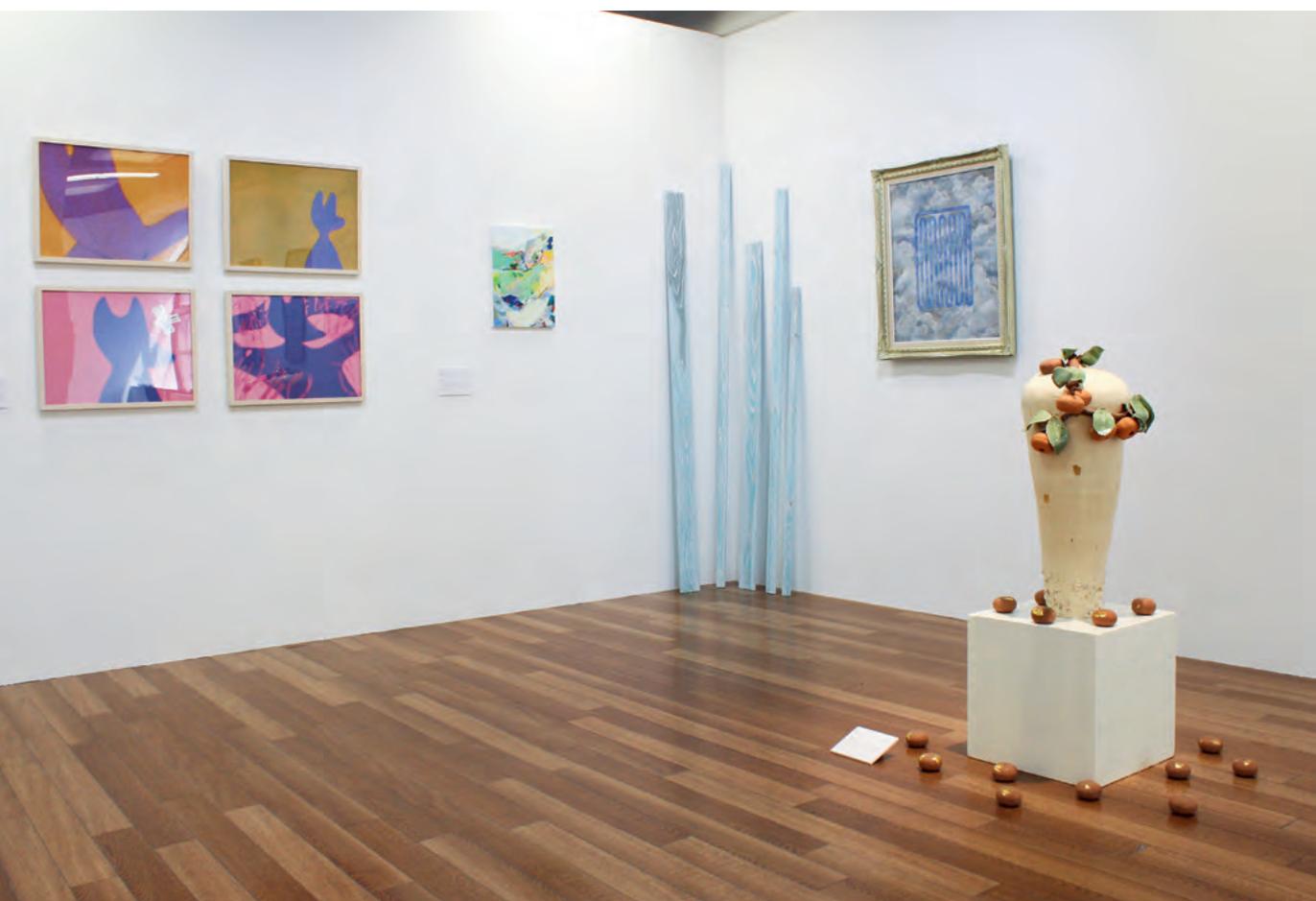
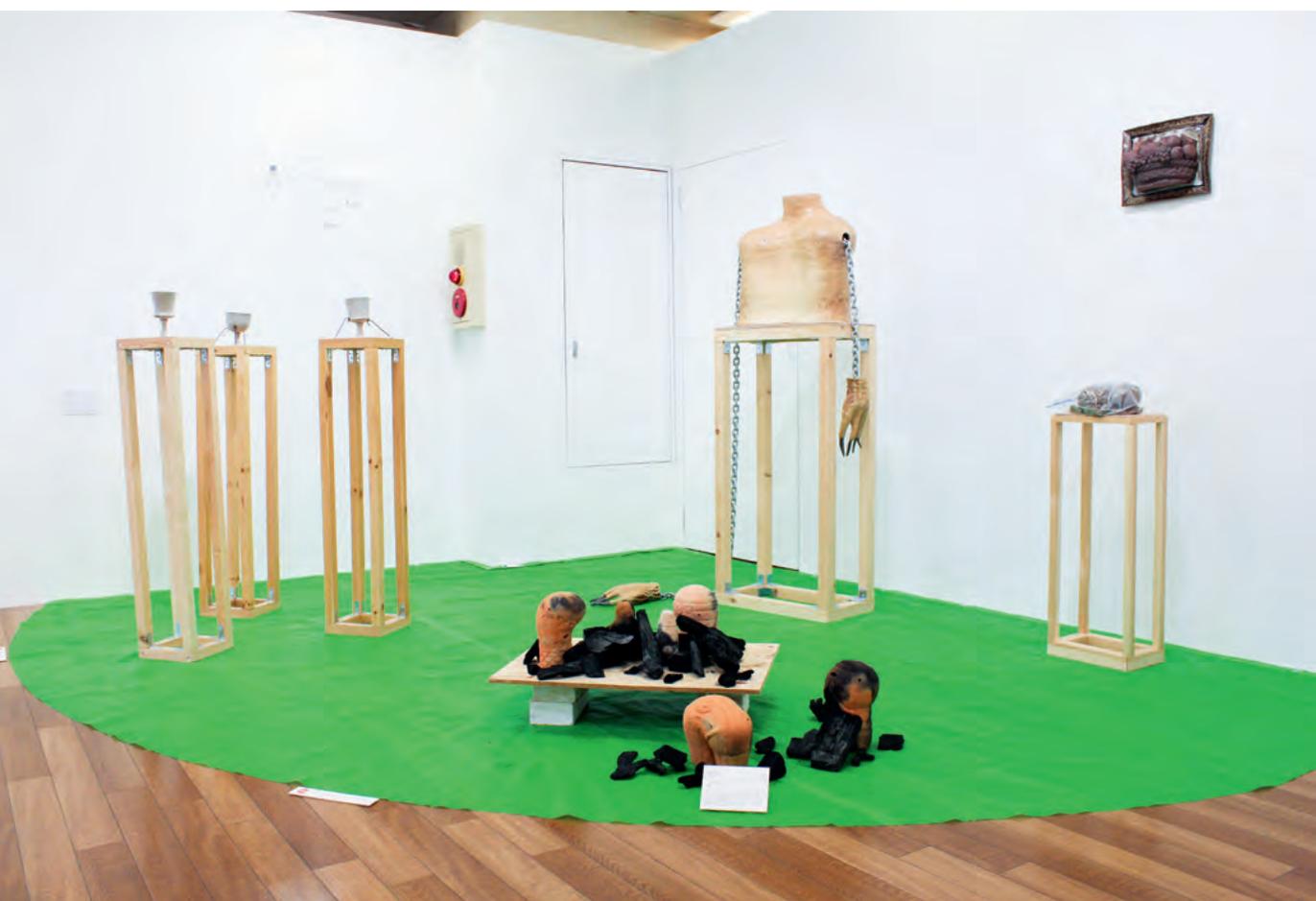
会場 京都精華大学サテライトスペースDemachi
(京都市左京区田中上柳町25-3 京阪出町柳ビル2F)

主催 京都精華大学

出品者 芸術学部=岩瀬海/里中和/武内もも/津村侑希/鐵羅佑/
中島智靖/新見世奈/橋本夏生/増田京華/水野智鶴/横山 充 デザイン学部=
郭思嘉/陳兆君 マンガ学部=三浦麻乃 ポピュラーカルチャー学部=
伊藤來未+竹中太将/小山めぐみ 大学院芸術研究科=陶玥/山下茜里
大学院デザイン研究科=方雅婷 大学院マンガ研究科=劉有志



叡山電鉄株式会社との「包括連携協定」に基づき、出町柳駅ビルにオープンしたサテライトスペース「京都精華大学サテライトスペースDemachi」の第一弾の展覧会として、「京都精華大学展2021」の会期を含む2月8日から23日までの14日間、卒業・修了展出品者を対象とした公募展を開催。展示を見た方が大学会場での「京都精華大学展2021」にも足を運んでみたいと感じさせる作品を選考し、芸術学部、デザイン学部、マンガ学部、ポピュラーカルチャー学部、芸術・デザイン・マンガ研究科より20組21名が出品した。「京都精華大学展2021」のエッセンスを凝縮した展示となり、大学会場と併せてお楽しみいただいた。



2020年度来場者数

2020年度 本館ギャラリー来場者数

展覧会名	来場者数
申請展「ラグランジュ点 -Lagrange point(s)-」	353
申請展「参与観察」	284
申請展「グランドクロス」	192
申請展「LOOPEND」	333
申請展「ひかり」	153
申請展「Style」	257
申請展「創造的ドローイング -作家になるために How to be an artist」	112
申請展「タイカン後期学修成果発表2021」	118
申請展「京都精華大学大学院1年生研究制作展」	198
年間合計	2000

2020年度 その他展示・イベント 来場者数

展覧会名	来場者数
企画展「日日の観察者」 会期中宿泊者：4992 芳名帖記入者：291	
京都精華大学展2021 PICKS!	446

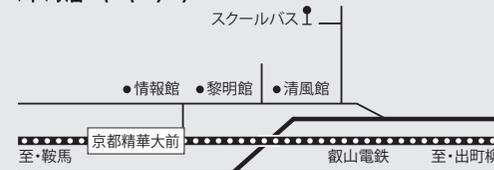
利用案内

京都精華大学 本館ギャラリー

京都精華大学 本館1F
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

開館日 展覧会開催期間
休館日 日曜日・祝日・大学が定めた日
開館時間 10:00-18:00(展覧会により異なる)
入館料 無料

本館ギャラリー



□ 叡山電鉄鞍馬線「京都精華大前」下車
□ 地下鉄烏丸線「国際会館」下車、3番出口よりスクールバス
※駐車場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

京都精華大学 サテライトスペースDemachi

京都市左京区田中上柳町25-3
京阪出町柳ビル2階(叡山電車出町柳駅西側)

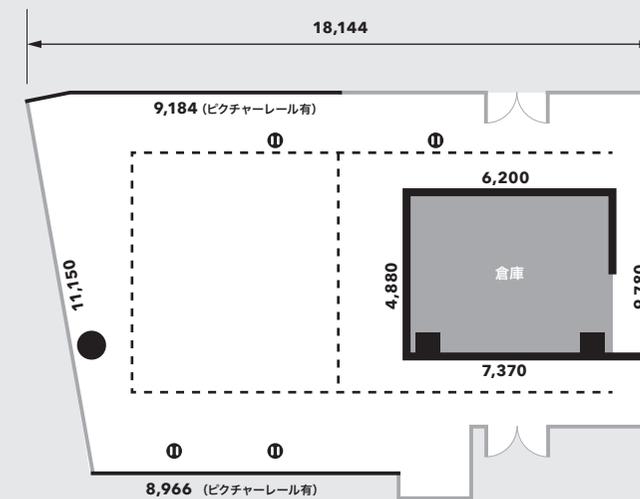
開場日 展覧会開催期間
休場日 月曜日・日曜日・大学が定めた日
開場時間 11:00-18:00(展覧会により異なる)
入場料 無料

お問い合わせ

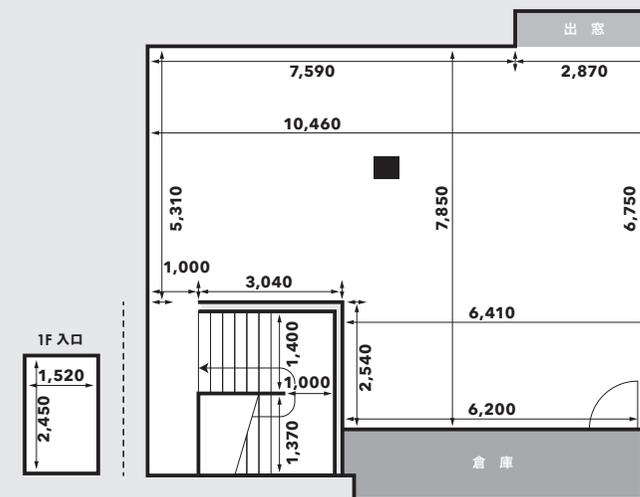
研究推進グループ ギャラリーフロール担当
京都精華大学 本館2階
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
TEL 075-702-5263
FAX 075-722-5440
E-MAIL gallery@kyoto-seika.ac.jp

施設図面

京都精華大学 本館ギャラリー



京都精華大学 サテライトスペースDemachi



京都精華大学

展示コミュニケーションセンター

2019年度活動報告

京都精華大学 展示コミュニケーションセンター
2020年度活動報告

編集 伊藤まゆみ(京都精華大学展示コミュニケーションセンター)

デザイン 加瀬部敏志

撮影 松見拓也(p66-69)

発行 京都精華大学
〒606-8588京都市左京区岩倉木野町137
www.kyoto-seika.ac.jp/

発行日 2021年3月29日

目次

【概要】

2019年度活動サマリー	92
--------------	----

【展覧会】

京都精華大学デザイン学部ビジュアルデザイン学科3年生 プロジェクト授業成果発表 to be born	94
ときめきトかさなり	96
交換留学帰国報告展覧会 An Exhibition of Works Created Overseas by Seika's Outbound Exchange Students in 2018	98
ヒューマンライツ&リブ博物館-アートスケープ資料が語るハストリーズ	100
タイカン前期 学修成果発表2019	104
SOUNDやろうぜ	106
RAKE UP!	108
同時代学生陶芸展	112
ストラクチャー アンド サウンド -音による構造の知覚-	114
黒崎彰名誉教授と有志展	116
しずく	118
立体造形三回生秋展覧会	120
野崎奨一作品展 -セイカのせいか-	122
kyocera×seika 2019「トロポスフィア：素材が開く新しい世界」	124
トークイベント「京都市京セラ美術館リニューアルオープンについて聞く!」	127
2019年度「京都の伝統産業実習」報告展	128
みることに触れる、描くことの現在 (芸術学部 洋画コース 安喜ゼミ)	130
タイカン後期学修成果発表2020	132
京都精華大学大学院1年生研究制作展	134
京都精華大学大学院芸術研究科修了制作展2020	136

【基本情報】

来場者数・利用案内	138
施設図面	139

2019年度 活動サマリー

昨年度に設置された展示コミュニケーションセンターの下、新体制となって2年目のギャラリーフロールの運営において、今年度は、学内と学外にて2つの本学主催の企画展を開催した。

前期企画展の「ヒューマンライツ&リブ博物館-アートスケープ資料が語るハストリーズ」は、1990年代初頭に、京都に設立された美術関係者によるシェアオフィスを拠点に盛り上がった、アートを通してエイズやセクシュアリティについて社会に訴える活動に着目し、当時の資料展示やその活動に参加した美術家たちによる近年の作品を展示構成した。メッセージ性の強い展示内容であったため、メディアにも多数取り上げられ、関西圏外からも多くの来場者があった。

後期企画展は、本学に関わる新進アーティストによる展覧会「RAKE UP!」をホテルアンテルーム京都にて開催した。身の回りの素材からネット上に存在するモノまで、対象をフラットにかき集め、編集することをおして、新たな視点を表現する5組のアーティスト(大八木夏生、THE COPY TRAVELERS、大東真也、NAZE、やんツー)を紹介。会期中にはミュージアム関係者が世界中から参加

するICOM(国際博物館会議)が京都で開催され、国内外の多様な来場者にアーティストやセンターの活動を紹介する好機となった。

また、新たな試みとして、本学と京セラ株式会社が連携した展覧会「トロポスフィア:素材が開く新しい世界」を京セラギャラリーにて開催。本展は、本学出身および在籍中の4名のアーティストを紹介し、「素材」をテーマとした作品を展開した。京セラ独自の技術が生み出した装飾素材「京都オパール」を制作に取り入れた作品も展示されるなど、大学と企業が連携した展覧会として好評を得た。

申請展は、授業の成果発表展示を含めた16回の展覧会を開催した。「デザイン学部ビジュアルデザイン学科3年生プロジェクト授業成果発表『to be born』」、「タイカン前期学修成果発表2019」、「タイカン後期学修成果発表2020」、「2019年度「京都の伝統産業実習」報告展」では、各授業での充実した成果が発表され、「京都精華大学大学院1年生研究制作展」、「京都精華大学大学院芸術研究科修了制作展2020」では学生の制作・研究活動の集大成となる作品が発表された。

そのほか在学生及び教職員による申請展として、「ときめきトかさなり」、「交換留学帰国報告展覧会」、「SOUNDやろうぜ」、「同時代学生陶芸展」、「ストラクチャー アンド サウンド -音による構造の知覚-」、「黒崎彰名誉教授と有志展」、「しづく」、「立体造形三回生秋展覧会」、「野崎奨一作品展 -セイカのせい-」、「みることに触れる、描くことの現在(芸術学部 洋画コース 安喜ゼミ)」など、テキスタイル、サウンドインスタレーション、陶芸、版画、華道、イラスト、洋画といった多様なメディアによる展覧会が多数開催された。

さらに、展示以外の試みとして、今年度3月にリニューアルオープンした京都市京セラ美術館のプログラムディレクターをお招きして、美術館がどのように生まれ変わるのか、新しい美術館の活動内容や建物について紹介いただくトークイベントを開催した。ゲストと参加者の質疑応答も活発に行なわれ、今後の美術館のビジョンに触れる貴重な場となった。

来年度は、明窓館の建替のため、一年間ギャラリーフロールは休館となり、本館1階のラウンジをギャラリーとし

て運用し、申請展を実施する。また、今年度と同様に学外のスペースでの企画展や、若手アーティスト支援を目的としたアートフェアへの出展など、学外に活動の場を広げ、本学及び展示コミュニケーションセンターの活動をより社会に発信していく。

申請展

京都精華大学デザイン学部
ビジュアルデザイン学科3年生 プロジェクト授業成果発表

to be born

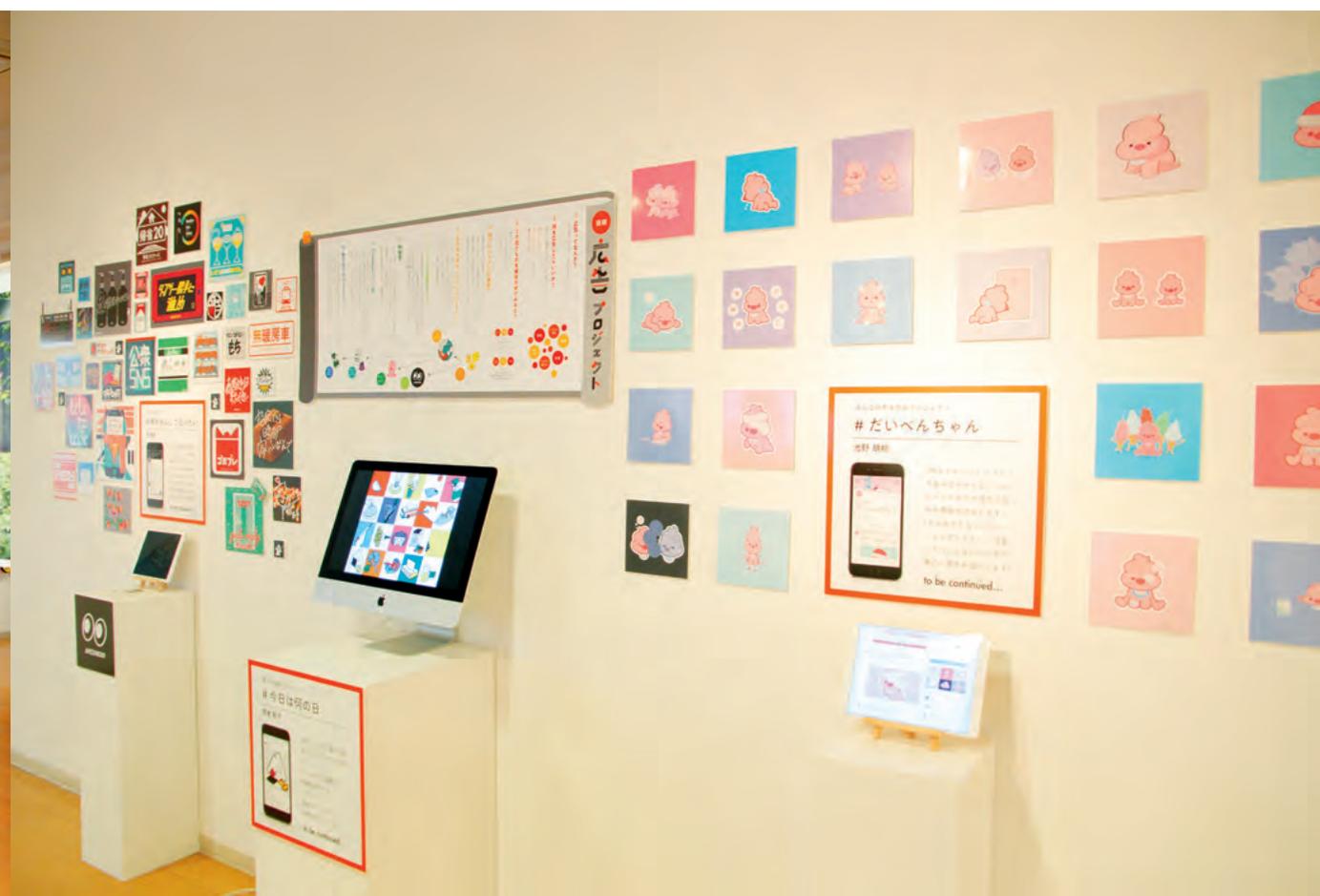
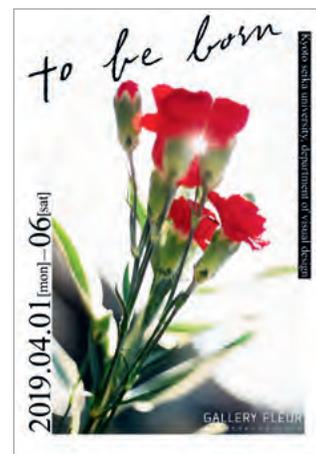
2019年4月1日[月] - 4月6日[土]

開館時間 11:00-18:00

会場 京都精華大学 ギャラリーフロール

主催 京都精華大学 デザイン学部ビジュアルデザイン学科3年生

デザイン学部ビジュアルデザイン学科のグラフィックデザインコース、デジタルクリエイションコースの学生による展覧会。模様、写真、広告、ゲーム、文字、映像など全11種のプロジェクトに分かれて制作を行ってきた3年次の授業における1年間の成果のすべてを展示。



申請展

ときめきトかさなり

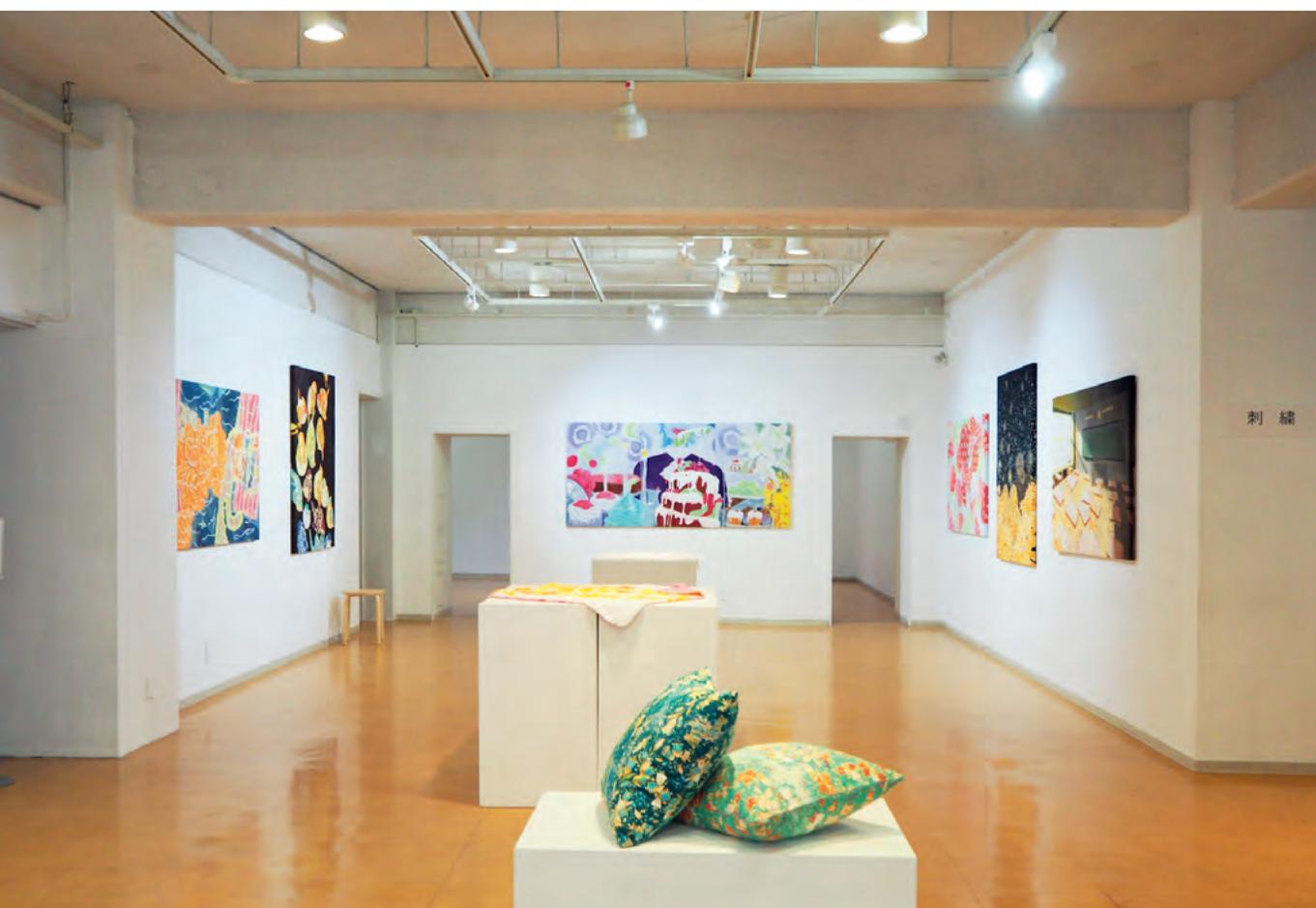
2019年4月23日〔火〕-4月28日〔日〕

開館時間 11:00-18:00

会場 京都精華大学 ギャラリーフロール

主催 京都精華大学 芸術学部
テキスタイルコース3年生

芸術学部テキスタイルコース3年生有志メンバーによる
成果発表展。コース課題の成果発表と学内外へのテキ
スタイルアートの魅力発信を主な目的として、2年次の
1年間で制作した作品1~4点を持ち寄り展示した。



刺繍



申請展

交換留学帰国報告展覧会

An Exhibition of Works Created Overseas
by Seika's Outbound Exchange Students in 2018

2019年5月9日[木] - 5月16日[木]

開館時間 12:00 - 18:00

会場 京都精華大学 ギャラリーフロール

主催 京都精華大学国際教育センター

2018年度に本学から海外の提携校に交換留学生として派遣された学生達が、留学先での課題や自主制作した作品を展示した。



関連イベント

交換留学生によるトークイベント

会場 京都精華大学 iC-Cube (明窓館M-101)

テーマ「留学先での授業の内容や体験談」

日時 5月9日[木] 12:15 - 12:50

テーマ「留学準備でやっておくこと、海外での生活について」

日時 5月13日[月] 12:15 - 12:50

留学先

サンフランシスコアメリカ California College of the Arts (CCA)

イギリス・ロンドン Camberwell College of Arts

イギリス・ロンドン Central Saint Martins College of Art and Design

スコットランド・グラスゴー The Glasgow School of Art

フィンランド・トゥルク Turku University of Applied Sciences

フランス・パリ École nationale supérieure d'architecture de Paris-Malaquais

ドイツ・カッセル University of Kassel School of Art and Design



ヒューマンライツ& リブ博物館

—アートスケープ資料が語るハストリーズ

2019年 6月14日[金]—7月12日[金]

開館時間 11:00—18:00

会場 京都精華大学 ギャラリーフロール

出展作家 小山田徹+香月/ブブ・ド・ラ・マドレーヌ/
藪内美佐子/渡部睦子/
DIAMONDS ARE FOREVER/
#そして私は誰かと踊る
(旧アートスケープ資料編集プロジェクト、資料展示)

主催 京都精華大学

協力 オランダ王国大使館/
のせでんアートライン妙見の森実行委員会

監修 山田創平(京都精華大学人文学部准教授)

展示ディレクション

石谷治寛

(京都市立芸術大学芸術資源研究センター研究員)

イベントモデレーター

あかたちかこ(京都精華大学非常勤講師)



グラフィックデザイン
yusuke mimasu
design

担当

伊藤まゆみ
(京都精華大学
展示コミュニケーション
センター特任講師)

関連イベント

オープニングイベント

トーク「アーカイブってなんだろう?
～アートスケープ・アーカイブから考える～」

日時: 6月14日[金] 16:00-17:00

出演: あかたちかこ、石谷治寛、
ブブ・ド・ラ・マドレーヌ、山田創平

会場: 京都精華大学 ギャラリーフロール

トーク終了後、レセプション

会場: 京都精華大学iC-Cube〈明窓館M-101〉

トークイベント

「ウーマンズダイアリーってなんだったんだろうミーティング」

日時: 6月22日[土] 15:00-18:00

ゲスト: 城田亮介、鈴木洋子、塚本まこと、山元彩乃

進行: あかたちかこ

会場: 京都精華大学iC-Cube〈明窓館M-101〉

トークイベント

「星見るひとたちと出会う旅
—アートスケープ、アムステルダム、そして能勢妙見山へ—

日時: 6月29日[土] 14:00-16:00

出演: 渡部睦子、山田創平

会場: 京都精華大学iC-Cube〈明窓館M-101〉

ライブイベント

「フロールに捧げる3つのエクスキー」

日時: 7月6日[土] 18:30開場 19:00開演

会場: 京都精華大学 ギャラリーフロール

Act.1 ゴーダ企画 presents ゴシックモダン「妖花アルラウネ」

出演: 合田有紀/野村香子/辻本佳

構成&演出: シモーヌ深雪

Act.2 DIAMONDS ARE FOREVER presents シャンソンライブ

「倒錯のギロチンシアター」

出演: シモーヌ深雪

Act.3 DIAMONDS ARE FOREVER presents LIVE

「Decades~Like Si-Fi Magazine (re-make, re-mix)」

出演: 山中透 (DJ LaLa)

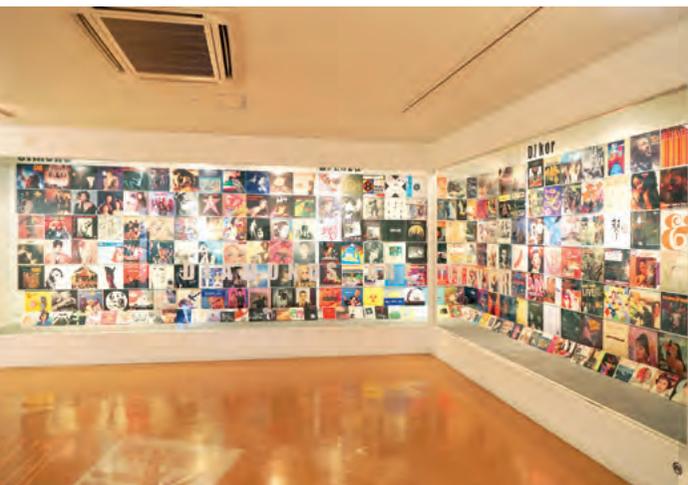


2019年度前期企画展として開催。1990年代初頭に、京都に設立された美術関係者によるシェアオフィス「アートスケープ」を拠点に、アートを通してエイズやセクシュアリティについて社会に訴える活動が盛り上がったことを紹介し、さらに、その活動に参加した美術家たちによる近年の創作をとりあげた。

「ハストリーHerstory」という言葉は、従来の「歴史History」が、多くの場合「彼his」の視点から語られてきたのに対し、「彼女her」の立場からも過去を語り直すべきだとの主張から1970年代に生まれた造語である。

本展では、「ハストリー」を、誤用を恐れず広く捉え、既存の性を越境しようとする人々の物語として振り返り、四半世紀前の「彼女たち」から発せられた声を通して、人権と人間性の解放(リベレーション)について考え直した。

なお、本展には、森美術館で2018年度に行われた「MAMリサーチ006:クロニクル 京都1990s:ダイヤモンド・アー・フォーエバー、アートスケープ、そして私は誰かと踊る」のための調査で明らかになった資料や内容も展示した。



タイカン前期学修成果発表2019

2019年7月24日[月]ー7月28日[日]

開館時間 11:00ー17:00
 (7月27日[土]、28[日]のみ10:00開館/
 最終日のみ16:30閉館)

会場 京都精華大学 ギャラリーフロール
 主催 京都精華大学 芸術学部造形学科
 1年次共通教育体幹教育

芸術学部にて2017年度より新たに始まった1年次共通教育のひとつ「体幹教育」。2019年度前期は「視覚のクリエイション」(絵画基礎/前期前半)と「生活のレクリエーション」(工芸基礎/前期後半)という2つのカリキュラムに、芸術学部1年生全員が挑んだ。描きかたのテクニックのみにはとられない、様々な平面表現のアプローチ、「つくる・つかう・かざる」というキーワードから生活と工芸の関わりを再考し、場を創造すること、体幹教育における、多岐にわたる学生の試みの成果物を展示した。



申請展

SOUNDやろうぜ

2019年8月23日[金]ー8月31日[土]

開館時間 11:00ー18:00 休館日 8月25日[日]

出展作家 上田真平/具志堅裕介/カズヒデ/

Yüiho Umeoka/

RAKASU PROJECT.(落鬼子)/

はやぶさもも/kubotalian/SOUND野郎ズ

会場 京都精華大学 ギャラリーフロール

主催 SOUND野郎ズ

SOUND野郎ズは、ポピュラーカルチャー学部の学生を対象に、「SOUNDやろうぜ」と題したワークショップを放課後に開催している。本展ではワークショップ「SOUNDやろうぜ」の活動紹介として、学生たちによる成果物や記録映像を中心に展示し、ポピュラーカルチャー学部内で通常の音楽活動とは異なる視点で活動している学生や教員、さらに音に関わる活動をしている学外の作家を招待した。

数人規模のワークショップから学内の動き、そして学外の実践へと展示する領域を広げ、音を使った表現の多様な側面を示すことで、鑑賞者が音を使った表現の楽しさや面白さに気づき、「自分もSOUNDやりたい!」と感ずることを目指した。



関連イベント

クロージングイベント出品作家と

京都精華大学の学生を交えたライブイベント

日時 8月31日[土]14:00ー18:00

会場 京都精華大学ギャラリーフロール 2F

入場料 自由料金制



RAKE UP!

2019年 8月30日[金] - 9月16日[月・祝]

開館時間 11:00-21:00

会場 HOTEL ANTEROOM KYOTO I
Gallery9.5
(京都市南区東九条明田町7番)出展作家 大八木夏生 / THE COPY TRAVELERS /
大東真也 / NAZE / やんツー

主催 京都精華大学

関連イベント

オープニングトーク&レセプション

8月30日[金] 16:30-18:30

出演 大八木夏生 / THE COPY TRAVELERS /
大東真也 / NAZE / やんツー

会場 HOTEL ANTEROOM KYOTO

クロージングトーク&BAR

日時 9月16日[月・祝] 16:30-18:30

出演 ウスビ・サコ(京都精華大学学長) / 大八木夏生 /
THE COPY TRAVELERS(加納俊輔 / 上田良)
大東真也 / NAZE / やんツー /

DJ Kazumichi Komatsu

会場 HOTEL ANTEROOM KYOTO I ANTEROOM BAR

メインビジュアル協力

池垣タダヒコ(京都精華大学芸術学部教授)

グラフィックデザイン

松見拓也

企画

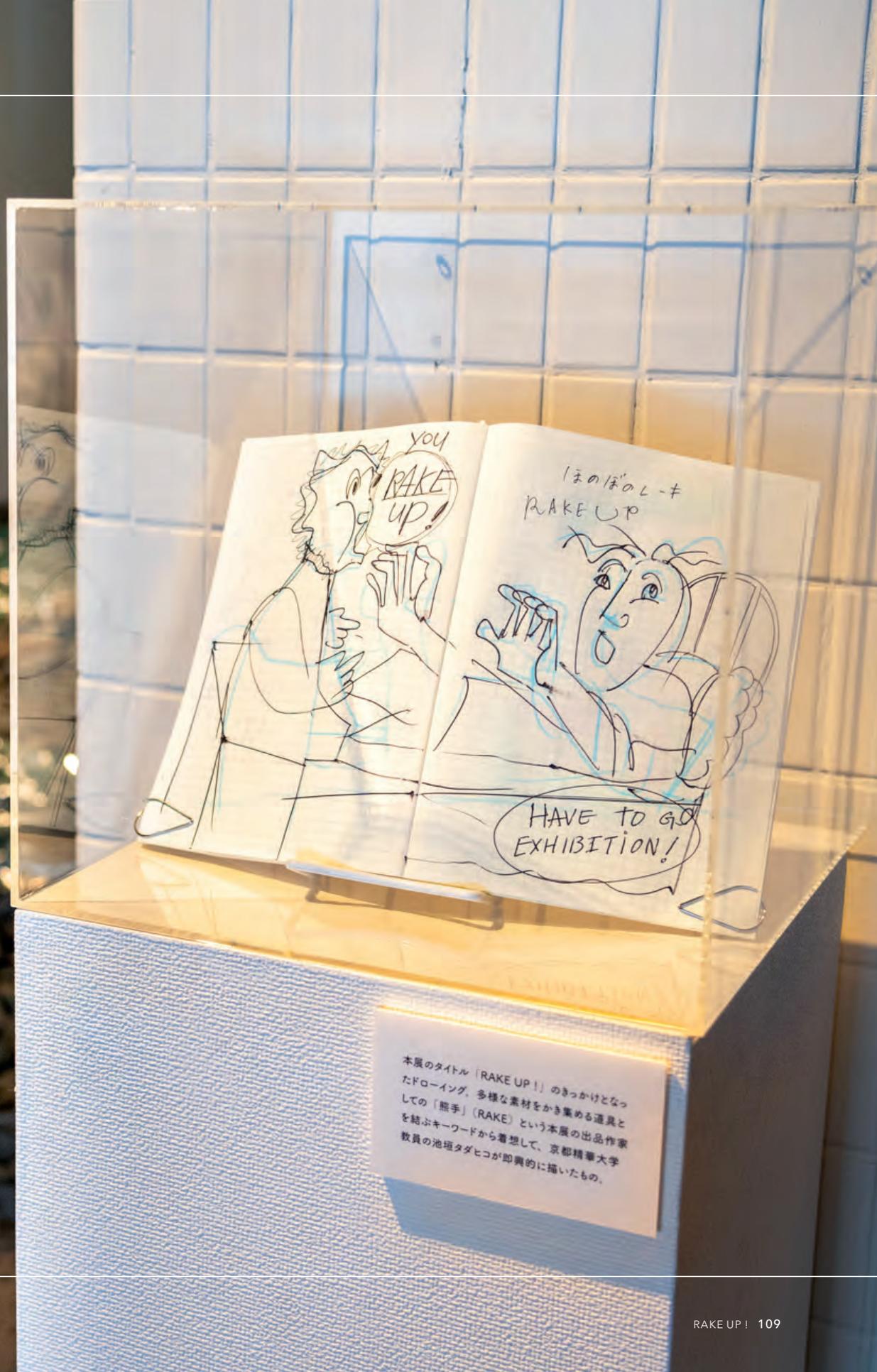
伊藤まゆみ(京都精華大学展示コミュニケーションセンター特任講師)

2019年度後期企画展として開催。RAKE(レーキ)とは落ち葉をかき集めたり、土をならすための道具である「熊手」を意味し、RAKE UPは「かき集める」、「すくい上げる」といった行為を指す。

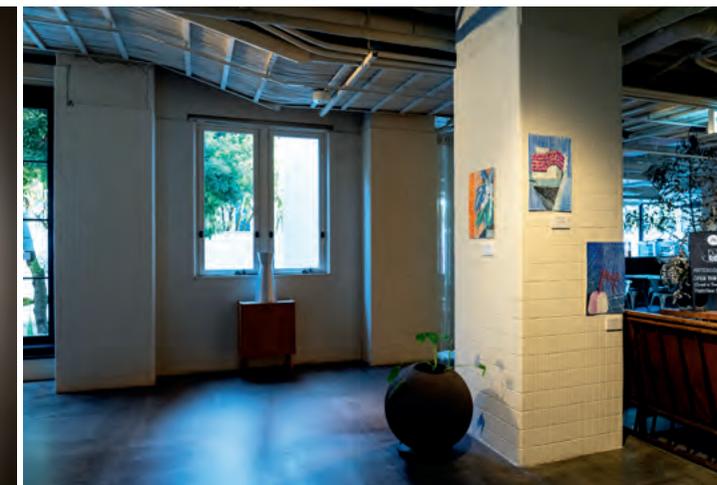
本展では、本学に関わる新進アーティストの中から、身の回りの素材からネット上に存在するモノまで、対象をフラットにかき集め、編集することをとおして、新たな視点を表現する5組の作家を紹介した。

路上で見つけた気になるモチーフを写真に撮りプリントアウトしたものをベースに、複数の素材や技法を同時に用いて重層的な平面作品を創り出す大八木夏生。コピー機やスキャナ、カメラなどを用いて、身近な素材を自由に採取し、3者の即興的なやりとりをとおして、複製やコラージュという手法の可能性を模索するTHE COPY TRAVELERS。身近にある飲料用のガラス瓶を収集し、窯に入れて熱によって変容させることで、無機質な工業製品を有機的で生命感のある形態へと生まれ変わらせる大東真也。ゴミや廃材などの收拾物や印刷物、写真に描いたドローイングや、グラフィティを用いた作品などを制作するNAZE。デジタルメディアを基盤に、ストリートアートやパブリックアート等、公共圏における表現にインスパイアされた作品を多く制作するやんツー。

彼ら・彼女らが、それぞれの「熊手」によってかき集めた世界が、その意味や記憶、関係性を揺さぶり、今この「表現」とは何かについて考察する機会とした。本展をとおして、5組の作家たちの伸びやかな表現を観客にお楽しみいただいた。



本展のタイトル「RAKE UP!」のきっかけとなったドローイング、多様な素材をかき集める道具としての「熊手」(RAKE)という本展の出品作家を結ぶキーワードから着想して、京都精華大学教員の池垣タダヒコが即興的に描いたもの。



同時代学生陶芸展

2019年9月6日[金] - 9月8日[日]

開館時間 11:00 - 18:00

会場 京都精華大学 ギャラリーフロール

主催 同時代学生陶芸展実行委員会

参加大学 京都精華大学 / 京都市立芸術大学 / 京都造形芸術大学



関連イベント

トークショー「キョウ、KYOTO、トウゲイ。」

日時 9月7日[土] 13:00 -

出演 中村謙司(京都精華大学) /

高柳むつみ(京都市立芸術大学) /

大前史(京都造形芸術大学)

会場 京都精華大学 ギャラリーフロール

作品投票、解説

日時 9月8日[日] 13:00 -

学生による陶器市

会期中開催



「同時代学生陶芸展」は、京都で陶芸を学ぶ学生の交流の場として毎年開催され、今年で第10回目を迎えた。例年会場にしてきた元・立誠小学校の改装に伴い、2017年度は堀川御池ギャラリーで開催し、2018年度から京都精華大学ギャラリーフロールで開催している。

展示・関連企画による交流を通じて、いまの学生の視点から陶芸の特異性を考えるための企画となった。



申請展

Structure and Sound -Perception of Structure by Sound
 ストラクチャー アンド サウンド
 -音による構造の知覚-

2019年9月13日[金]-9月29日[日]

開館時間 11:00-18:00 休館日 火曜日/水曜日/9月22日[日]

会場 京都精華大学 ギャラリーフロール

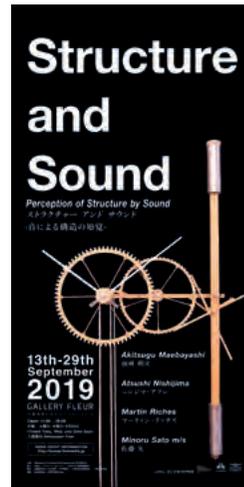
出展作家 前林明次/ニシジマ・アツシ/マーティン・リッチズ/佐藤 実

主催 Obsession Conception Possession 実行委員会

協力 20202(ツーオーツーオーツー)、東京大学 駒場博物館

助成 公益財団法人花王芸術・科学財団/芸術文化振興基金/大和日英基金

後援 公益社団法人京都市観光協会



音の背後にある世界を構造的に見出していくというコンセプトでサウンドアートを探究的に捉え直す試み。展覧会では、関西初紹介となるイギリス人美術家のマーティン・リッチズ氏と、日本の3作家によって、異なるアプローチで制作された、各作家の作品世界を展開し、作品の根幹をなす構造と音の関係から世界を捉え直す機会とした。

関連イベント

オープニングライブ

Sound and Structure Live performance at Soto

日時 9月16日[月・祝] 19:00開場 19:30開演

出演 前林明次/ニシジマ・アツシ/マーティン・リッチズ/佐藤 実

料金 予約2,000円 当日2,500円 学生1,500円

会場 外(京都市左京区鹿ヶ谷法然院西町18)

前林明次トーク

Akitsugu Maebayashi talk

“Topography and Soundscape”

日時 9月21日[土]15:00-

ゲスト 佐藤守弘(本学教員/視覚文化論)

会場 京都精華大学ギャラリーフロール

マーティン・リッチズ アーティストトーク

Martin Riches artist talk “structure and art”

日時 9月27日[金]15:00-

ゲスト 古屋俊彦(美術家/言語学)

通訳 浦江由美子

会場 京都精華大学ギャラリーフロール

クロージングトーク

Closing talk “sound , art , structure”

日時 9月28日[土]15:00-

出演 前林明次/ニシジマ・アツシ、

マーティン・リッチズ/佐藤実/藤本ゆかり(キュレーター)

ゲスト 川崎弘二(電子音楽研究)

通訳 浦江由美子

会場 京都精華大学ギャラリーフロール



黒崎彰名誉教授と有志展

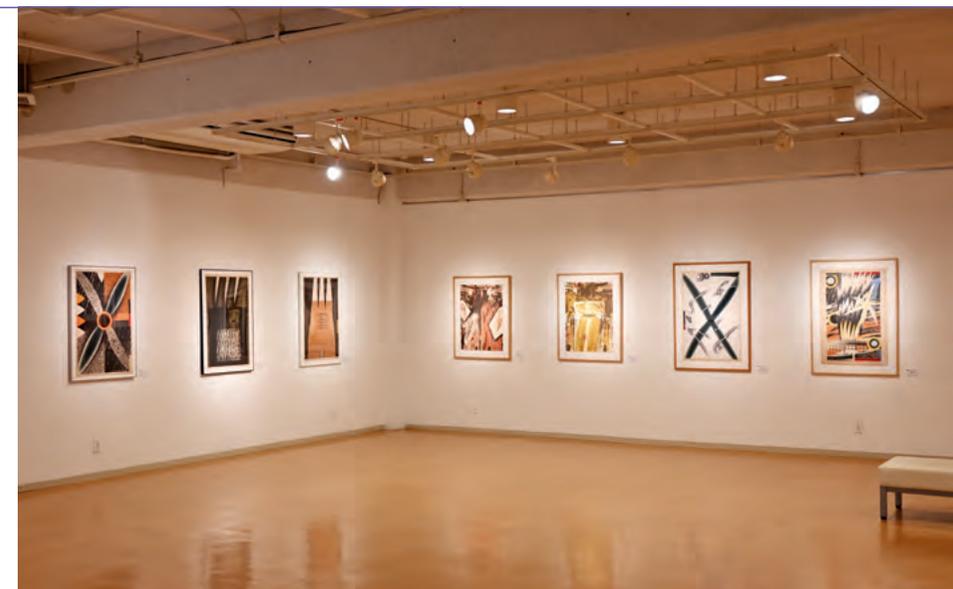
2019年10月21日[月] - 10月29日[火]

開館時間 10:00-18:00 休館日 10月27日[日]

会場 京都精華大学 ギャラリーフロール

主催 京都精華大学 版画専攻卒業生有志

2019年5月14日に逝去された名誉教授・黒崎彰先生の長年のご尽力に感謝し企画。黒崎先生の作品を中心に、ご指導いただいた木版画ゼミ生の作品も同時に展示した。



しずく

2019年11月8日[金],11月9日[土]

開館時間 10:00-17:00

会場 京都精華大学 ギャラリーフロール

主催 京都精華大学 嵯峨御流華道同好会

自然の循環の一部である植物を使ったアート、いけばな。つぼみだった花も美しく咲き、やがて枯れて土に戻る。そんな命の移ろいに心を動かされ、日々作品を作っている。その作品は大きな地球の循環の中のほんの小さな水滴の様であると考え、タイトルを「しずく」とつけた。京都精華大学華道同好会は毎年11月初旬に展覧会を開いており、今年で22回目となった。



立体造形三回生秋展覧会

2019年11月13日[水] - 11月18日[月]

開館時間 11:00-18:00 休館日 11月17日[日]

会場 京都精華大学 ギャラリーフロール 1F

出展作家 岩瀬海/大穂航平/柴垣めぐみ/高宮麻理乃/鐵羅 祐/
布藤喜帆/堀川諒人/安井響栄

主催 京都精華大学 芸術学部立体造形コース

芸術学部立体造形コースの三回生総勢8名による展覧会。前期での授業で制作した作品を中心に成果発表の場として企画された。8名は基本的に自由課題で制作を行っており、テーマもそれぞれに好きな事に取り組んでいる。扱う素材も鉄、石膏、石、布、紙など多岐にわたり個性豊かな立体作品が数多く集結した。奔放さや快活さを肌で感じられる展覧会となった。



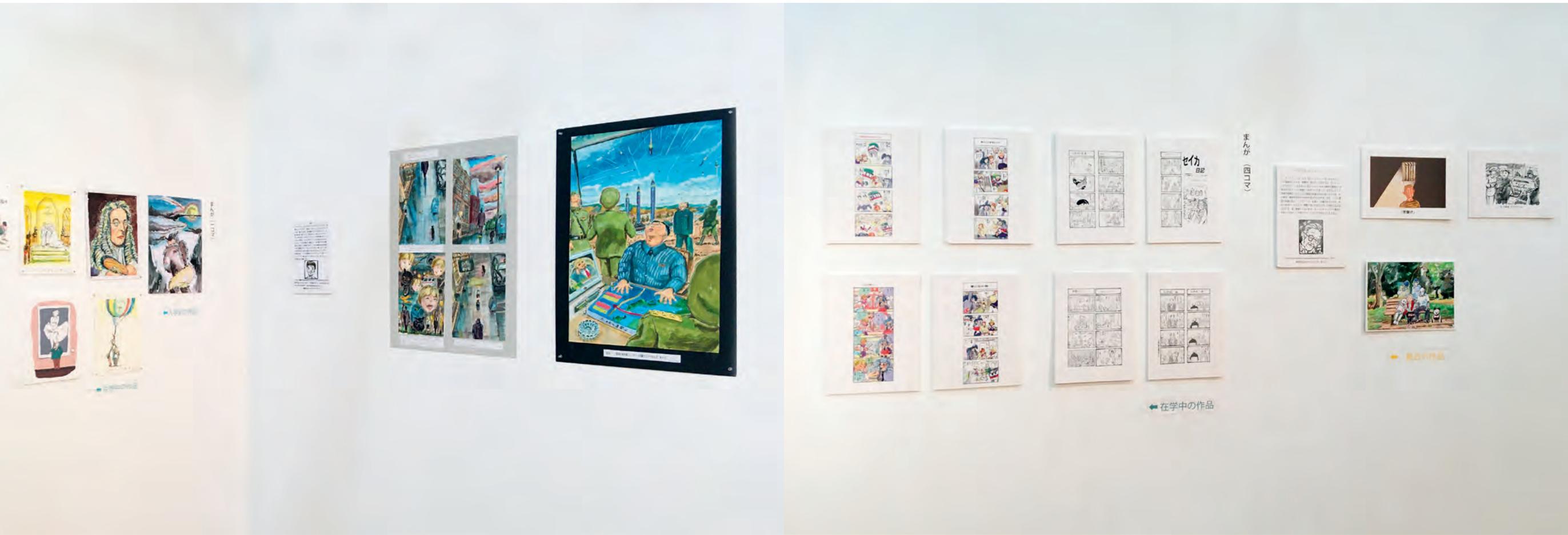
野崎奨一 作品展 —セイカのせいか—

2019年11月13日[水]—11月18日[月]

開館時間 11:00—18:00 休館日 11月17日[日]
会場 京都精華大学 ギャラリーフロール2F
主催 野崎奨一 (マンガ学部カートゥーンコース4回生)



マンガ学部カートゥーンコース、2016年度社会人入学生、野崎奨一(のぎきょーいち、67歳:出品時)の作品展。副題『セイカのせいか』(精華の成果)が示すように、社会人として40余年、絵と関係ない生活をしてきた人物が、退職後、絵を一から習い始め、どれほどの成果があったか、4年間の大学生活の総括を目指した。このため、総花的ではあったが、絵の学習過程の各分野(デッサン、クロッキー等)の、入学前、入学後、直近の作品が揃った。来場者の絵の学習の参考になること、お世話になった先生方への感謝の気持ちを伝えることも企画意図とした。



企画展

kyocera x seika 2019

「トロポスフィア：
素材が開く
新しい世界」

2019年 11月15日[金] - 12月15日[日]

休館日 12月1日[日]**開館時間** 10:00-17:00**出展作家** 小出麻代/山城優摩/
アルベルト・ヨナタン/ロサナ・リオス**会場** 京セラギャラリー
(京都市伏見区竹田鳥羽殿町
6番地京セラ本社ビル1階)**主催** 京都精華大学、京セラ株式会社**共催** 京都市**後援** 京都新聞/KBS京都**グラフィックデザイン**

塩谷啓悟

企画

小松敏宏(京都精華大学芸術学部教授)

企画協力

伊藤まゆみ(京都精華大学展示コミュニケーションセンター特任講師)

京セラ株式会社と連携し、本学出身アーティストによる展覧会を京セラギャラリーにて開催。トロポスフィアとは地球を覆う大気層のひとつで、高度0kmの地表から約11kmの成層圏の間に位置する大気層「対流圏」を指す。本展が、芸術のジャンルや国籍、企業と大学を超えた対流になればと期待が込められた。手仕事と既製品の混合によるインスタレーション(小出)、MDFやFRPによる抽象的オブジェクト(山城)、複数のセラミックパーツによるインスタレーション(ヨナタン)、手染めしたファブリックによるインスタレーション(リオス)というように、素材や技法の実験を重視した作品づくりを手がけてきた作家達が展示を行なった。また、京セラ独自の技術により生み出された装飾素材「京都オパール」を取り入れた作品も展示された。本展では、企業と大学、アーティストとの連携、京都オパールをはじめとする複数の素材が展示空間で入り混ざることによって生まれる新しい表現の世界が提示された。

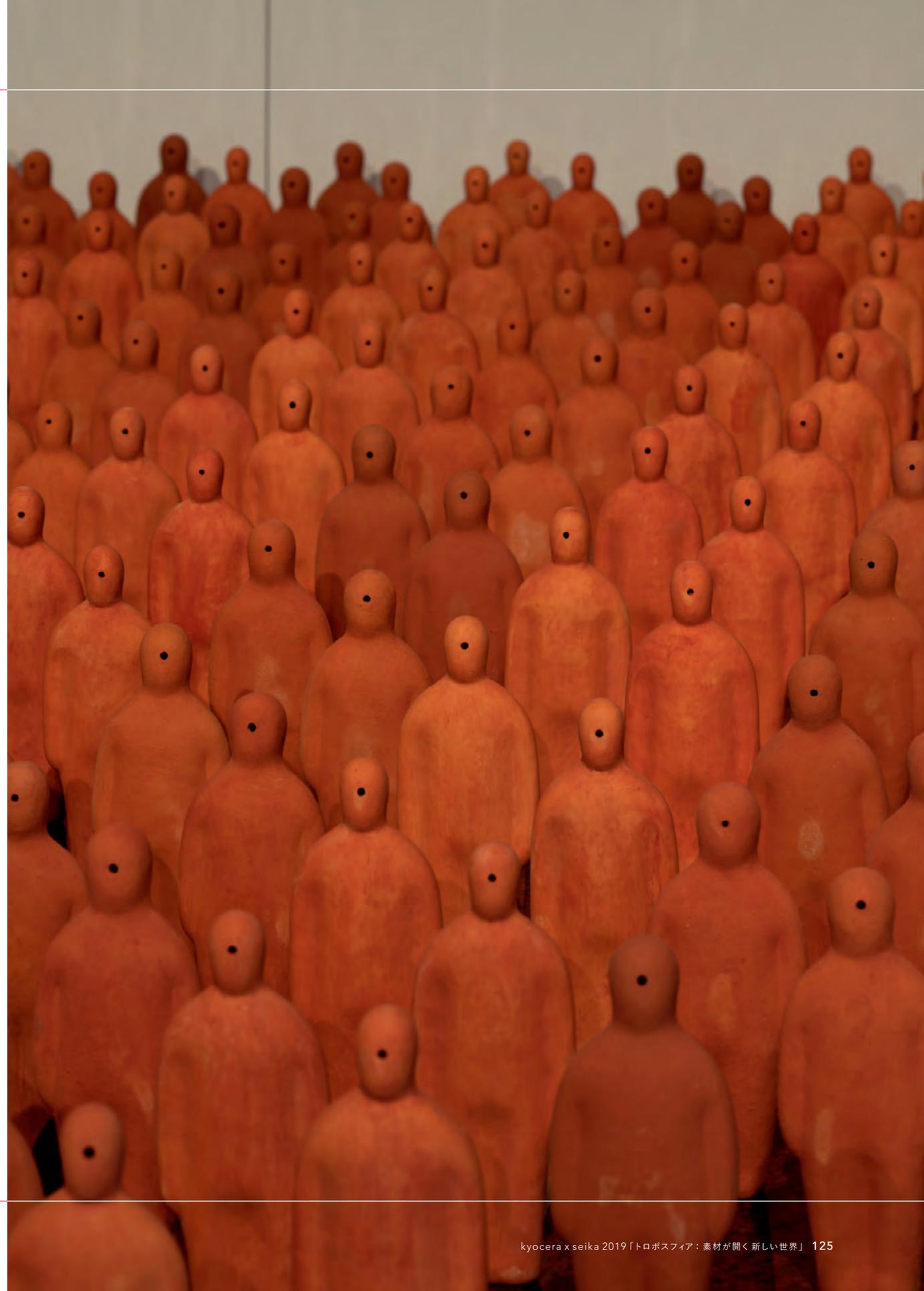
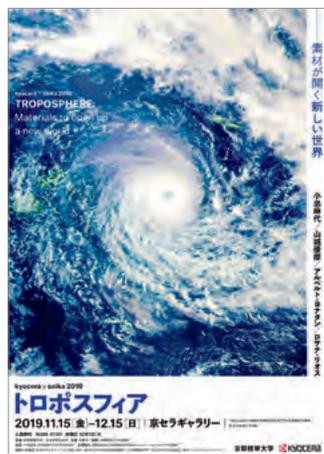
関連イベント**おかげんたと出品作家が語る現代アート**

日時 11月26日[火] 18:00-19:00

出演 おかげんた(タレント/アートプランナー)

会場 京セラギャラリー

参加費 無料





京都市京セラ美術館 リニューアルオープンについて聞く！

2020年1月21日【火】 18:15-19:30

ゲスト 土屋隆英
(京都市京セラ美術館リニューアル準備室
展覧会プログラムディレクター)

モデレーター 伊藤まゆみ
(京都精華大学展示コミュニケーションセンター特任講師)

会場 京都精華大学iC-Cube〈明窓館M-101〉

主催 京都精華大学展示コミュニケーションセンター

京都市京セラ美術館リニューアル準備室展覧会プログラムディレクターの土屋隆英氏を迎え、美術館のパンフレットやホームページを参照しながら、新しい美術館のビジョンや建物について等詳しくお話いただいた。参加者からの多数の質問にもお答えいただき、これからの美術館の活動について期待が高まる場となった。



2019年度 「京都の伝統産業演習」 報告展

2019年11月27日[水] - 12月9日[月]

開館時間 11:00 - 18:00 休館日 日曜日

会場 京都精華大学 ギャラリーフロール

主催 京都精華大学伝統産業イノベーションセンター

関連イベント

実習生トーク

日時 11月27日[水] 10:40 - 12:10

会場 京都精華大学 黎明館1階 L-101

京都精華大学では1980年より約40年にわたり、夏期の約2週間、京都の伝統産業に携わる工房・企業の現場に弟子入りして学ぶ「京都の伝統産業演習(学外実習)」プログラムを実施している。2019年度も染織、陶磁器、和紙、木工芸、金工芸、文化財修復などの様々な分野の工房・企業16社で、芸術学部・デザイン学部・マンガ学部の3・4年生30名が演習を行い、成果発表報告展示を行なった。

協力(演習先・順不同)

- 【綴織】細見綴織工房 【京友禅】(株)千總【草木染組紐】(有)藤三郎紐
- 【染色】染司よしおか【和紙】手漉き造紙工房 風空路
- 【陶磁器】澤村陶哉工房/竹中浩工房【陶磁器・絵付け】真葛焼 宮川香齋
- 【漆工芸】好謙漆工房【木工芸】中川木工芸 比良工房【京象嵌】(株)川人象嵌
- 【銙金具】(株)森本銙金具製作所 【京表具・文化財修復】(株)岡墨光堂
- 【京造園】造園 植治【お香】(株)松榮堂【茶筒】開化堂



みることに触れる、描くことの現在 芸術学部 洋画コース 安喜ゼミ

2019年12月18日[水] - 2020年1月6日[月]

開館時間 10:00 - 18:00 休館日 日曜日、12月29日[日] - 2020年1月5日[日]

会場 京都精華大学 ギャラリーフロール

出展作家 東 完治 / 工藤千夏 / 原 美菜 / 関 孔太郎 / 大石いずみ /
朱 泓宇 / 岡田 文 / 松宮慧美 / 望月さやか / 山下真由 / 岩下優香

主催 京都精華大学 芸術学部洋画コース安喜ゼミ



芸術学部洋画コース安喜ゼミによる展覧会。出品した11名は、90年代後半に生まれ、電子技術の展開とともに情報が交錯する世界の中で成長した。彼ら・彼女らは、肉体を携えて生きる現実との狭間にもどかしさを抱えながら、それぞれの方法で「みる」ことに向き合い、物質をとめない「描く」、「触れる」ことによって信じられるものを手繰り寄せている。本展は、合理性や流利的個性とはかけ離れたかに見える「絵画的思考」の可能性が、むしろ未来への大切なツールとして新鮮に開示されることを願い企画された。



申請展

タイカン後期学修成果発表2020

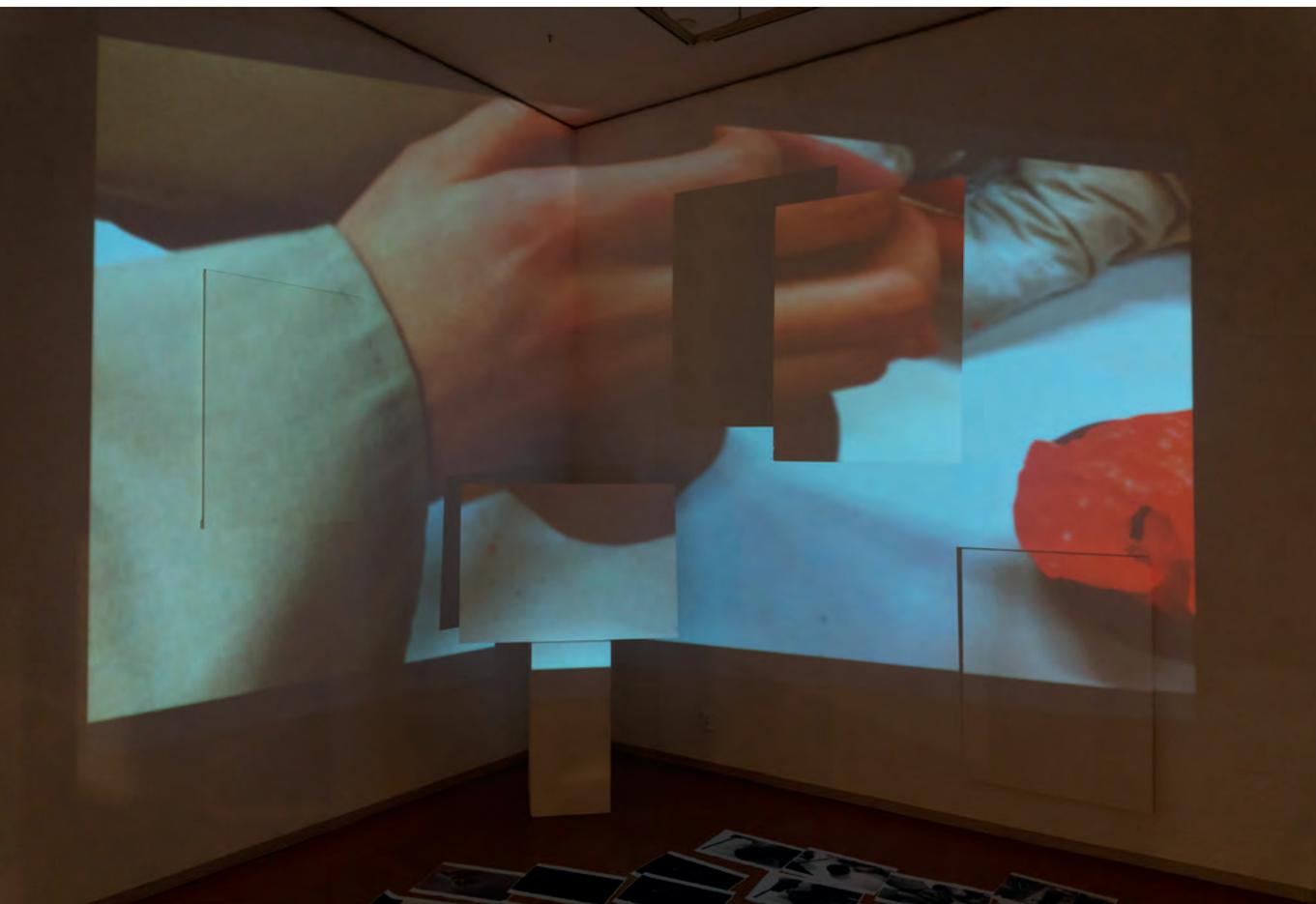
2020年1月22日[水]ー1月24日[金]

開館時間 11:00ー17:00 (最終日のみ16:30閉館)

会場 京都精華大学 ギャラリーフロール

主催 京都精華大学 芸術学部造形学科
1年次共通教育 体幹教育

芸術学部で2017年度より新たに始まった1年次共通教育のひとつ「体幹教育」。本年度後期は「表現のバリエーション」(デザイン基礎/後期後半)の成果を展示した。「うつす」というキーワードを元にした様々な課題を通して、複製や組み合わせを使った表現の多様性を学び、最終課題として、本展覧会の展示プランニングからインストール作業までを学生自身が主導して行った。多岐にわたる学生の成果物、そして展示方法のバリエーションを発表した。



京都精華大学大学院1年生研究制作展

Kyoto Seika University 1st Year Graduate Student Show

2020年1月28日[火]–2月1日[土]

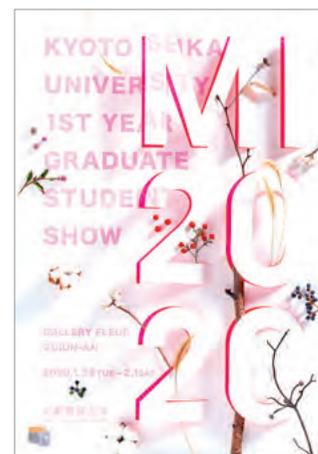
開館時間 10:00–17:00 (会期中無休)

会場 京都精華大学ギャラリーフロール/
瑞雲庵(京都市北区上賀茂南大路町62-1)

主催 京都精華大学大学院芸術研究科/
デザイン研究科/マンガ研究科

協力 公益財団法人西枝財団

大学院芸術研究科、デザイン研究科、マンガ研究科の1年生がギャラリーフロールと瑞雲庵を会場に展示を行なった。ギャラリーフロールでは、各研究科から、本会場での展示を希望した25名が参加。「企画プロジェクト演習」での授業をととして、各自の作品プランを深めたほか、広報物の作成や展示プランの検討など、展覧会を開催するために必要な様々な要素を学び、一年間の研究・制作の成果を発表した。



関連イベント

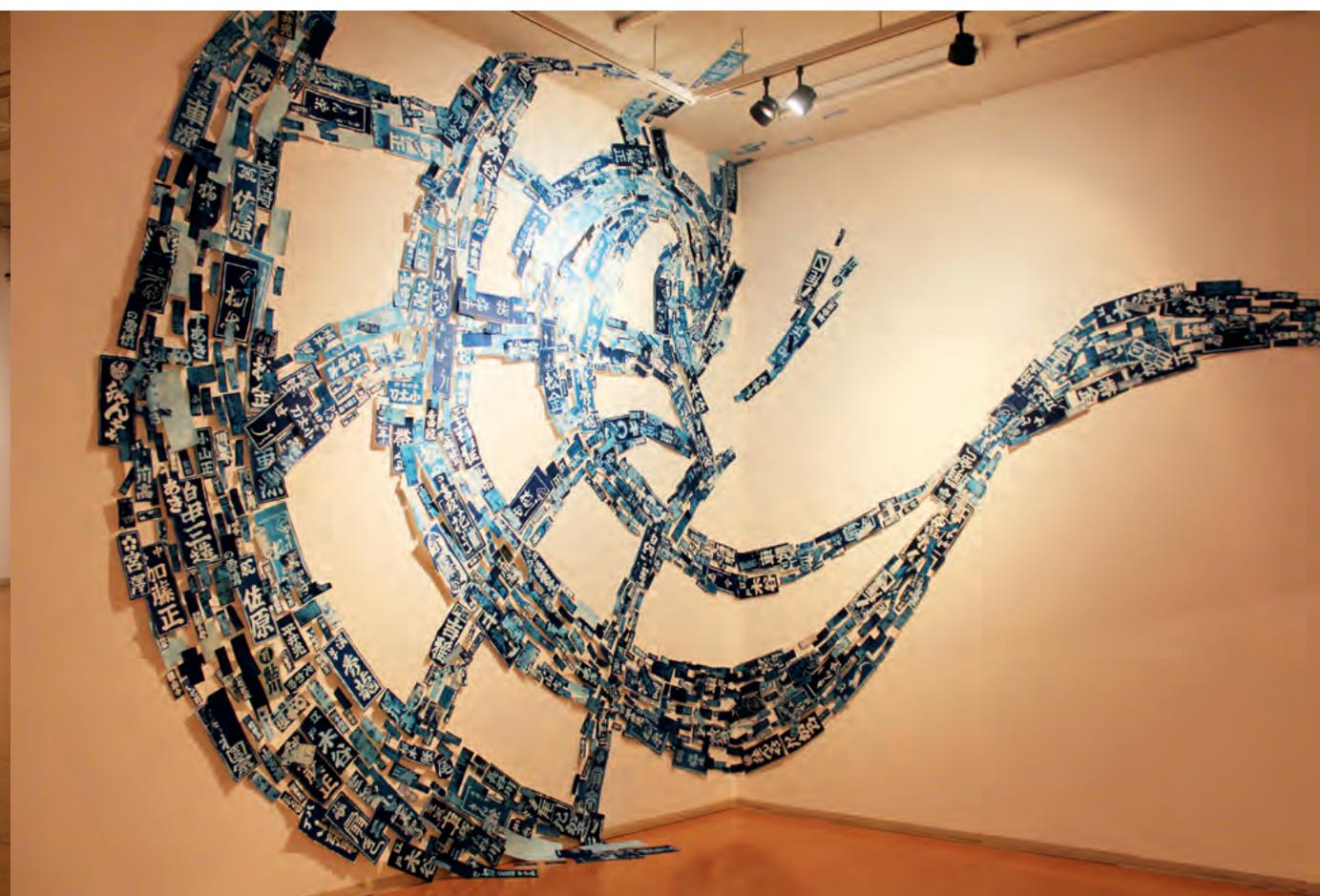
出品者による公開プレゼンテーション

日時 1月31日[金] 10:00–12:00

会場 京都精華大学ギャラリーフロール

日時 1月31日[金] 13:30–15:30

会場 瑞雲庵



京都精華大学大学院 芸術研究科 修了制作展2020

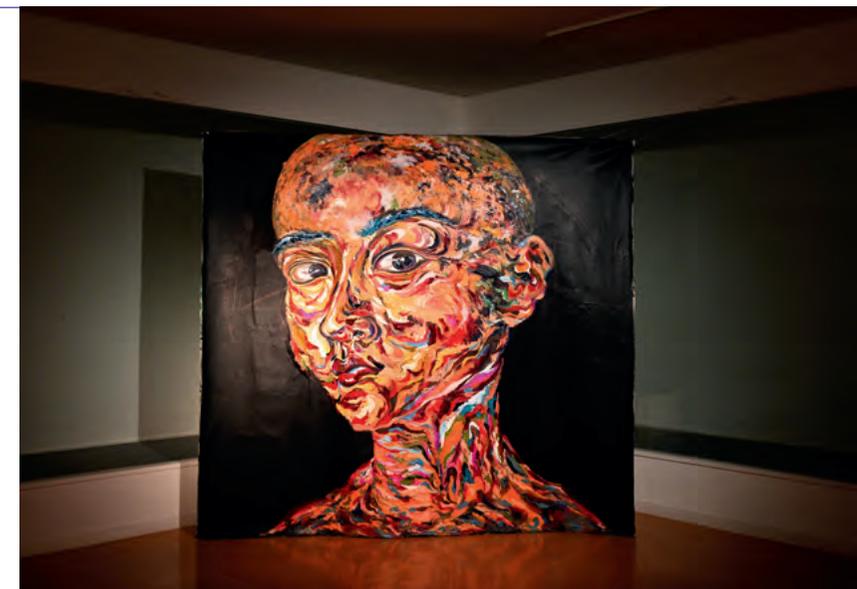
2020年2月12日[水] - 2月16日[日]

開館時間 10:00 - 17:00 (最終日のみ16:30閉館)

会場 京都精華大学 ギャラリーフロール

主催 京都精華大学大学院芸術研究科

「京都精華大学展2020 ~卒業・修了発表展~」における大学院芸術研究科の展示。大学院での二年間の研究論文・制作の発表の場として、日本画、洋画、立体造形、染織、版画、映像、各領域の修了生がその成果を発表した。



2019年度来場者数

2019年度 ギャラリーフロール来場者数

展覧会名	来場者数
京都精華大学デザイン学部ビジュアルデザイン学科 3年生 プロジェクト授業成果発表 to be born	303
ときめきトかさなり	225
交換留学帰国報告展覧会 An Exhibition of Works Created Overseas by Seika's Outbound Exchange Students in 2018	170
ヒューマンライツ&リブ博物館 -アートスケープ資料が語るハストリーズ	973
タイカン前期 学修成果発表2019	435
SOUNDやろうぜ	161
同時代学生陶芸展	126
ストラクチャー アンド サウンド -音による構造の知覚-	296
黒崎彰名誉教授と有志展	520
しずく	177
立体造形三回生秋展覧会	184
野崎奨一作品展 -セイカのせいか-	153
2019年度「京都の伝統産業実習」報告展	296
みることに触れる、描くことの現在 (芸術学部 洋画コース 安喜ゼミ)	304
タイカン後期学修成果発表2020	111
京都精華大学大学院1年生研究制作展	270
京都精華大学大学院芸術研究科修了制作展2020	800
年間合計	5504

2019年度 その他展示・イベント 来場者数

展覧会名	来場者数
RAKE UP! 会期中宿泊者:2431 芳名帖記入者:254	
kyocera×seika 2019 「トロポスフィア:素材が開く新しい世界」	2579
トークイベント「京都市京セラ美術館 リニューアルオープンについて聞く!」	20

利用案内



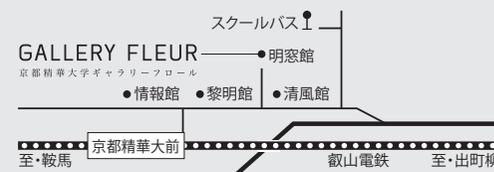
GALLERY FLEUR

京都精華大学ギャラリーフロール

京都精華大学 明窓館1・2階の一部
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

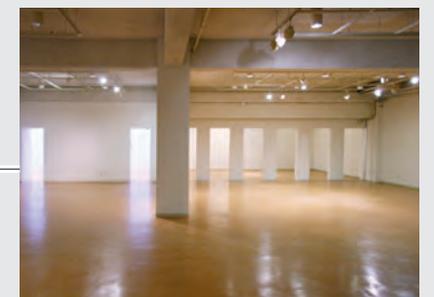
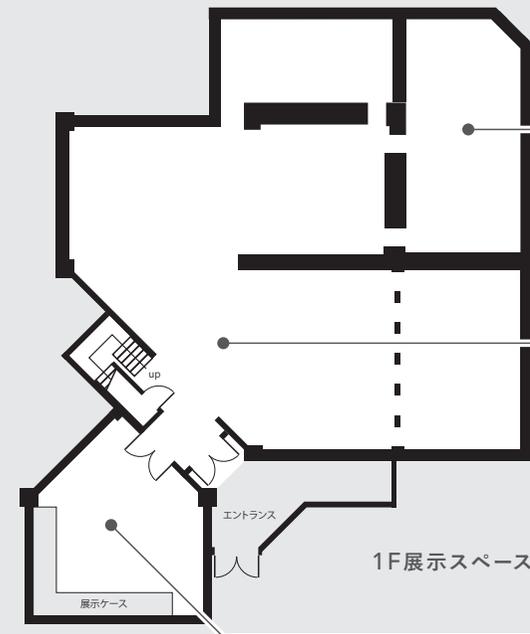
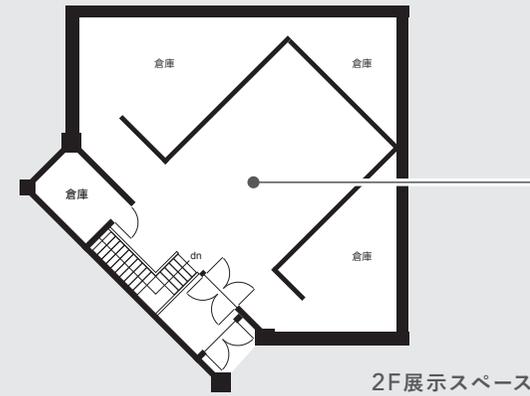
開館日 展覧会開催期間
休館日 日曜日・祝日・大学が定めた日
開館時間 10:00-18:00(展覧会により異なる)
入場料 無料

お問い合わせ
研究推進グループ ギャラリーフロール 担当
京都精華大学 本館2階
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
TEL 075-702-5263
FAX 075-722-5440
E-MAIL fleur@kyoto-seika.ac.jp



□ 叡山電鉄鞍馬線「京都精華大前」下車
□ 地下鉄烏丸線「国際会館」下車、3番出口よりスクールバス
※ 駐車場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

施設図面



京都精華大学 展示コミュニケーションセンター
2019年度活動報告

編集 伊藤まゆみ(京都精華大学展示コミュニケーションセンター)

デザイン 加瀬部敏志

撮影 石谷治寛(p101-103)、松見拓也(p108-111)、表 恒匡(p124-126)

発行 京都精華大学
〒606-8588京都市左京区岩倉木野町137
www.kyoto-seika.ac.jp/

発行日 2020年3月25日

GALLERY FLEUR

京都精華大学ギャラリーフロール

2018年度活動報告

目次

【概要】	
2018年度活動サマリー	144
【展覧会】	
ビジュアルデザイン学科3年生	146
プロジェクト授業成果発表「バンブアップ展」	
京都国際マンガ展20年の軌跡	148
京都精華大学50周年記念展「アスピレーションズ—8つの扉」	150
体幹教育前期学修成果発表2018	154
合同陶芸展	156
No-interaction	158
Obsession Conception Possession	160
SEIKA JACK	162
ここん 京都精華大学嵯峨御流華道同好会 第21回華展	164
共生社会の実現に向けて二歩目を踏み出す展覧会	166
2018年度「京都の伝統産業実習」報告展	168
京都精華大学50周年記念展「石黒宗麿と八瀬陶窯—五〇年目の窯出し—」	170
タイカン後期学修成果発表2018	174
京都精華大学展2019 大学院展 [芸術研究科・デザイン研究科・マンガ研究科]1年生研究制作展	176
京都精華大学展2019 大学院展 [芸術研究科・デザイン研究科]2年生修了制作展	178
創造的ドローイング	180
「かくこと、きくこと、つくること」勇内真美個展	182
京都精華大学展2019作品選抜展	184
【基本情報】	
来場者数・利用案内	186
施設図面	187

2018年度 活動サマリー

2018年度より京都精華大学ギャラリーフロールの運営は、全学研究機構のもとに設置された「展示コミュニケーションセンター」が行っている。展示コミュニケーションセンターは、本学の教育研究活動の成果を積極的に発表し、地域社会との連携や交流を図るとともに、広く芸術・文化の教育研究活動に資する企画展覧会・報告会を実施することで、大学教育の発展と地域社会の振興に寄与することを活動目的として2018年4月に設立された。

新しい体制となった本年度は、ギャラリーフロールの運営においても学外施設の調査活動と連携した企画展の開催などを通して、さまざまな組織や人との関係を新たに構築し、本学の研究成果を広く発信することを目的に活動に取り組んだ。

また、本年度は本学創立50周年を迎えた記念として2つの「企画展」を開催した。その一つ「アスピレーションズー8つの扉」では、美術作家の塩田千春やマンガ家の竹宮恵子など、卒業生あるいは教員として本学で時を過ごした8組の作家や研究者の活動を紹介した。1970年代から現在に至るまで、芸術、デザイン、

マンガ、人文学、科学などの領域において多彩な才能を発揮した彼らの作品を通して、建学の精神を振り返りつつ、今、そして未来のために何をなすべきか、そして学生たちにどんな問いやヒントを投げかけ、ともに歩いていくべきかを考える機会となった。

もう一つの企画展「石黒宗麿と八瀬陶窯 ―五〇年目の窯出し―」では、人間国宝として認められた陶芸家・石黒宗麿が晩年に生活・制作の拠点とし、現在は本学が管理する「八瀬陶窯」に残された陶片の検証を起点とした調査・研究活動を紹介。調査活動中に窯内から発見された石黒作とおもわれる「木葉天目茶碗」の初公開をはじめ、陶片に触れることができる展示の試みや、八瀬陶窯見学ツアーなどを実施。新たに知り得た石黒の作陶風景を共有する展覧会を行うことができた。

「申請展」においては、授業の成果発表を含めた16の展覧会を開催した。デザイン学部ビジュアルデザイン学科企画の「パンプアップ展」では全11のプロジェクト授業の成果を発表し、芸術学部造形学科企画の「体幹教育前期学修成果発表2018」と「タイカン後

期学修成果発表2018」では1年次対象の共通教育の一つ「体幹教育」の学びの成果をギャラリー空間を存分に使用することでダイナミックに実感できる展示を行った。そのほか、京都の伝統産業に携わる工房・企業の現場に学生が弟子入りして学ぶ本学独自のプログラム「京都の伝統産業実習」の報告展、「京都精華大学展2019大学院展」、「京都精華大学展2019選抜展」として、学生の制作・研究活動の集大成となる展覧会を実施した。

学生、教員による申請展としては「京都国際マンガ展20年の軌跡」、「共生社会の実現に向けて二歩目を踏み出す展覧会」、「No-interaction」、「Obsession Conception Possession」、「SEIKA JACK」、「創造的ドローイング」、「『かくこと、きくこと、つくること』勇内真美個展」など、多様なテーマ、そしてメディアを使用した展覧会を多数開催。

さらに学生課外活動団体による「ここん 京都精華大学 嵯峨御流華道同好会 第21回華展」、本学を中心に京都の4つの大学で陶芸を学ぶ学生たちが交流を通じて陶芸がもつ特異性を考察した「合同陶芸展」など、伝統的な美や

文化を起点にしながらも、同時代性からの考察や新しい表現を試みようとする意欲的な展覧会を開催した。

企画展だけでなく個々の申請展においても積極的にトークイベントやクロージングライブなど多様な催しが企画された結果、広く学外の方にギャラリーフロールに対する関心を高めることができた。

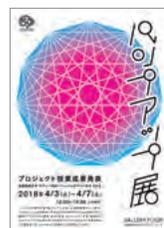
来年度は展示コミュニケーションセンターとしての活動を進展させ、ギャラリーフロールの特徴を活かした展覧会の企画運営に取り組むとともに、学外の組織や施設と連携した展示機会をさらに増やすことで、社会への発信力を強め、本学の教育研究活動の成果を伝えていくことをめざす。

ビジュアルデザイン学科3年生 プロジェクト授業成果発表「パンプアップ展」

2018年4月3日[火]～4月7日[土]

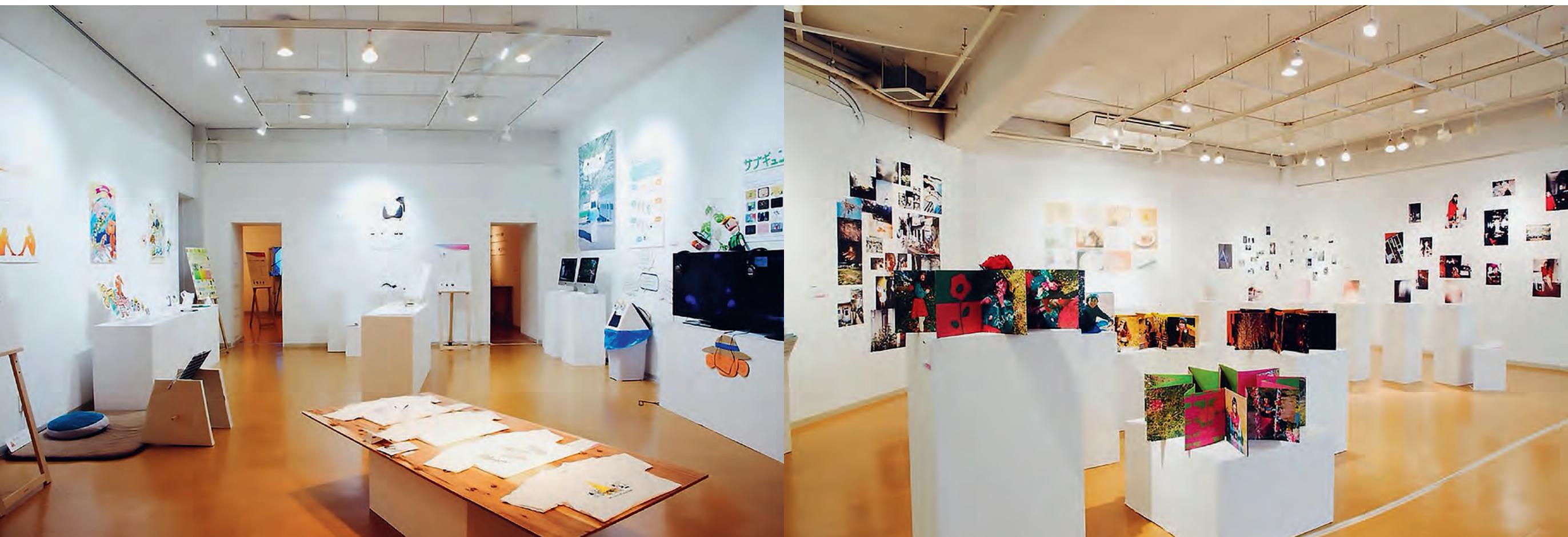
開館時間 11:00～18:00

企画 ビジュアルデザイン学科



一人ひとりが個性を強く持ち、お互いに切磋琢磨していく学年、セイカビジュアル10期生。学生それぞれの制作スタイルも完成に向けて輪郭がでてきた。

模様、WEB、写真、ゲーム、広告、文字、映像など、全11プロジェクト授業を経て、力を身につけてきた10期生の1年間が結集した展覧会。



京都国際マンガ展20年の軌跡

2018年 4月17日[火] - 4月29日[日]

開館時間 11:00 - 18:00

企画 京都国際マンガ展20年の軌跡実行委員会



関連イベント

トークイベント

4月28日[土] 13:00 -

ゲスト ヨシトミヤスオほか



京都国際マンガ展は1991年から2011年まで計10回にわたって開催されたひとコママンガ(カートゥーン)の国際公募展。歴代受賞作などから厳選されたユーモアと風刺に彩られた数々の原画を展示した。

現マンガ学部の元となるマンガクラス(現カートゥーンコース)を、45年前に世界で初めて、京都精華大学に創立し、京都国際マンガ展の創設者でもあるヨシトミヤスオ(マンガ家・京都精華大学名誉教授)の最新作38点も特別展示した。

京都精華大学50周年記念展 「アスピレーションズー8つの扉」

2018年 6月8日[金]ー7月7日[土]

休館日 日曜日 ※6月10日は開館

開館時間 11:00ー18:00 ※6月8日[金]は14:00開場

出展作家 片桐ユズル/黒崎彰/塩田千春/
柴谷篤弘+日高敏隆+中村裕太/
竹宮恵子/タナカカツキ/西田潤/村岡三郎

主催 京都精華大学

監修 吉岡恵美子

企画 櫻岡聡/池田和正

協力 兵庫県立人と自然の博物館/ケンジタキギャラリー/
レベッカ・ジェニスン/STUDIO森森

制作スタッフ 井上朔美

グラフィックデザイン 三重野龍

関連イベント

オープニング・イベント

日時 6月8日[金]16:30ー18:00

「アーティスト・トーク」

会場 京都精華大学ギャラリーフーロール

トーク終了後 レセプション

会場 京都精華大学 iC-Cube (明窓館M-101)

片桐ユズル+中川五郎

ギャラリートーク+LIVE Poetry reading / folk song

日時 7月2日[月]18:00ー19:30

会場 京都精華大学 iC-Cube (明窓館M-101)

Part 1 ギャリートーク / Part 2 詩の朗読会・フォークソング~LIVE !!!

本展出品者の片桐ユズル氏とフォーク・シンガーの中川五郎氏はこれまで様々なコラボレーションを行ってきた。お二人をお招きし、詩の朗読会とフォークソングを中心するライブを開催した。

タナカカツキトークイベント

日時 6月25日[月]18:15ー19:30

会場 清風館C-103

マンガや映像、カプセルトイから、水草水槽にサウナに至るまで、様々なジャンルにわたり活動と発信を続けるタナカカツキ氏。その多彩でユニークな創作の秘密に迫った。

アセンブリーアワー講演会 塩田千春「世界をひとつに繋ぐ」

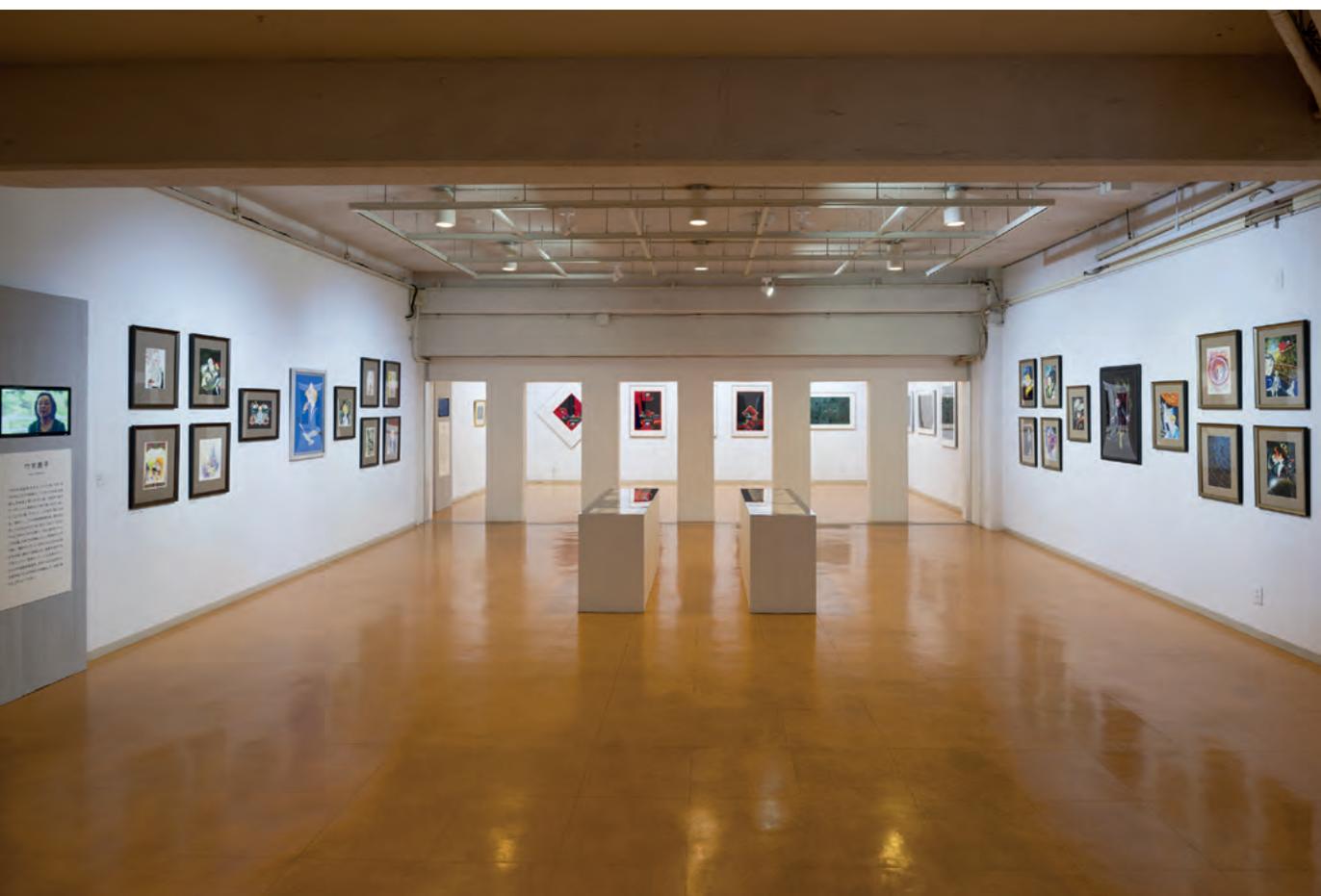
日時 7月5日[木]16:20ー17:50

会場 京都精華大学 友愛館 アゴラ



開学50周年にあたり、京都精華大学は建学の精神を振り返りつつ、教育・研究・社会貢献を通じて、今、そして未来のために何をなすべきか、そして学生たちにどんな問いやヒントを投げかけ、ともに歩いていくべきかを考えてきた。京都精華大学50周年記念展「アスピレーションズー8つの扉」では、卒業生あるいは教員として本学で時を過ごした多数のセイカ人の中から、今、若い世代に紹介したい8組の作家や研究者の活動を厳選して紹介。

「野心、大志、憧れ」を意味する「アスピレーション」は、本展に出品するひとりひとりの表現や研究、そしてその背景にある自身や社会、時代に対しての真摯で止むことのない熱い想いを指す。「アスピレーション」と同じく、「インスピレーション」もまた「呼吸する」というラテン語からきている。1970年代から現在に至るまで、芸術、デザイン、マンガ、人文学、科学などの領域において多彩な才能を発揮し、多くの人に影響を与えた彼らの作品から「アスピレーション」を感じることで、私たち自身のインスピレーションへと繋がる展示会となった。



申請展

体幹教育前期 学修成果発表2018

2018年7月19日[木] - 7月28日[土]

開館時間 11:00 - 17:00

体幹教育
前期学修
成果発表
2018

京都精華大学 芸術学部
造形学科 体幹教育
GALLERY FLEUR

企画

京都精華大学 芸術学部
造形学科 体幹教育



「体幹教育」は感覚に基づく経験と思考の共有を大切にし、創作の原点である「表現することの喜び」を体感する授業である。

指先で触れ、素材の感触を確かめ、五感を働かせながら観察し創作を展開する。そういった「感覚に基づく経験の蓄積」が、それまでの認識を越えて表現の多様性を考えるきっかけとなるだろう。芸術基礎教育の固定観念を振り払い、和やかなコミュニケーションを通じて、互いのエスキース・思考を共有することにより、創造力や思考力は柔軟性を持ち、様々な視点を獲得ことになる。「つくること」、「考えること」のバランスをとりながら、表現者としての「幹」を育てることが体幹教育の目標である。

ここに2018年度前期「視覚のクリエイション(絵画基礎)」「生活のレクリエーション(工芸基礎)」の授業成果の一端を展示。後期は「対象のトランスフォーメーション(彫刻基礎)」「表現のバリエーション(デザイン基礎)」へと展開していく。この展示が「表現の可能性」を模索する契機となり、学生達の自信に繋がることを期待する。

芸術学部造形学科 体幹教育担当教員

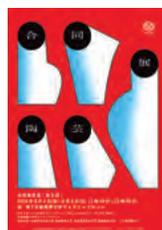


合同陶芸展

2018年 8月3日[金] - 8月5日[日]

開館時間 11:00 - 18:00

参加大学 京都市立芸術大学 / 京都精華大学 /
京都造形芸術大学 / 嵯峨美術大学



関連イベント

トークショー「Do you know(どーゆーの)陶芸?」

日時 8月4日[土]12:00-

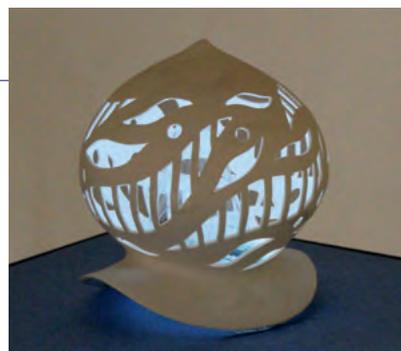
ゲスト

平田万葉 (2017年京都市立芸大大学院美術研究科修士課程修了) /

林大作 (2010年京都精華大学大学院芸術研究科修了) /

吉田瑞希 (2015年京都造形芸大大学院修了) /

田中悠 (2013年嵯峨美術大学工芸領域陶芸分野卒業)



京都にて陶芸を学ぶ学生のカンファレンスとなることを目的に「同時代学生陶芸展」は2008年より毎年開催されてきた。当時より会場とする立誠小学校の改装に伴い、会場や時代の変化に対応すべく、2017年度よりゲスト校を招くなどの更新が行われた。そして、今年度より「合同陶芸展」として体制を整え、交流としての展示会だけではなく、交流を含めた同時代性から陶芸という分野の特異性を、外部の人々にアピールする機会へと変えていった。



申請展

No-interaction

2018年 8月23日[木] - 9月1日[土]

休館日 日曜日

開館時間 11:00 - 18:00

出展作家 宮野有史 / 塚原真梨佳 / 原田和馬 /
中路景暁 / よしだともふみ / おおしまたくろう



主催・企画 No-interaction

関連イベント

クロージング・ライブ

「No Sakyo-Ku」

日時 9月1日[土] 14:00 - 18:00

会場 京都精華大学ギャラリー
フロール 2階



かつてコンピューターと人間の協調作業を目指した「インタラクション(相互作用、対話)」の考え方が、社会システムにまで適用されるようになって久しい。インターフェースは改良を重ね、私たちはストレスなく上質な体験にアクセスできるようになった。

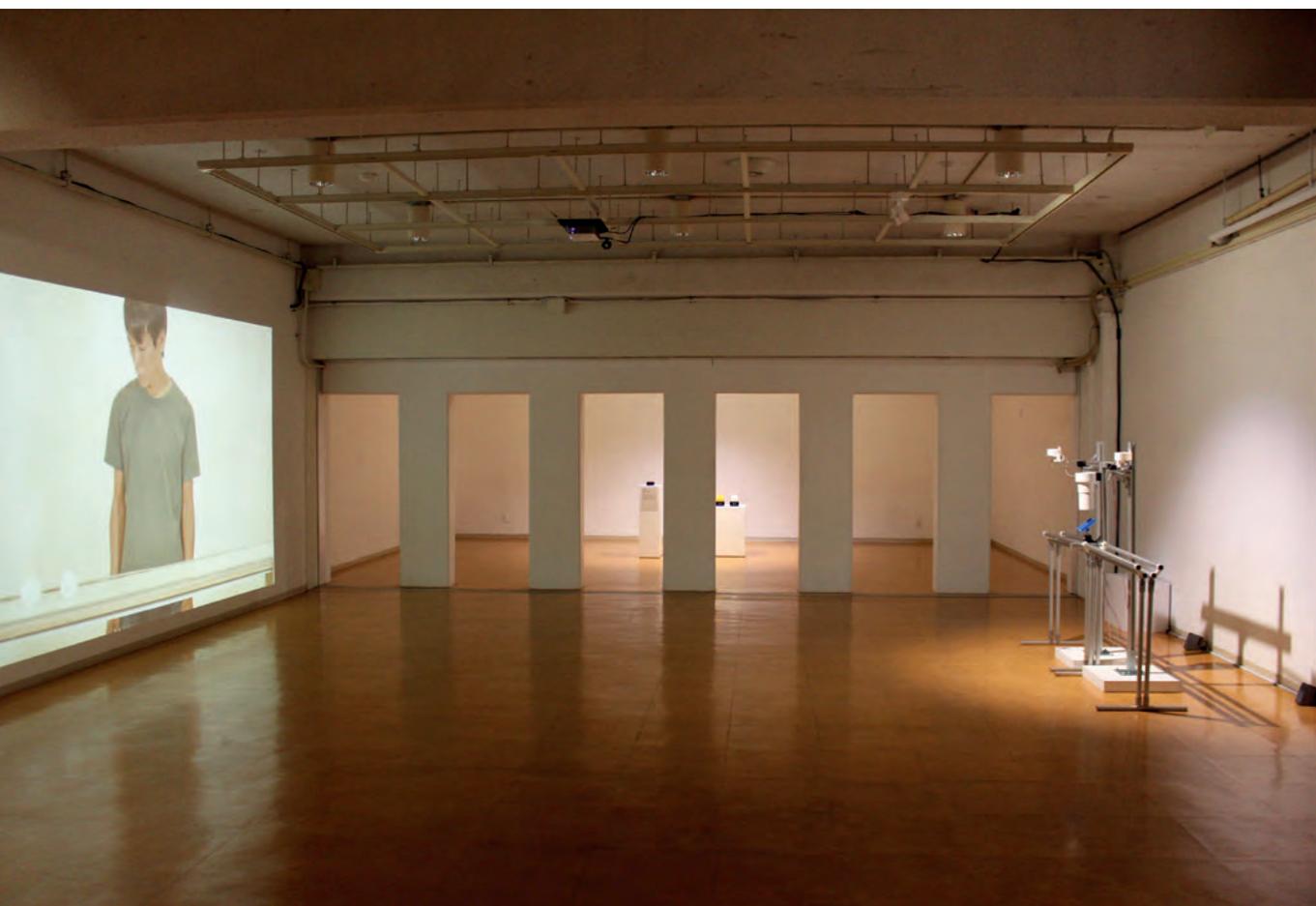
しかしSNSに代表されるように、誰もが誰ともない人との交流をシームレスに行えるようになった一方で、相手のアクションに素早く反応し、自らのアクションにもリアクションを求めるような脊髄反射的なコミュニケーションが台頭してきている。そのようなリアクティブなコミュニケーションの場では、人の目を引く過激で明快な主張が支持されている。

人類はこれまでに幾度となく他者との対話を試みてきた。神、死者、自然、内なる私、地球外生物…。他者

との対話を通して、応答の有無に関わらず発信し続ける努力や、応じざるを得ない責任から生じる返答能力の不足の自覚など、人類は生きてゆくための数多くの術を学んできた。

20世紀に登場したコンピューターも未知の可能性と恐怖を孕んだある種の他者だと考えれば、インタラクションとは現代における他者との対話の手段だったのかもしれない。

本展はリアクティブではあるが他者とのコミュニケーションを誘発しない現代のインタラクション観に異議を唱え、インタラクションを他者との対話の手段とみなし、黙って相手の話に耳を傾けることや返答に戸惑うといった、コミュニケーションにおけるある種の間の悪さを対話の重要な要素として評価する試みである。



申請展

Obsession Conception Possession

2018年 9月10日[月] - 9月29日[土]

休館日 水曜日・日曜日 ※9月30日は開廊

開館時間 11:00 - 18:00

出展作家 桑島秀樹 / 笹口数 / 佐藤実 / 古屋俊彦 / 若林雅人

主催・企画 Obsession Conception Possession 実行委員会 / 京都精華大学 デザイン学部 イラスト学科

協力 20202 (ツオーツオーツ)

助成 公益財団法人 朝日新聞文化財団、
公益財団法人 野村財団

関連イベント

Obsession Conception Possession
Extra Sound Event

日時 9月8日[土] 18:00 - 20:00

料金 1000円 会場 STUDIOQ22 (スタジオオブジ)

出演 ニシジマ・アツシ (4) / 佐藤実 (Minoru Sato, -m/s)

オープニングトーク

日時 9月10日[月] 17:00 - 18:00

会場 京都精華大学ギャラリーフロール

出演 桑島秀樹 / 笹口数 / 佐藤実 / 古屋俊彦 / 若林雅人

古屋俊彦トーク

日時 9月15日[土] 16:00 - 18:00

会場 京都精華大学ギャラリーフロール

出演 古屋俊彦

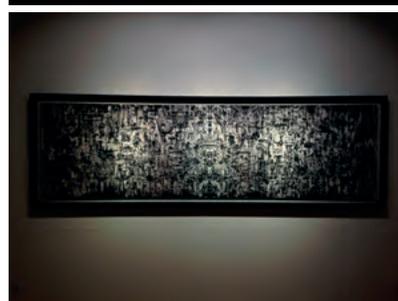
クロージングトーク

日時 9月29日[土] 16:00 - 18:00

会場 京都精華大学ギャラリーフロール

出演 桑島秀樹 / 笹口数 / 佐藤実 / 古屋俊彦 / 藤本ゆかり

ゲスト 前林明次 司会 伊藤麻衣子

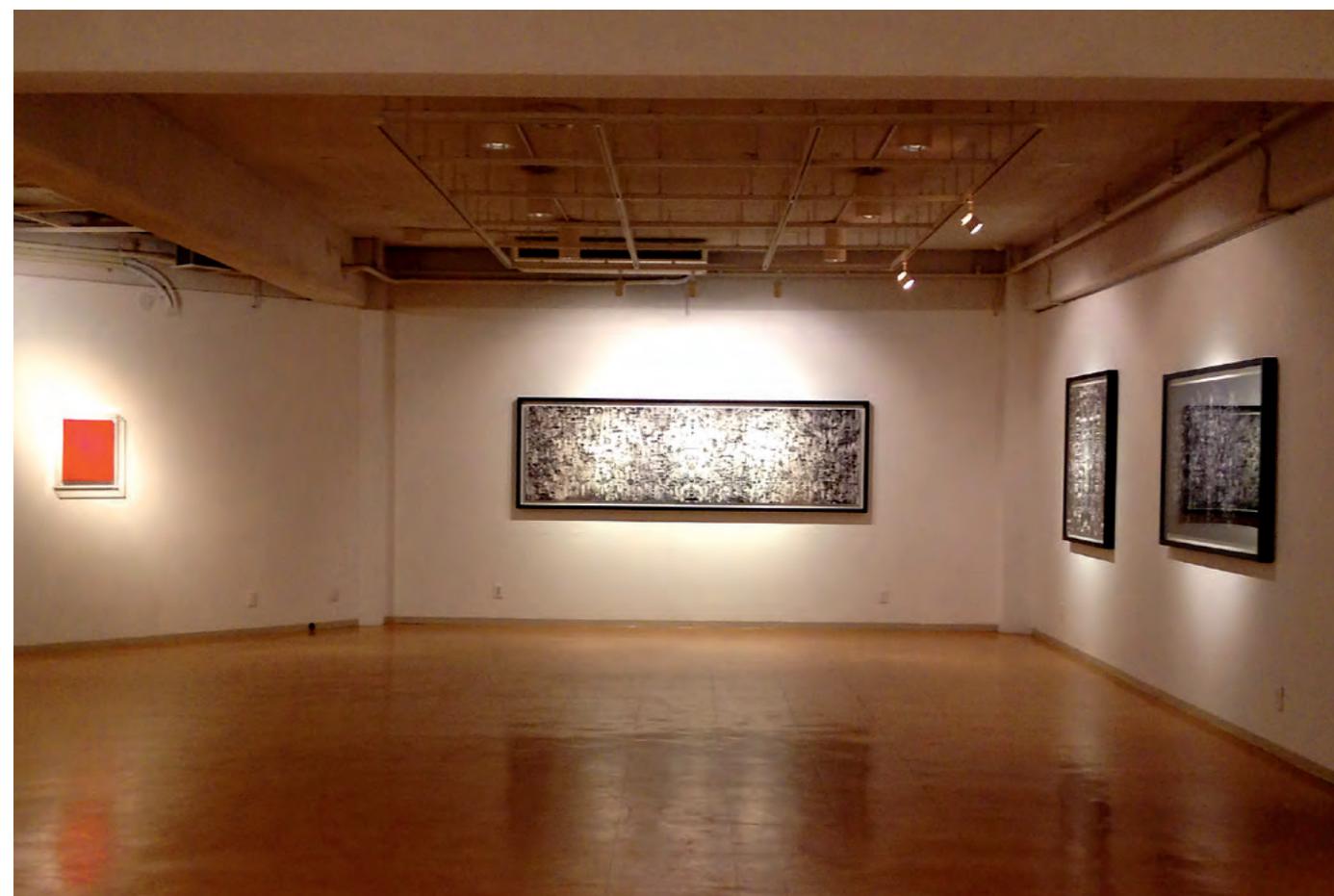


アイデアやコンセプトが作品の中心的役割をはたすという概念が、コンセプチュアル・アートとして1960年代に美術のジャンルとして用いられ始めてから半世紀以上が経過した。アメリカ、ヨーロッパで発生したこの流れも現代の視点で標榜したとき、時代や国、文化的な背景も含めさらに多様化している。

今展覧会では20年以上のキャリアを持ち、それぞれ異なる視点でアイデアという言葉だけではとどめることの出来ない思考と探求の痕跡を作品化している、桑島秀樹、笹口数、佐藤実、古屋俊彦、そして若林雅人という5作家の作品、インスタレーションを一同に展示する事により、現在の日本に於けるコンセプチュアル・アートの堅固な表現の一端に触れる機会をつくった。そして作品を通じて、美術のフィールドから物理、哲学、言語学、など様々な世界へ通じる、新たな視点を提示することになった。

今展のタイトル「Obsession Conception Possession」について。作品制作のきっかけとなるイメージとは、まだ言葉やビジュアルに変換される以前の、思考の中にある輪郭のはっきりしない思いやこだわり (Obsession) から始まり、そこから次第にその思考に輪郭や言葉を与える作業へ移行し、時間をかけ研究、検証される行為とともに制作が開始されコンセプト (Conception) になっていく。そして制作された作品は何者か、あるいは何処かに所蔵、所有される所蔵品 (Possession) となるという、作品を巡る一つのプロセスを言葉として置き換えたものであり、今展覧会のテーマとなっている。

作品を中心として、自己に立返り、世界と繋がるプロセスを再考出来る機会となればと考える。



申請展

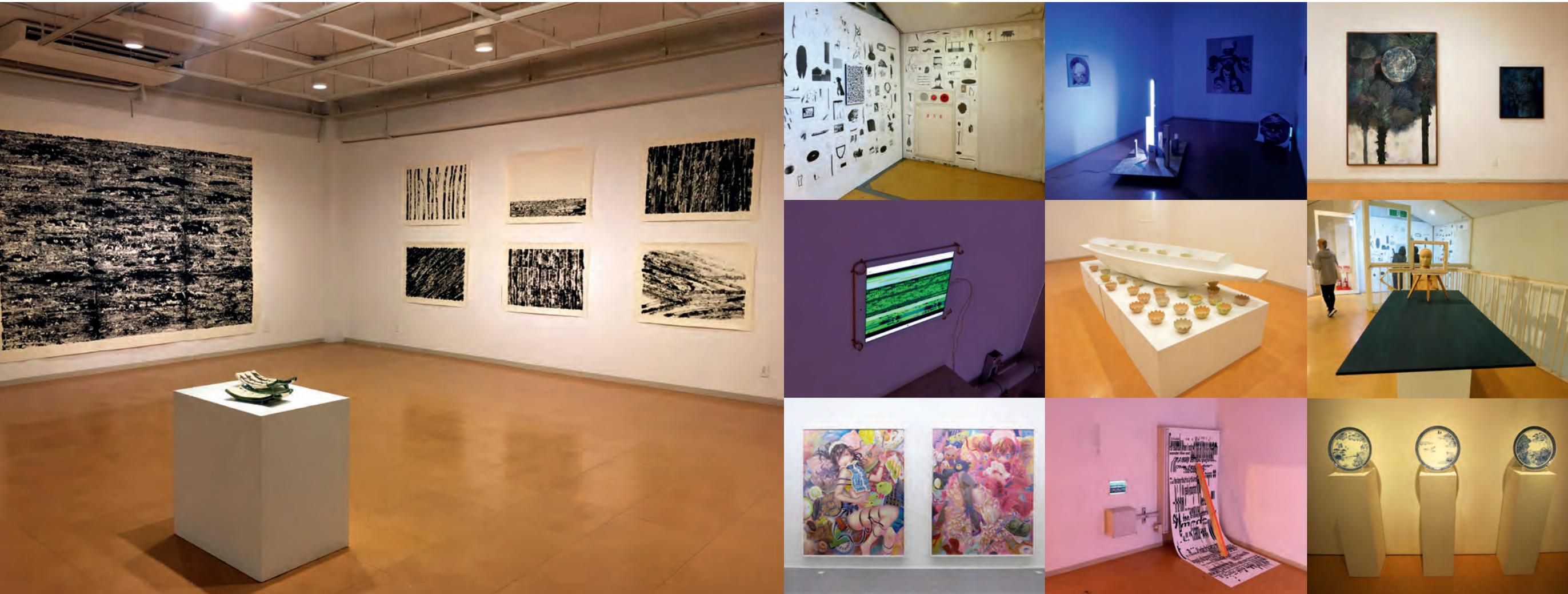
SEIKA JACK

2018年 11月3日[土] - 11月4日[日]

開館時間 10:00 - 18:00

主催 エ

我々は京都精華大学祭"木野祭"が開催される11月3・4日の2日間、ギャラリーフロールを拠点に流溪館・ドラフトギャラリーなど、大学敷地内の数ヶ所に作品群を展開し占拠する。



ここん 京都精華大学 嵯峨御流華道同好会 第21回華展

2018年 11月9日[金] - 11月10日[土]

開館時間 10:00 - 17:00



主催
京都精華大学嵯峨御流華道同好会

後援
はな古伝

協力
京都精華大学 陶芸コース(陶芸専攻)



伝統的な美を大切にしながらも新しい変化を取り入れていくという、日本の芸術表現の心構え『不易流行』をイメージしてここん(古今)というタイトルをつけた。

日本人は四季の移ろいや自然の美しさに感動を覚え「いけばな」を作り出した。

美しい自然の造形を人の手と技を通して、さらに美しく見せるために、華道同好会は日頃から伝統を学び、鍛錬を重ねている。その上で、今を生きる自分たちの表現に昇華させることを目標にしている。

一輪の花、一本の枝は二つと同じものがない。そして、いけばなの作品は時の経過と共に変化し永遠に留めることができない。二度と再現できない命の芸術の「伝統」と「革新」をこの展覧会で表現した。



申請展

共生社会の実現に向けて 二歩目を踏み出す展覧会

2018年 11月14日[水]-11月24日[土]

休館日 11月18日[日]/23日[金・祝]

開館時間 11:00-17:00

出展作家 NPO法人「天才アートKYOTO」所属作家/
京都市立明德小学校児童/京都精華大学の学生・教職員



主催

京都精華大学 北波研究室

共催

特定非営利活動法人障害者芸術推進研究機構/
京都市立明德小学校

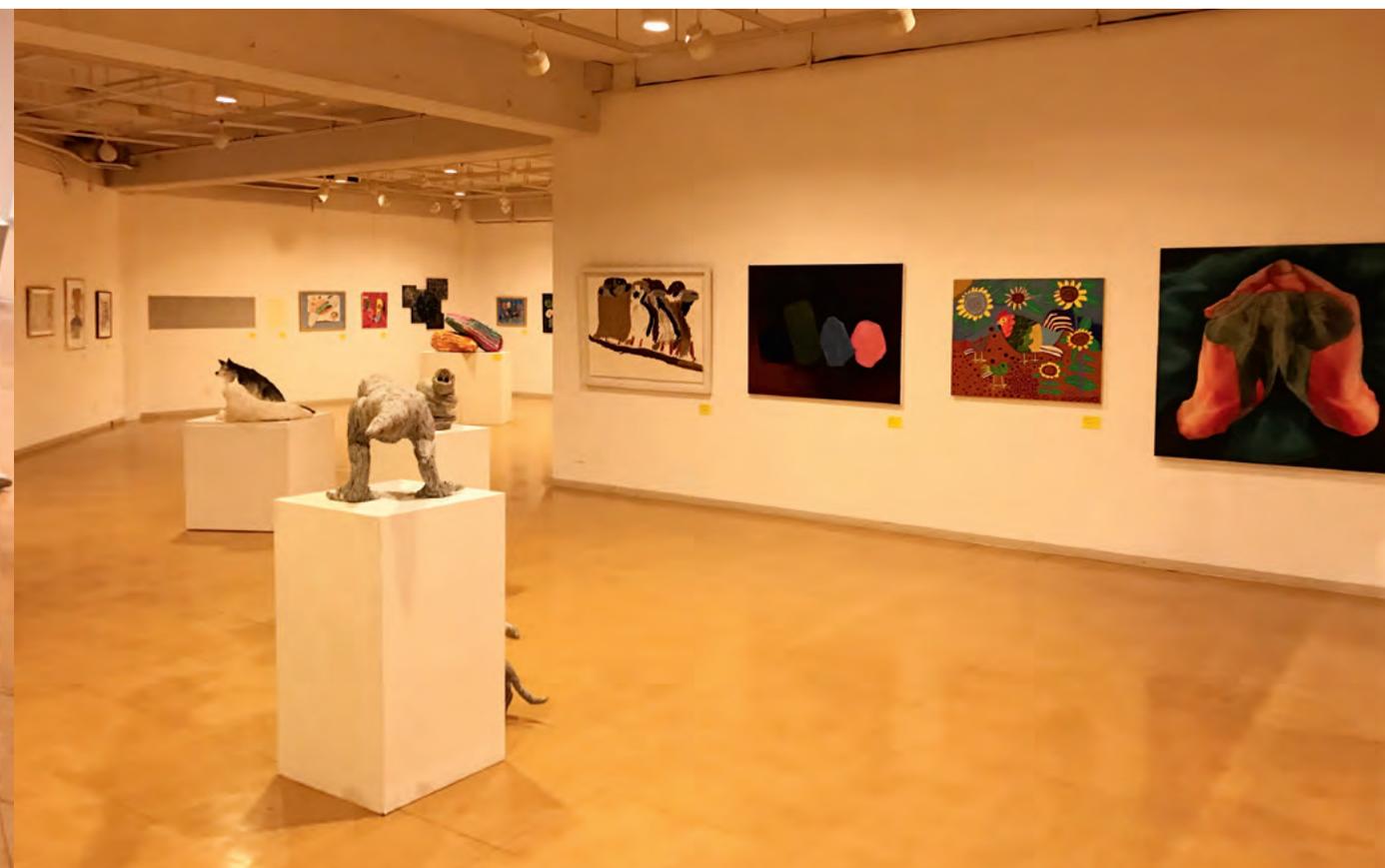
後援

京都市教育委員会



バリアフリーからユニバーサルデザインへ、ノーマライゼーションからインクルージョンへ、障がい者を取り巻く状況は大きく変化してきた。私たちは障がいのある人もない人も、もともと社会全体の中でそれぞれが尊い存在であり、障がいは特別なものではなく一つの個性であると捉えるようにしている。障がいのある人もない人も、共に生きる共生社会の実現を目指すことは、今を生きる私たちに課せられた責務であると考えている。

今回、創作に関わる者同士として、障がいのある人となない人の作品を、並列に、ボーダレスに、展示する展覧会を企画した。障がいのある人はいない人から、ない人はある人から学ぶことは多いと思う。この展覧会では、障がいのある人となない人の作品を、交互に展示することにこだわった。そのことによって共生社会の大切さを訴え、小さな一歩を踏み出したかったからだ。



申請展

2018年度 「京都の伝統産業実習」 報告展

2018年 11月27日[火] - 12月7日[金]

休館日 12月2日[日]

開館時間 11:00 - 18:00

主催

京都精華大学 伝統産業イノベーションセンター

協力(実習先・順不同)

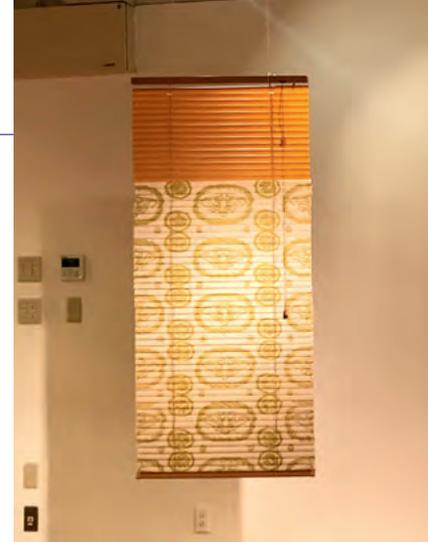
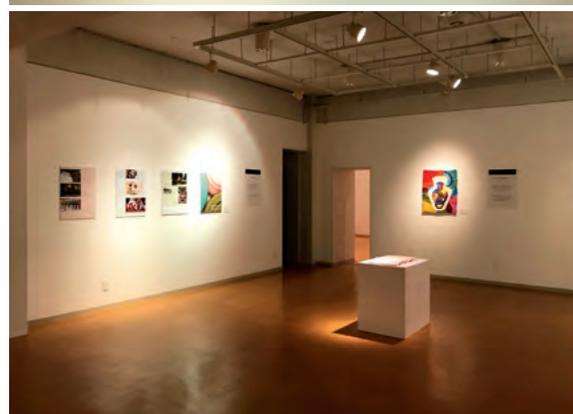
- 【織物】(株)川島織物セルコン / 【綴織】細見綴織工房 /
- 【京友禅】(株)千總 / 【草木染組紐】(有)藤三郎紐 /
- 【染色】染司よしおか / 【和紙】手漉き造紙工房 風空路 /
- 【京唐紙】唐長 / 【京版画】佐藤木版画工房 /
- 【陶磁器】竹中浩工房 / 【漆工芸】好謙漆工房 /
- 【木工芸】宮崎木材工業(株)、中川木工芸 比良工房 /
- 【京人形】面庄工房 / 【京象嵌】(株)川人象嵌 /
- 【文化財修復】(株)さわの道玄 /
- 【京表具・文化財修復】(株)岡墨光堂 /
- 【お香】(株)松榮堂 / 【茶筒】開化堂 /
- 【地場産業支援】鯖江市役所

関連イベント

日時 11月28日[水] 10:40 - 12:10

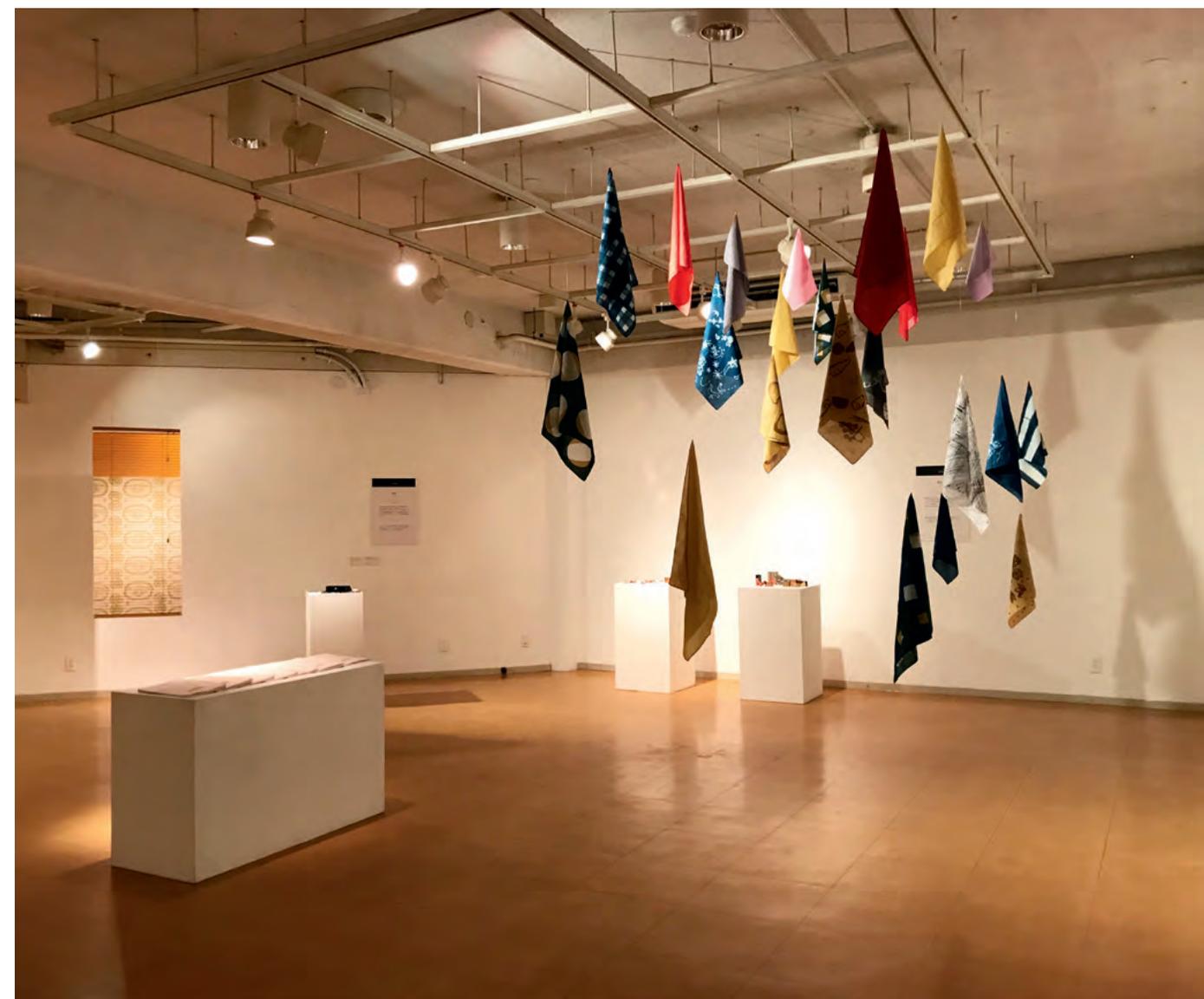
会場 京都精華大学 黎明館1階 L-101

今年度の実習生が工房体験の様子や制作した作品について語った。



京都精華大学では1980年より約40年にわたり、夏期の約2週間、京都の伝統産業に携わる工房・企業の現場に弟子入りして学ぶ「京都の伝統産業実習(学外実習)」プログラムを実施している。

2018年度も染織、和紙、京版画、木工芸、金工芸、文化財修復などの様々な分野の実習先19社で、芸術学部・デザイン学部の3・4年生30名が実習を行った。その成果発表報告展を開催した。



企画展

京都精華大学50周年記念展
「石黒宗磨と八瀬陶窯
—五〇年目の窯出し—」

2018年12月14日[金]—2019年1月12日[土]

休館日 日曜日/12月24日[月・祝]/
12月29日[土]—1月6日[日]

開館時間 11:00—18:00
※ただし、12月14日[金]は16:00開場

主催・協力・企画・実行委員会

主催 京都精華大学 協力 射水市新湊博物館/銀座 黒田陶苑/金田正夫(有限会社無垢里)/木立雅朗(立命館大学)/黒石いずみ(青山学院大学)/坂部真理(株式会社環境事業計画研究所)/田畑幸嗣(早稲田大学)/ナワビ矢麻(早稲田大学)/余語琢磨(早稲田大学) 企画 京都精華大学 八瀬陶窯研究会(米原有二/奥村博美/斎藤光/兼松佳宏/中村裕太) 実行委員会 小野公久/木村盛伸/黒田佳雄/鯉江良二/清水保孝/馬場弘吉/原清/森口邦彦

関連イベント

オープニングトーク&レセプション

2018年12月14日[金]17:00—

オープニングトーク「八瀬での石黒宗磨を語る」

登壇者 本展実行委員会、本学教員

会場 京都精華大学ギャラリーフーロール

トーク終了後 レセプション

会場 京都精華大学iC-Cube(明窓館M-101)

八瀬陶窯 探訪ツアー

2019年1月12日[土]13:00—16:00

本学教員と共に石黒の工房兼住居「八瀬陶窯」を訪ねるツアーを開催した。

集合場所・時間 13:00 ギャラリーフーロール

参加料 無料 定員 20名

フライヤー



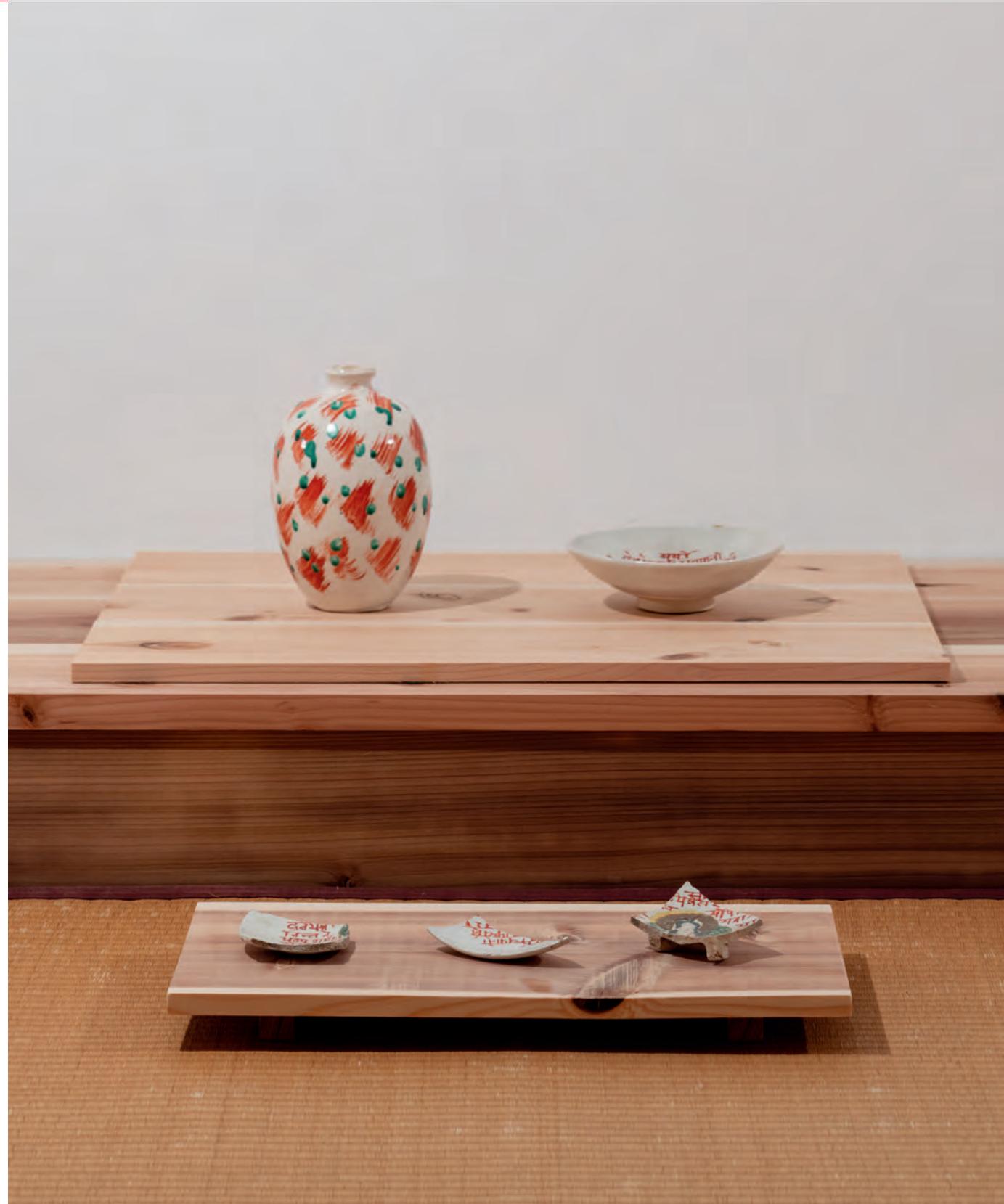
ポスター



オープニングトーク&レセプション



八瀬陶窯 探訪ツアー





伝統に根ざし、伝統に縛られず。

独学でありながら、生涯でこれほど多くの作風に挑んだ陶芸家は稀ではないだろうか。石黒宗麿は、古代から連綿と積み重ねられた陶芸技法の数々を紐解き、再現し、それを自身の表現に取り込もうとした人だった。陶片を師に、物の声に懸命に耳を傾けて陶芸を学んだ。晩年の石黒が暮らし、作陶の場とした「八瀬陶窯」には、自身の理想を追い求め、先人たちの技法に学び続けた石黒の痕跡が随所に残っている。

京都精華大学では、八瀬陶窯とそこに残された陶片の検証を起点とした調査・研究活動を2018年からおこなっている。八瀬陶窯は、大正・昭和を生きた文人の美意識を今に伝える。そして、暮らしと作陶が連続した人生を送った石黒の精神性を読み解くにはこれ以上ない場所だ。調査研究の結果、登り窯周辺で土砂に埋もれていた「灯油窯」と「楽窯」が新たに発見され、これまで明らかになっていなかった石黒の作陶設備を知る手がかりとなった。

2018年6月、本研究の一環として実施した登り窯測量調査において、窯内から石黒作とおもわれる「木葉天目茶碗」が発見された。本作品は焼成時に容れる「匣鉢」に納められた状態で残っており、焼成時に匣鉢と作品の付着を防ぐための目土も付いたままだったことから、石黒自身が焼成後に取り出すのを忘れたものと考えられる。本作品においては未解明な部分も多く、今後さまざまな機関と協力して全容を解明していく。本展では、新たに知り得た石黒の作陶風景を共有するとともに、いまだ明らかになっていない人物像を来場者と共に考えるきっかけになればと企画した。

申請展

タイカン後期 学修成果発表2018

2019年 1月23日[水]-1月25日[金]

開館時間 11:00-17:00 ※最終日のみ16:30閉館



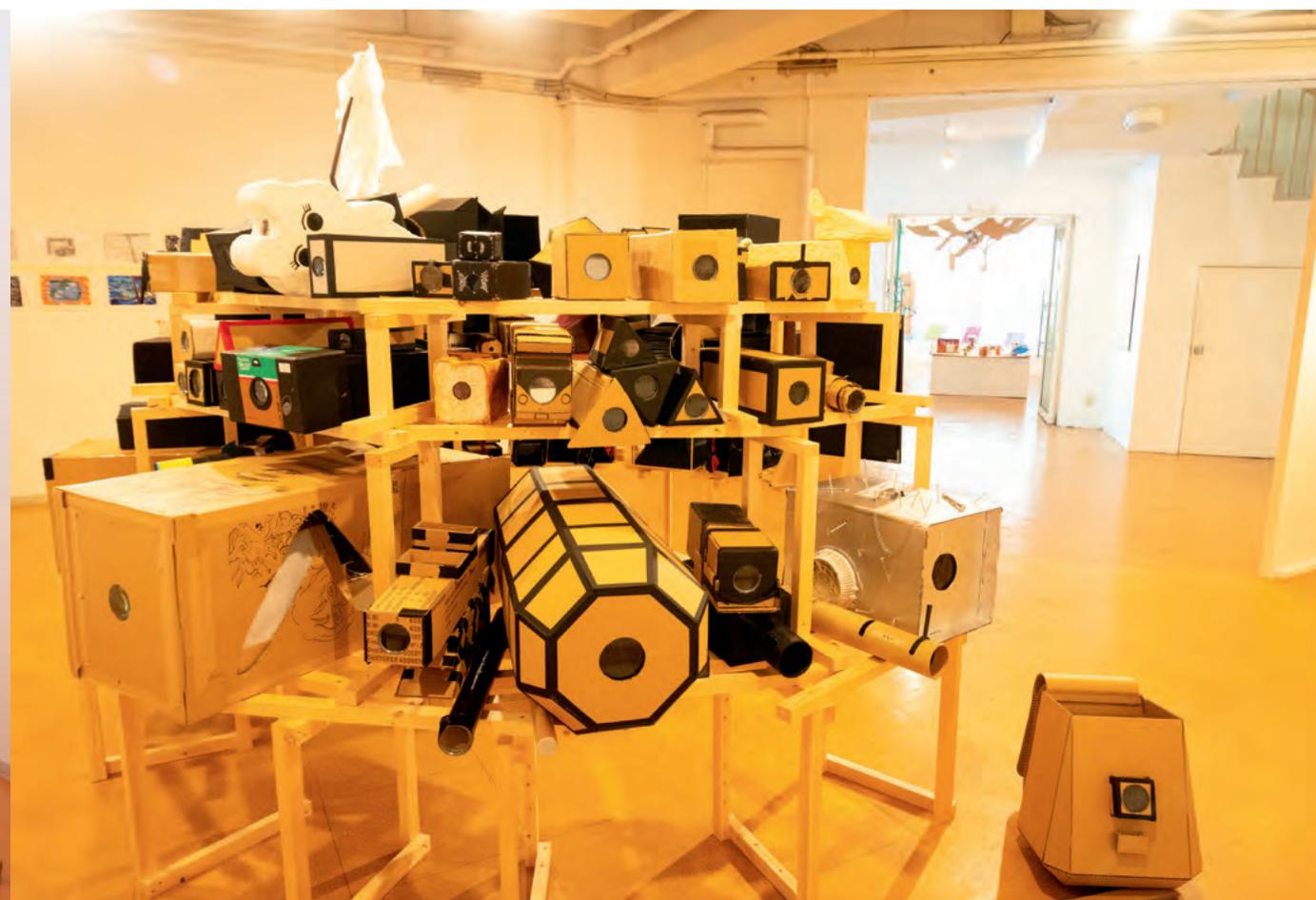
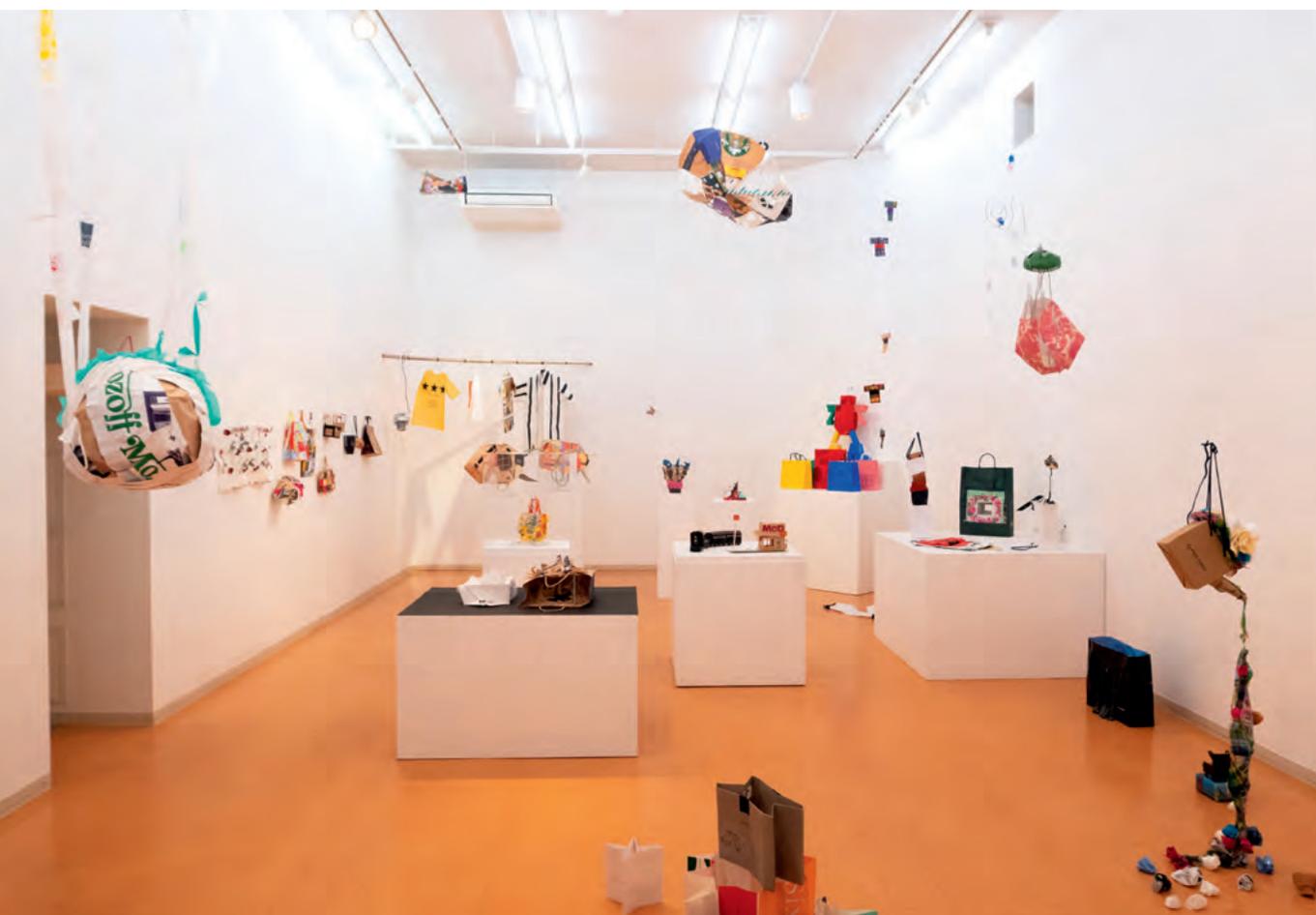
主催
京都精華大学
芸術学部造形学科
1年次共通教育 体幹教育



京都精華大学・芸術学部にて2017年度より新たに始まった1年次共通教育のひとつ「体幹教育」。

本年度後期は「対象のトランスフォーメーション」(彫刻基礎)と「表現のバリエーション」(デザイン基礎)という2つのカリキュラムに、芸術学部1年生全員が挑んだ。

鑄造、サイト・スペシフィック作品、インスタレーション、新たなスポーツの考案、カメラ・オブスクラ、お手軽版画、ZINE制作、サウンドパフォーマンスや実写アニメーション、そして制作物を再利用した空間構成。体幹教育における、多岐にわたる学生の試みの成果物を一同に展示した。



申請展

京都精華大学展2019 大学院展
[芸術研究科・デザイン研究科・マンガ研究科]
1年生研究制作展

2019年 1月27日[日] - 2月2日[土]

開館時間 10:00 - 18:00

出展作家 芸術研究科/デザイン研究科/
マンガ研究科(カートゥーン専攻)1年生

関連イベント

芸術研究科M1フロール展公開講評会

日時 2月1日[金]14:00 - 17:00

ゲスト 島本 浣(京都精華大学名誉教授)/ 鯖江 秀樹(京都精華大学教員)



申請展

京都精華大学展2019大学院展
[芸術研究科・デザイン研究科]
2年生修了制作展

2019年 2月13日[水] - 2月17日[日]

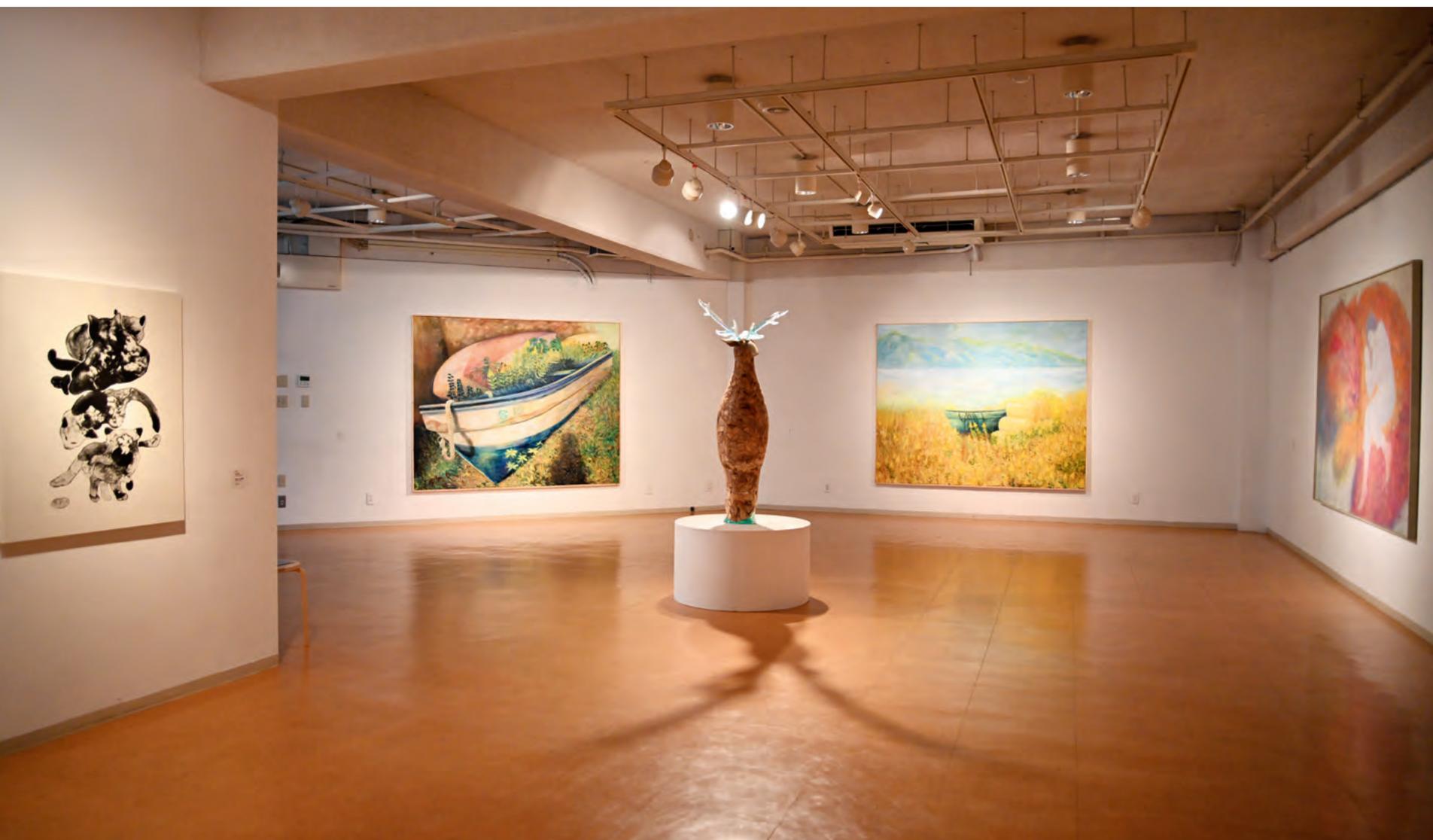
開館時間 10:00 - 17:00

出展作家 芸術研究科/デザイン研究科2年生



関連イベント

講演会&公開講評会
「美術のまじわるところ
-アーティストとともにプログラムをつくること」
日時 2月13日[水]14:00-16:20
ゲスト 伊藤まゆみ
(公益財団法人東京都歴史文化財団
東京都現代美術館トキョーアーツアンド
スペース事業課企画調整係長)



創造的ドローイング —作家になるために—

2019年 2月26日[火]—3月2日[土]

開館時間 10:00—18:00 ※最終日は16:00まで

主催 北山善夫

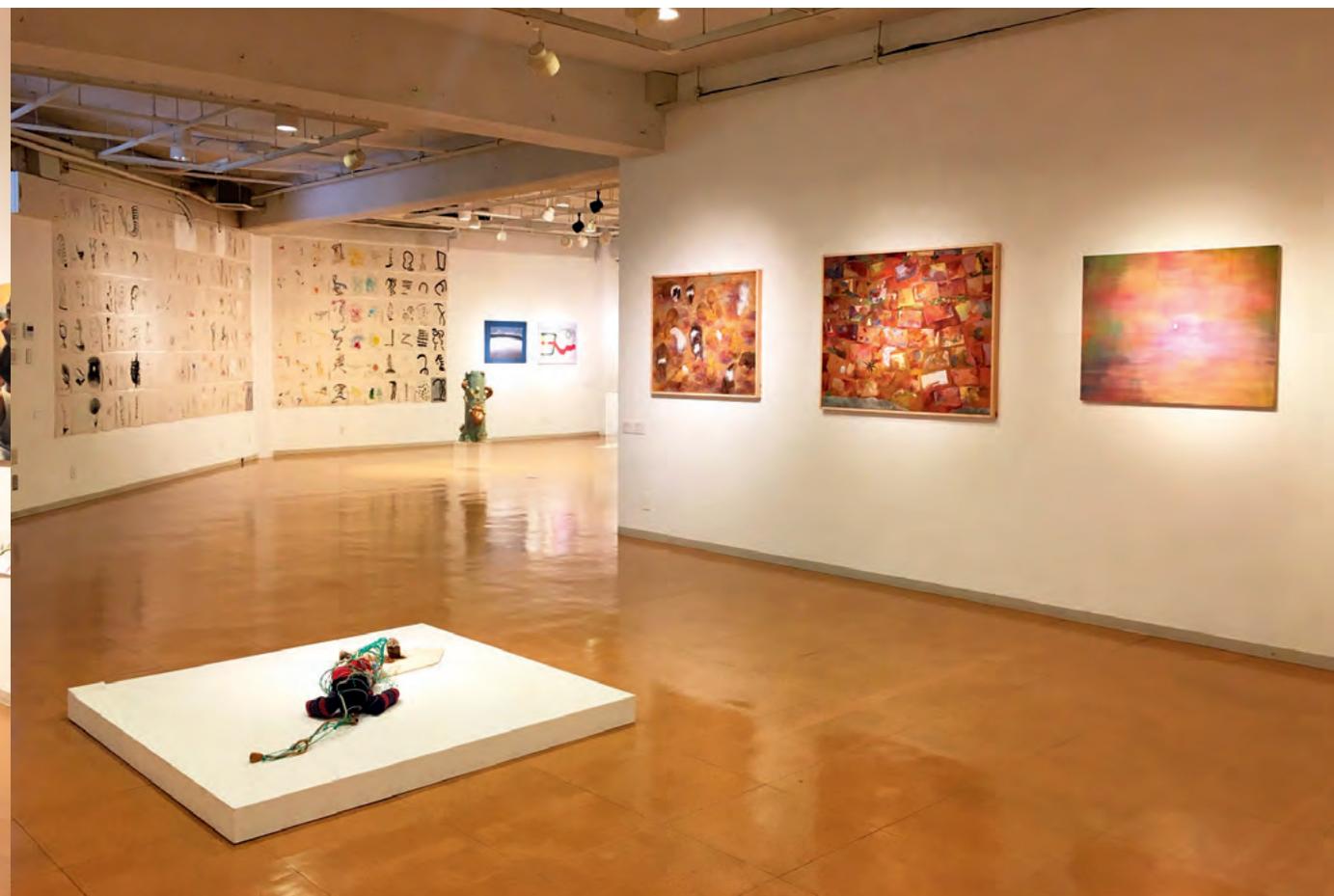
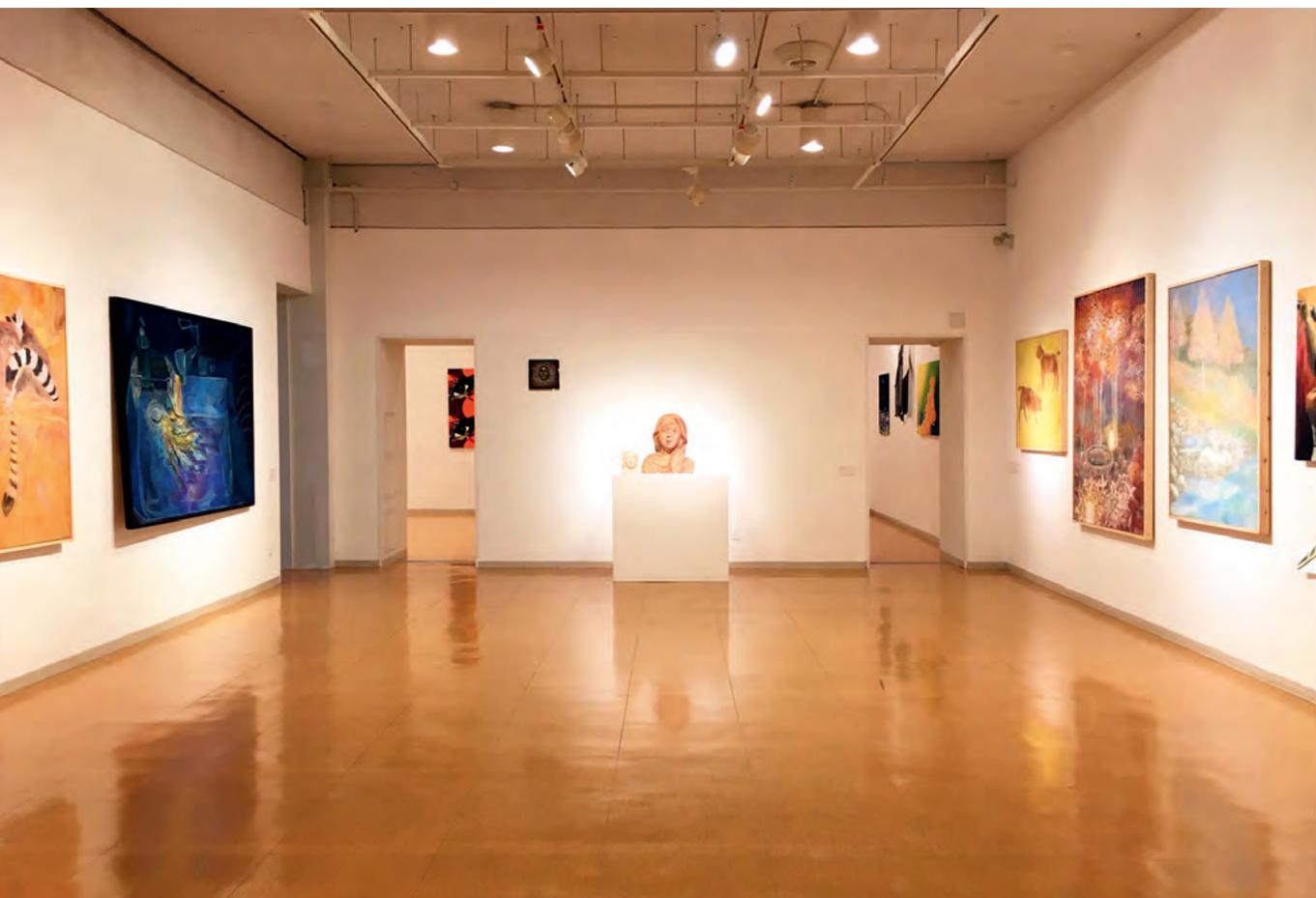
創造的ドローイングが授業名であるが、この授業は「作家になるために」とサブタイトルにしている。ドローイングによって学生は自分の創造の限界に切り込んでいる。しかし、ドローイングは作品としては前段階である。だから最終的には作品も制作・発表することになっている。展覧会というステージで、表現の統一現場を各学生は体験することになった。

関連イベント

公開合評

日時 3月2日[土]14:00—

島本流氏(美術史家)をお迎えして、北山善夫とともに公開合評を行った。



「かくこと、きくこと、つくること」

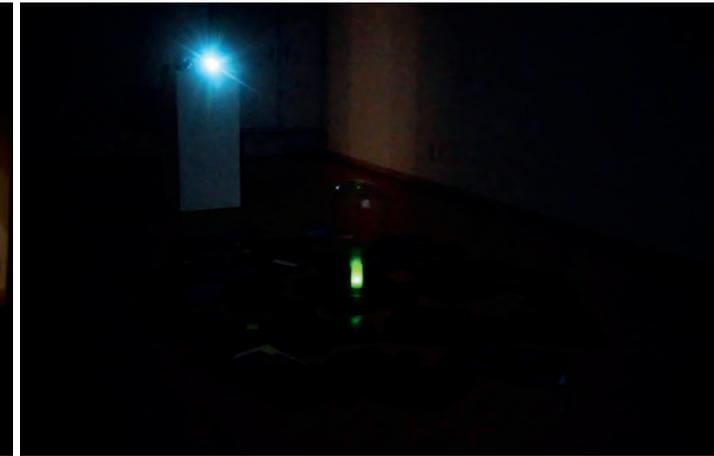
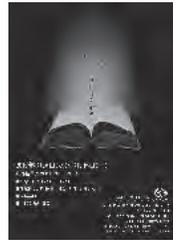
勇内真美個展

2019年 3月6日[水] - 3月16日[土]

休館日 3月10日[日]/14日[木]

開館時間 12:00 - 17:00

主催 勇内真美



「美術大学の博士課程はどんな論文を書くの？」
「何のために論文を書くの？」
よくこう尋ねられる。
大学院博士後期課程に在籍し、
「フォトグラム」でもある、
「光の版画」に関する論文を執筆する中、
現地点での表現のカタチを本展覧会で提示した。

京都精華大学展2019 作品選抜展

2019年3月24日〔日〕

開館時間 10:00-17:00

主催 京都精華大学広報グループ



2019年2月に開催した「京都精華大学展2019 -卒業・修了発表展-」から選抜作品を集めた展覧会を開催。



2018年度来場者数

展覧会名	来場者数
ビジュアルデザイン学科3年生 プロジェクト授業成果発表「パンプアップ展」	272
京都国際マンガ展20年の軌跡	316
京都精華大学50周年記念 「アスピレーションズ—8つの扉」	892
体幹教育前期学修成果発表2018	437
合同陶芸展	169
No-interaction	118
Obsession Conception Possession	185
SEIKA JACK	881
ここん 京都精華大学 嵯峨御流華道同好会 第21回華展	157
共生社会の実現に向けて 二歩目を踏み出す展覧会	175
2018年度「京都の伝統産業実習」報告展	302
京都精華大学50周年記念 「石黒宗彦と八瀬陶窯—五〇年目の窯出し—」	584
タイカン後期学修成果発表2018	114
京都精華大学展2019 大学院展 [芸術研究科・デザイン研究科・マンガ研究科] 1年生研究制作展	215
京都精華大学展2019 大学院展 [芸術研究科・デザイン研究科] 2年生修了制作展	952
創造的ドローイング—作家になるために—	96
「かくこと、きくこと、つくること」勇内真美個展	57
京都精華大学展2019 作品選抜展	483
年間合計	6405

利用案内



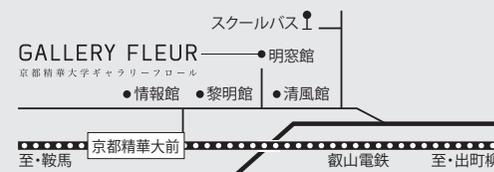
GALLERY FLEUR

京都精華大学ギャラリーフロール

京都精華大学 明窓館1・2階の一部
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

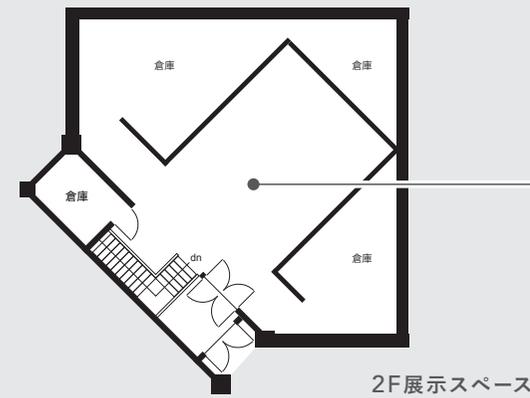
開館日 展覧会開催期間
休館日 日曜日・祝日・大学が定めた日
開館時間 10:00-18:00(展覧会により異なる)
入場料 無料

お問い合わせ
研究推進グループ ギャラリーフロール 担当
京都精華大学 本館2階
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
TEL 075-702-5263
FAX 075-722-5440
E-MAIL fleur@kyoto-seika.ac.jp

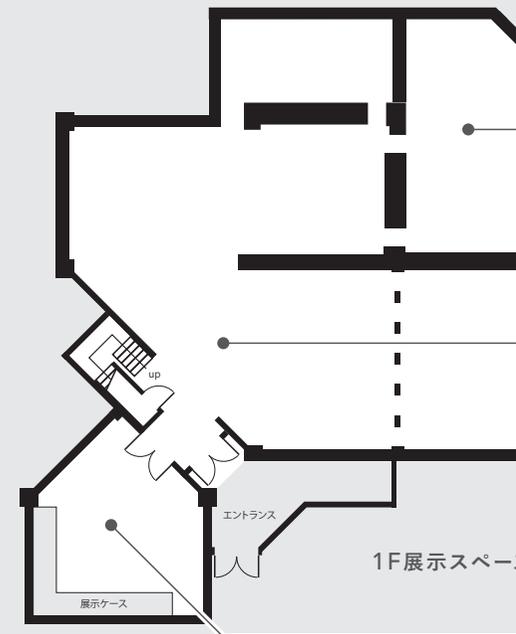


□ 叡山電鉄鞍馬線「京都精華大前」下車
□ 地下鉄烏丸線「国際会館」下車、3番出口よりスクールバス
※ 駐車場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

施設図面



2F 展示スペース



1F 展示スペース



京都精華大学ギャラリーフロール
2018年度活動報告

発行日 2019年3月31日

発行元 京都精華大学展示コミュニケーションセンター

デザイン 加瀬部敏志

